

前三要素の反復により兒童個々の本質を愈々發揮し得られるのである。斯うした鍛錬の究竟の目標が隨所作主にあることは前編にも詳述された所である。肚の坐つた人間とは急所を掴んで縦横自在に活動し得る人のことであり、名人、達人と言はれる人々は、物ごとの機微に徹して之を日常の生活に自由に顯現し得る人の意である。欲する所に隨つて則を越えざる心境は直ちに兒童に望み得ないにしても、それへの到達を目ざして基礎的鍊成を行ふところに吾々の使命が託されてゐるのである。

四 人物鍊成の具體的指標

一 特殊的個性の把握

我々が目指す所の人物鍊成は、先づ兒童各自の特殊的個性を把握し、此の把握した特殊性に夫々適應した所の教育を施し、それによつて普遍的個性——價值的個性——の圓滿なる伸展を圖り、此の個性的唯一性を以て我が國の文化の建設に寄與し、皇運扶翼の實を擧げ得る人物たらしめることにある。隨つて我々の念願する個性教育の最初の營爲は、兒童各自が先天的又は後天的に保持してゐる特殊的個性を正しく把握することに始まる。

特殊的個性は、兒童各自の性格（品性を含む）、身體、智能を透して把握することが出来る。否それらが綜合されたところの行動そのものの中に示現されることが多いから、我等の瞳は先づ彼等の行動そのものに注がねばならぬ。行動を通して性格を觀、得た所の性格を基礎として更に生活を見直すといふ圓環的觀察、性格構成の母體たる身體的特殊性の把握、及び性格に與へる教養の根源たる智能的素質の究明などは、個性教育最初の段階として缺く可からざる要點である。

二 即應教育

特殊的個性を把握した後に於ては、之に即應した教育が行はねばならぬ。之には次の二つの方法が豫想せられる。

一 消極的即應教育

兒童個々の特殊性能に應じて、教育可能の限界を考へ、教材の難易、方法の適否を工夫して、兒童の性能に適合した指導を加へる意味の教育法である。即ち高能兒には高能兒に即應した教材を與へ、力の許す限りの學習をなさしめ、能力の低い者にはそれに適當した教材を與へ、自己の全力を盡せば何の苦痛もなく學習し得られるといふ状態に置くところの教育の意味である。優良兒教育と言ひ低能兒教育といふも、その多くは斯かる意味の教育を目標とし、之を個人的、或は社會的な立場から、最も必要な教育形態として論じられてゐるのである。

二 積極的即應教育

人物鍊成の個性教育に於ては、前記の消極的な即應教育のみを以てしては満足されな
いものがある。兒童の天賦の素質として把握したものが、果して絶對的なものであるか否かに就いて今一應あらゆる角度から検討を試み、其の原因を究明して積極的な治療、鍊成を加へなければならぬ。

例を學習にとつて考へて見ても、學業成績と言ふ一行動面のみを見て智能的素質の優劣を評價し、消極的即應教育をなすを以て能事終れりとするならば、之は未だ個性教育の眞諦に徹したものと云ふことは出来ない。其の性格、其の身體、其の環境に十分な調査と觀察を如へ、之等が智能に與へてゐる影響を把握して之を如何に處置するかを考へるところの教育法こそ重視される可きものではなからうか。

身體、性格に於てもこのことは言ひ得る。吾等同人は勿論前記の消極的教育法を忘れるものではない。然し人間鍊成の個性教育は全一的生命體としての兒童の個々を常に教育の對象とすべきであるから、性格、智能、身體を一連の關聯體として考察する意味に於て、積極的な即應教育を重視せざるを得ない。以下述べるところの即應教育の實際も多く此の立場に立つての實踐記録であることを諒せられ度い。

五 性格把握と即應教育

一 性格把握の機會と方法

(一) 基礎調査 第一編にも精しく述べられた様に、當教室は尋二の入學當初から最終學年まで持上りの擔任制度で

あるから、新學年の擔任者はやがて生れ出る子を懐胎した母親のやうな責任を自覺する。強く、雄々しく皇民道を行じて行くことの出来る子等として國家に送り出す日の喜びを考へれば考へる程、擔任當初の悩みは大きい。一齊的に行ふ指導や訓練は容易であつても、それが始めから強制である兒童もあるであらうし、又軟弱に過ぎる場合も絶無とは言ひ難い。此の現實の問題に對して誰しも一度は深い悩みに陥る。それは勿論内に喜びを孕んだ悩みにはちがひないが——。さうして誰しもが一樣に考へることは、先づ入學して來る兒童の個性的なもの、教育の手がかりとして一齊的な指導や鍊成の間にも、遊びや作業の間にも、常に留意したい點の把握に努め様とする。そこで家庭への問ひ合せと學校に於ける日常生活の觀察とが計畫される。

一、家庭への問合せ 當校は新學期の始業式は四月八日で、入學式は十日であるから其の間に問合せ用紙を準備して置き入學式の席上附添の保護者に手渡されるのが普通である。個性把握の方法は此の外にも色々あるけれども、その何れよりも最も眞實な資料を提供してくれるものは、兒童の親、特に母親の回答である。

子を觀る事は親に如く者は無い。親の慾目といふ事はあるが、少々の慾目が加つたとしても我が子の個性は其の親が最もよく理解して居る筈である。よく「比較するものがないので。」と謙遜らしい言葉を口にされる親もあるが、事實は親程他兒童と我が子とを比較してゐる者はない。他人の子供を見れば直に自分の子供を思ひ、他の子供の噂が出れば直に自分の子供の事に考へ及ぶ。現在比較にならぬ程の年齢の差のある子供を見ても「自分の子供があの年頃には。」と過去に遡つたり將來を想像したりしてまで比較しようとする。體格、言語、動作、智能、性格、何一つ親にわからぬ事はないのである。此の親の回答を求めて個性教育の手懸りとする事は最も合理的な方法といふ可きで

ある。

ところが親の中には学校教育の眞意を解さなかつたり、學校への信頼を缺く爲に、わざと虚偽の回答をなす場合もないではない。「せめて親だけでも、子供の爲に隠してやらなければ、子供は浮ぶ瀬もない。」等との浅い考へからであらうが、之も擔任や學校の誠意さへ通ずればやがて解消する問題であらう。殊に當教室のやうに入學式に於て十分に學校の立場や、教育方針や、現在の在學兒童の生活様式等を理解して歸宅する保護者達には決して偽りや不誠實な應答はされないのである。

其處で如何なる點を問ひ合せるか——要は兒童の身體、性行の特殊的なものを把握すればよいわけであるがそれを親達にも容易に解答し得る様な、又具體的に正確に具申し得られる様な書式によらなければならない——が問題である。中でも擔任教師が最も知り度い點は、

1 環境 此處では兒童の家庭及び家庭の所在地、家庭構成の要素（家族人）等を總括した環境を意味する。兒童の個性が家庭によつて芽生え、家族の影響や附近の交友、住民、自然等によつて形成されることは言ふまでもないことで之に就いて一應の理解を持つことは今後の個性觀察の上にどれだけ大きな役立ちを持つか知れない。特に家庭の所在地を圖示し、乗物、通路の概要、電話番号、通學時間等記載した回答を得て置けば、火急の場合の用件達成にも、個別訪問にも極めて便利である。又地圖を一見して教育的環境としての適否を想起することも出来、即應教育には不可欠の資料となる。

2 個人歴 兒童の過去に於ける發育形態は現在の個性形成に重大な關係を有する。醫家の用ふるカルテ程嚴密なものでもなくても、今日までに於ける發育の状態、重大疾病、發育に影響のあつたと思はれる様な不慮の障害、家族及び環境の異動、奇癖、良（悪）習慣等に就いて赤裸々な報告を受けて置くことは、教育診斷の上に大いなる参考となるものである。

3 現在の生活型 現在の交友關係とか、家庭での遊びの様相とか、家庭學習の態度、性行、身體狀況、偏食の有無等は兒童個性の行動面として是非知悉して置き度い問題である。

4 家庭の教育方針 家庭の教育方針及びそれについての躰の概要を知つておくことは極めて大切なことである。學校からのみ家庭へ協力を希望しても、家庭から學校への希望を述べる機会がなければ、眞の協力にならない。家庭の教育方針に協力するといふことも大いなる教育實踐の一つであるからである。

5 その他 以上の各項に該當しない事項で特に擔任だけに諒解を得て置き度いと考へる問題も尠くないことであらうから、此の一欄は是非用意して置き度いものである。

6 擔任の所見 各要項の下段に三四種の空欄を残して置けば之に即應教育の要項を記入することが出来、整理上便利である。

之等の要項をプリントし保護者から回答を求める。回答を受けたならば早速整理にかゝる。親心に立つ擔任者は寸時も早く全兒の個々の姿態を把握し度いものと夜を徹しての整理が開始される。やつと名前を覺えただけの兒童の環境が、成長歴が、現在の性行が段々とはつきりして來るので迷ひの雲が漸次霧散して行く思ひだ。中にはあの子がと驚かされる點もあり、これではと思はず小首をかしげざるを得ない兒童もある。斯うして整理してゐる中に、此の兒

童には此の點を、此の兒童は此の方法でと、既に即應教育の根本方針が立ち始める。次に今年度使用の回答例及び所見の一端を掲げることとする。

現住所	電 話		兒童名	生 年 月 日	職 業 又 は 學 校	擔 任 所 見
	呼 自	畧				
通學時間(徒歩區間三分、電車區間十分)	地 圖 畧		父	母	祖 母	弟 姉
<p>今日までの發育に影響のあつたと思はれる出來事</p> <p>○昭和十三年市の健康幼兒審査會に優良賞を受けました</p> <p>○△△幼稚園の保育方針が情操の上に非常に良い影響を與へたと思ひます</p>						
家庭の教育方針			<p>一、ごんな子供に育てたいとお考へですか</p> <p>○ゆつたりとした中に澁潤たる氣分を持つた子供をしたいと思います考へてゐます</p> <p>二、その爲にごんな躰をなさつてゐられますか</p> <p>○責任は早く果し氣にかゝるものをなくすること</p> <p>○言葉をばつきりさせることに努めてゐます</p>			
歴 人 個			<p>性格陶冶を重視</p> <p>祖母への逃避を注意</p>			

家庭に於ける生活活型

<p>一、交友關係(御家庭で日常遊び相手となる子供さんの性質、學校、學年等)</p> <p>○主として家庭に於て姉、弟と遊びます</p> <p>○最近○○○より歸朝の明朗な性質の○年生男子とよく遊んでゐます</p>	<p>二、家庭での遊び(主としてごんな事に興味を持たれますか)</p> <p>○朝冷水摩擦後木刀にて父と共に撃ち込み百本を行ひます</p> <p>○兵隊遊び、野球、競争、木登り</p> <p>○特に木工に興味を有し又妻の畑地にて土に親しんで遊びます</p>	<p>三、兒童身邊の世話(お母様或は女中にお任せですか、又は自分でいたしますか)</p> <p>○主に母がいたして居りますが成る可く自分でする習慣をつけるやう努めて居ります</p>	<p>四、勉強時間及輔導(歸宅後直に、夕食後、ごなたによりどの程度の指導をなさいますか)</p> <p>○歸宅後直ちに又は夕食後母が復習を主として特に宿題作業を督勵いたします</p>	<p>五、性行についてお氣附の點</p> <p>○快活明朗性の子供ですが、至つて氣が弱く意氣地がないので直ぐに涙を見せますのが困りものです。よろしく御鞭撻御教導の程を願ひます</p>	<p>六、身體狀況及偏食について</p> <p>○お見かけの通りの體格で發育も良き方かと考へてゐます至つて健康で偏食はありません</p>	<p>七、其の他について</p> <p>○氣だてのやさしい子であるご祖母も可愛がります。近所の子供にも氣受けがよく、ごなたにもよく遊んでいたゞくやうです</p> <p>○家禽、家畜を特別に可愛がりその世話を樂しみ親しんでゐます</p>
<p>朝氣に缺けるところはないか</p>	<p>持續力は? 巧緻性は?</p>	<p>母は助力せず見守りが必要</p>	<p>早く母の手を離れるやう</p>	<p>祖母の影響か?</p>	<p>積極的な鍛錬</p>	<p>學校内に於ける交友關係に注意</p> <p>學校でも獎勵すること</p>

(二) 不斷の觀察 前節の基礎的調査は主として入學當初の性格陶冶に活用されるわけであるが、更に之を基調として二段三段の性格把握の方法が工夫されねばならぬ。其の最も具體的であつて然も最も容易な方法は擔任教師の不斷の觀察であるから、以下之に就いて當校の態度を明らかにして置かうと思ふ。

(一) 擔任教師の觀察記録 最近の科學——殊に心理學——は吾々に智能検査法とか情意検査の方法を教へた。當校に於ても其の科學的なるに共鳴し、其の教ふる所を尊重して、屢々之による調査を實施し、其の妥當なる結果を發表した。然し吾々の教育實踐は、常に兒童個々の姿態を見つめて、何等功を急ぐ事なく、營々其の鍊成に努む可きであるから、斯うした科學的な調査を尊重すると同時に、他方我が國古來の民族的・傳統的特質の一つである「勘」による個性把握も重視されなくてはならぬと考へる。教師自身が抱く兒童への眞愛の情は、どうして科學以上のものを把握し得ないと斷言出來よう。人物鍊成を指す當教室同人が、科學的調査法にのみ依據することに満足せずして日常の兒童の行動全體に注目の重點を置いた所以は此處に存する。「事上鍊磨」や「今の充實」を期する同人の教育方針は、期せずして、兒童の今の行動を重視し、其の中に鍊成さる可き性格の一つ々を見出さうとする。そこにたゆみなき觀察行の實踐があり、事上鍊磨の契機の把握がある。然しながら兒童の今の行動の中に見出されるものは、兒童の性格の一部分でしかあり得ない。性格の一部分をのみ捉へて全體的な性格——個性——の鍊成を忘れた教育は眞の教育ではない。其處に自ら記録の必要が生ずる。個性の片鱗として把握されたものも集積によつて全貌を捉へることが可能である。斯くして吾等同人の手許には夫々の計畫による觀察簿が準備され、日々の教育實踐の中に把握せられた性格的なものが大小となく記録されてゐる。一訓導が○見よ

り得た記録の一部を舉げて見るならば、

- 落着がなく始終キョロ／＼してゐる。
- 靜坐の時も人が目をつむつてゐるのにいつまでも目を開いてゐる。
- 机に向つても身體をじつとさせておくことが出來ず、すぐ足を横へ出して姿勢をくづしてゐる。(五、六)
- 算術の宿題を忘れた。(五、八)
- 「守禮—謙讓—謙讓」の理解が大へん遅かつた。(五、九)
- 教室で不要なことをよく言つてゐる。(五、一〇)
- 算術の宿題を忘れた。(五、一一)
- 教師が行くまで殆んど毎時間靜坐をせず席を立つてゐるので席を一番前へ出した。運動場の窓際。(五、一三)
- 體操にも身が入らぬ。(五、一三)
- 今日まで氣張れば席をもとへもどすと言つてあつたので大變氣張つてゐた。席をもどす。(五、一六)
- 讀本を讀むのは余り上手でない。(五、一七)
- 圖書室でやかましく言つてゐたが、結局本をしまはしないで出て行つたので注意すると「忘れてゐた。」と平氣で言つてゐる。(五、二〇)

——この間二十行省略——

○母との懇談後、やゝ態度がよくなつたがまだ少し目玉がきよろ／＼する。(六、七)

○書取の字が美しくなつた。美化作業にも氣張つてやるようになったし讀方の考査も成績よし。然しほめられてからまた態度が崩れた。(六、七) — 以下省略 —

斯うした殆んど連日の記録が、全兒に就いて行はれるのである。學年によつては、隔日に半數づゝ記載するとか、一分團づゝ交互に記録するとか方法上には種々考慮が拂はれてゐる。

特別の事柄に關しては一頁、二頁に亘る詳細な記録が行はれる事も珍らしくない。

又夏季臨海生活訓練期間とか、敬身堂に於ける春秋の生活訓練期間は一層兒童の性格を把握するのによい機會であるから、その時は十分に觀察記録が行はれるが、其の例は後に引用するから此處では省略することとする。

以上述べた様な擔任教師の不斷の觀察及び記録が、性格陶冶の主體となることは勿論であるが、更に之を補ふ爲に次の諸方法が考へられてゐる。

(三) 全職員の觀察 當教室は兒童全員百八名、職員五名(昭和十五年八月現在)と言ふ家族的(塾的)教室であるので、全職員が常に全部の兒童と接觸し、全兒を自己の擔任兒童の如き感を以て訓育しつゝあるのである。勿論各學年擔任が當該學級の指導、訓育の責任を主宰するのであるが、擔任以外の職員と雖も決して其の學級兒童に無關心ではないのである。随つて何時如何なる場合にも當教室の兒童の誰れかに就いての質問があれば即座に回答し得るだけの觀察を加へて居る。兒童總數が僅少であると言ふことが此の方法に成功せしめてゐる主な原因であるが、特に次の如き學校經營上の施設が大いなる役立ちとなつてゐることも事實である。

1 學科擔任制の重視 學級擔任制を本體とする一方更に學科擔任制を加味してゐる。之は勿論優良兒教育には專

門的研究を重ねてゐる者が指導に當つた方が能率的であると言ふ一面もあるか、それよりもむしろ訓育方面に重點を置いてゐるのである。全校兒童を教育するとの全體主義的信念の下に各人専門の指導をなすのであるから、普通に言はれてゐる様な學科擔任制の弊と言ふやうなものは起らない。そのみならず、

① 擔任指導の氣附いてゐない學級的個性を把握し採長補短の實を早期に擧げることが出来る。
② 兒童の能力、學習態度、個性等に客觀的な觀察を加へることが出来るから、學級擔任と協力して錬成の効果を十分に擧げることが出来る。

③ 各學年共通の缺陷又は短所を早期に發見し、施設及び學校經營の上に具體的な研究資料を提供することが出来る。

④ 學習能率を高め個別指導も十分に行ふことが出来る。

⑤ すべての問題に就いて擔任指導の獨斷の弊を補ひ、合理妥當な判斷を下すことが出来る。

⑥ 個性教育の實際に就いても全職員が指標を一つにして進むから、其の効果は極めて顯著である。等の長所を多分に持つてゐる。

2 交換授業の實施 たとへば算術の時間に四年生の擔任が三年の算術を、三年生の擔任が四年生の算術を擔當するといふ様に同時間に學年だけを交換して指導する方法である。此の方法によると三年の擔任は四年を、四年の擔任は三年を殆んど毎日指導することになるので、副擔任と言つた責任感を感じる。随つて交換學級の兒童の性格、智能等には十分に通じることが出来る。

3 班組織 児童百八名を八班に組織しあらゆる作業、朝會、行事等は必ず班長の指揮下に於て實踐することになつてゐる。その時職員は監督的立場に立つて二班乃至三班の児童と活動を共にするから其の都度児童各自の個性的萌芽に接し得る。

4 臨海生活訓練 夏期の臨海生活訓練期間は参加児童と職員とが、十日間生活を共にし、終日親子以上の親しさを以つて接觸するのであるから、其の間には性格も、行動も、智能も、殆んどすべてを把握することが出来る。

以上の四制度は不知不識の間に教室児童全體を自己の擔當として、鍊成に協力せしめる契機となり、即應教育の上に有形無形の影響をもたらすことになるのである。

(三) 教生觀察記録 當教室に於ては毎學期八名内外の教生が配屬される事になつてゐる。教生と雖も當教室の職員として待遇し、児童をして訓導と變りの無い儀禮を盡させてゐるが、實習期間中特に擔任學級の児童觀察に留意させ、終了迄に觀察記録を作製する様依頼する。短期間の實習中の觀察が果して正鵠を得たものであるかどうかは疑問であるが左記の點に於て、參考としての價値は十分に認めることが出来る。

1 教生觀察の特徴

- ① 児童との接觸面が非常に廣く、特に休憩時、掃除其の他の作業時、訓導不在の場合等に於ける比較的児童の本姿の赤裸々に表現され易い時に觀察する事が出来るから、擔任訓導及び他職員の觀察し得ない部面の觀察をなし得る場合が少くない。
- ② 何等の先入主もなく純眞に觀察出来るから客觀性が非常に多い。

① 學期毎に觀察者がかかるから、児童の心意、性格の變化や教育による發達の過程がよく理解される。等の特徴をもつてゐる。

2 記録の實例

① 二年間に互る一児童の觀察記録

○ 兒に對する教生の觀察記録 <small>(自昭和十四年一學期 至昭和十五年一學期)</small>	
者録記 記 録 事 項 〇 組での腕白者の一人だと思ふ。非常に惡戯が多い。此の間、展覽會見學の際K君ミスリツパで叩き合ひの喧嘩をした。 〇 「先生々々」言つて教室内でも運動場でも附きまこひよく話をする。その態度の中に私等を軽く見てゐる所があるやうな氣がして不愉快だ。 〇 掃除當番でも少しも掃除せず怠る。何時も黒板の前にあるか、窓から外を眺めてゐる。さうして文句は一人前言ふ。 〇 然し腕白だけにはつきりしてゐて男性的である。 〇 よく考へもせずに「ハイ」言つて手を舉げてあて、みるますぐ返事の出来ない時が時々ある。 〇 授業中にひちを机の上に置き頸の處に手をつく癖がある。	擔任の所見 自制心に乏しい 明朗で親しみ易い所があるが親交型ではない 外向性 我がまゝ——家庭の躰の不足からか 快活、男性的 輕舉

ロ

- もう少し落ち着きがほしい。
- 喧嘩がすきらしい、口論などもよくする。
- 自分勝手な所もある。

△自然研究の時、蜜柑の研究があつたが、自分の持つて来た蜜柑はしまつておいて人のばかりを調べたり喰べたりしてゐた。

- 授業中「ハイ〜」と言ふ聲が特に大きい。
- よくしゃべる、それも聲が大きいものだから一番目立つ。
- 勉強はよく出来る方だ。

(消聲)

ハ

授業中

- よく手をあげます
 - 発表もかなり上手な様ですが、粗雑な感じがします。
 - 綴方が得意のやうです
 - 心に落着かないやうです
 - いつもそは〜してゐます。
- 遊ぶ時
- おもしろく遊んでゐます。
 - なか〜元気でK君なんかよく喧嘩をします。
- 掃除
- よくやりますが、あまりいいいではありません。



㊦ 高學年兒童の性格 高學年兒童になると性格的なもののはつきり表はれて來るので教生の把握した所も本質を突いたものが多い。二三例を挙げると

① A兒 家庭的環境からか何だか寂しい所がある。教室で完全にわかる發問にも手を挙げない時がある。一寸陰險な眼つきをしてゐるが、私から話しかけるととびついて來、私が離れると、今までの事を忘れた様にしよんぼりと淋しさうにしてゐる。何か家庭的に欠陥があるのではないか。運動神経もよく發達してゐるし、すばしこい所があるから導き方によつてはもつと明朗活潑になれる筈である。

② B兒 利己的な所が目立つて現はれる一方世話焼である。常識にたけてゐる。わるくいへばませてゐる方である。要領人といふ型。掃除は一生懸命やつてゐるやうであるが、實はよくなまける。意志は強さうに見えて其の實薄弱である。忍耐力に乏しい。人に負けるのをひどく嫌ふ。動作は活潑である。自分の正しいと思ふ事は飽くまでも主張する性質。

③ C兒 生徒同志の意見は勿論、先生の注意もなか〜受け容れない。頑固なところがある。少し大陸的に出來てゐる。なか〜のしつかり者である。掃除當當の場合など無口でこつ〜やる。ねばり強い性質を持つてゐる。おとなしく見えるが、遊ぶ時、競技の時等非常に元氣ある運動をする。意志の力の相當強い子供である。

④ D兒 始めて接した時は冷たく感じられる様であるが仲々稚氣満々たる所がある。頭がよすぎるのかも知れない。運動能力に富み巧緻性もよく發達してゐる。讀方と理科が最も得意らしい。大へんしつかりしてゐる。もう少し丈夫にならないのか。

⑤E兒 少しがさくして落着きがない。注意散漫である。然しよく導けば物事を考へて行かうとする風が見える。正義心に強い。得た事は全部人に告げずには置かないといふ性質。

3 活用上の態度 教生の把握した児童個々の特殊性格は教生自身の個性を通しての観察であるから、擔任としてはそのまま全部を承認することは出来ない。唯と斯かる観方をされる一面をも有してゐる児童として再観察の資料とすることは事實である。斯うした意味に於て我等は此の記録を重視し記述の勞を多としてゐるのである。

(四) 兒童相互の觀察 親に次いで相互交渉の深いものは兒童相互である。場合によつては親、兄弟、教師以上に理解しあつてゐるといふ場合も少くない。随つてその相互觀察を活用するといふことも全く無意義なことではないと考へ私は次の方法によつて意圖的に之が調査を行つて見た。

- 1、學級兒二十四名を二分團に分ち、一回に半數づゝの兒童が相互に性行を批判し合ふやうに企劃した。
- 2、記述の要點は次表に示す二項とし、夫々例を擧げて記述を容易ならしめておく。
- 3、調査用紙は次の書式を用ひた。

お友達の長所と短所		第	學年	氏名
友達の名	問 上の人の長所(えらいと思ふこと)はどんなところですか例をあげて書いて下さい。			
問	問 上の人に注意してあげたいと思ふことはどんなことですか例をあげて書いて下さい。			
○○君	(例) 誰にでも親切で運動の仲間にもすぐ入れてくれる。			(例) もう少し元氣を出して男らしい人になつてほしい。

△△君

4、實施に當つては個性調査の意味を自覺させ、次の指示を與へた後記述にかゝらせた。

- 教師の觀方と諸君の觀方とちがつてゐないかどうか調べる爲に書くものであるから眞實を書かねばならぬ。
- 友達の惡口を書くのでは決してない。良いことも悪いこともありのまゝに書かねばならぬ。
- 思ひつきでなく責任のある答を書くこと。
- 特に「注意してあげたいこと。」の欄はその人をよくする爲に眞心から忠告してあげるつもりで書くこと。
- 教師だけが見るものであるから遠慮せずにかくことが大切だが、作り事や無責任な事は絶導にいけない。
- 誰もがよく知りつくしてゐるやうな事は省いて、なる可く自分だけが氣附いてゐるといふやうな事をくはしく書くこと。

5、此調査の處理は相當に苦心を要したが、之を根氣よく整理した結果は性格把握の上に相當有力な參考となることが理解された。唯どこまでも兒童の觀察といふことを忘れず、教師の叡智の篩にかけた後でないといふ活用出来るものであることは特に銘記して置かねばならぬ。整理の一例を擧げるならば、

児童相互観察記録		実施年月日	昭和	年	月	日	
児童名	○ 兒	所	短	長	所	所	
児童の観察	<ul style="list-style-type: none"> ○親切だ、わからぬことは何でも教へてくれる(U) ○負けん気が強い(S・S) ○辨當の時面白い話をする、面白い人だ(T) ○面白く愉快だ、負けん気も強い(O) ○運動の時大變技がすぐれてゐる(T) ○あまりよく運動するので感心してゐる(U) ○毎日遠い所から来るから感心だ(K) ○親切だ、遊びに行つた時附近のこまごま呼に教へてくれた(P) ○僕が小便をしてゐた時僕が「僕の小便なんて黄色いのだらう」といふことかかれてゐるし「や」も親切に教へてくれた(R) 	擔任所見	<ul style="list-style-type: none"> 不揃の力あり 快活ユ 1モア に富む 	児童の観察	<ul style="list-style-type: none"> ○時々人の悪口を言ふから言はないやうにした方がよいと思ふ ○よく口の言ひあひをするがよくないことだ ○遊んでゐることが多すぎるからさうかと思ふ ○あまり野球や相撲に熱中しすぎるかと思ふ ○よく文句を言ふ ○人をからかつたりする、野球気がひのやうだ ○さうじをしつかりしなさい ○けんくわをする、野球にかん／＼になり過ぎだ ○僕のいやがることをよくやるので嫌がるよよけいにやる ○時々無茶なことをする ○あまり野球をしすぎない様にしてもらひたい ○野球の時自分の味方がアフトになるさうおこる ○人を仲間はずれにしないこと 	擔任所見	<ul style="list-style-type: none"> 遠方からの通學はよい試練 非常に親切な父の氣性を受けてゐるか 家庭に於ける實習の不足 現在に熱中成績に影響せず 熱中の餘り運動に熱心すぎるか? 良い傾向 少々狭量か

別表の如きものが得られ、児童の性格把握の上に極めて具體的な資料を得ることが出来た。中には相互の児童を呼んで事實を調査せねばならぬ問題も一つ二つはあつたが大體に於て、虚偽の記述はなく、教師の観察と符合するものが多く、全然教師の思ひ至らなかつた點を突いたものも四五件あつた。例へば表面非常に温順な児童が、級友の不正に對しては極めて俊嚴な態度を持るとか、性行優良と考へてゐた児童が、非常に早熟兒で、面白からぬことをよく口にするとか、長所、短所何れにも今後の觀察に一つの示唆を與へられた問題が多數發見されたのであつた。

斯うした児童の觀察は、児童によく接してさへ居れば級友同志の對話、日頃の雜談又は作文等の中に把握の機會が幾らも得られる。殊に作文には記述者、被記述者兩方の性格をはつきりと認識されるものも尠くないから吾等は常にそれらへの注意を拂ふことに努めてゐる。

以上述べた様な種々の方法及び施設によつて児童の性格が色々な角度から把握されると、擔任訓導又は全職員には自然に個々の児童に對する適應教育が計畫され、試みられる。教室に於ける一齊指導の間にも、校庭の遊びの時にも職員室への出入にも、放課後、作業時、あらゆる機會が鍊成の場になる。時には個性教育を中心話題にした職員會も開かれ、児童個々に對する適應教育の方法に就いての合議も行はれるし、保護者に來校を求めて家庭と學校との連絡が頻繁に交換され助長補短の實績が着々と擧げられる場合も少くない。以下その主要なる實例二三を擧げて、即應教育の一斑を示すことゝ致し度。

二 性格に對する即應教育の實際

一 連絡簿

此の四月から連絡簿を使用することになった。勿論學校と家庭とが、豊かな氣持で連絡をとり、協力し合つて伸びて行く魂を素直に育て度いと念願から保護者の諒解を得て作成されたものである。此の帳簿は何時でも兒童が鞆に入れて持つてゐる様にし、欠席、欠課等の諸届や學習・身體・生活・性格等の狀況に關し、相互に腹藏なく記入するほか、賞揚・激勵等によつて、より良き向上の一路を辿らせ、足らざるは至誠を以て補ひ合ひ、皇國男子の基礎的鍊成の一方法たらしめようとの念願を持つものである。最初に持たれた使用上の杞憂は理解ある保護者の協力によつて解消し、各學年共、非常に有効に活用されてゐる。今其の中の性格に關する問題を中心とした連絡の二三を例示して見ることにする。

1 家庭より學校へ

○近頃そはくして何を尋ねましてもはつきり答へませすごまかしてしまふ様な所がございます。家でいくら言ひ聞かせましても、効果がありませんから、先生から一度よく本人にお言ひ聞かせ下さいませ様お願い申し上げます。(六月二十二日A兒保護者)

○入學以來變つたやうに落ちつきが出来、自分のことは自分で出来るやうになり父母共に非常によろこんでゐます。何かの機會に先生からもほめてやつて下さいます様お願い致します。(六月十日B兒保護者)

○生れつき氣の弱い質で、少しの叱言にもすぐ涙ぐんだり、お友達にも進んで遊んでいたとかうとする所がないやうに思はれます。學校ではどんな様子でございませうか。一度お聞かせ願ひます。(七月四日C兒保護者)

○小さい時は大へん素直な子供だつたやうに思ひましたが最近すぐ腹を立てたり、口答へをしたりするやうになりました。斯ういふ子供の躰け方について御教示下さいませ。(七月六日D兒保護者)

2 學校から家庭へ

○最近學用品其の他の物の忘れ物が大變多いやうに思はれます。何か原因がございませうか。(六月十三日)

○あまり忘れ物が続きますので反省を促す爲に今日は一度家に歸します。若し疲勞が多すぎる様でしたらもう放課にも間がありませんから休ませていたゞいて結構です。來る元氣がありましたらもう一度學校へおよこして下さいませ。(六月二十四日)

3 學校と家庭との連續的な連絡

○本日から此の間お約束しましたやうに別紙生活反省表を持たせましたから、本表によつて自律的に生活が出来様御獎勵願ひます。特別の事項に開しましては本連絡簿を御利用下さい。(六月十一日)

○本日の生活評價が悪かつたのは、教室の窓から飛び下り、トンボを追ひかけた事に原因してゐます。些細な事ですが、時々斯ういふ不作法な事をいたしますから、反省を促す爲に生活評價を乙にしました。くはしくは本人にお尋ね下さい。(七月三日)

○最近お宅での生活態度は如何ですか。左記につきお答へ下さい。(七月十八日)(以下△印は家庭よりの答)

一、朝などの仕度は敏捷に出来ますか。

△大分良くなつて來ましたが、まだく注意しなければならぬ時がございます。

二、食事中の態度は少しかはりましたか。

△これは非常によくなりました。以前の様に喋つたりよそ見したりしなくなりました。

三、命令には素直に従へますか。命令を受けた時ぶつ／＼言つたりふくれたりすることはありませんか。

△連絡簿が出来ましてから不思議に素直に従ひます。時にはふくれ面になりさうな時でもすぐ思ひ返してハイと返事が出来る様になりました。

四、お宅での勉強時間にはさつさと仕事にかゝれますか。

△さつとしかゝれる時とさうでない時とございますがわりによろしい方かと思ひます。

五、勉強中の態度は良くなりましたか。

△餘程良くなりましたが、まだ／＼無駄な時間を費して居る時がございます。姿勢に注意を要します。

○学校では左記の點が目立つてよくなりました。お宅でもお父様にほめてもらつて下さい。(七月十五日)

1、朝の静坐がしつか出来るやうになつたこと。

2、學習中自發的に活動しようとする態度が出来て来たこと。

3、應接、對話の態度が非常によろしくなつたこと。

○首や手足に少し汚れが見えます。入浴中一人でよく洗ふことが出来るよう御訓練下さい。(七月十八日)

○今日は作業中に一人だけ仕事をなまけ、二年生の児童と大聲に話しながら長らく遊んでみましたので生活評價を乙にしました。少しの事に注意を奪はれて自己の現在を忘れる所がある様に思ひますから、今後は其の方面の矯正に努めたいと思ひます。(七月十九日)

まだ連絡簿を使用し出してから一學期を経過したのみでこれが活用の實績を十分に例示することは出来ないが、吾等は今後この活用法を十分に考究して一層その教育的効果を擧げ度いと念願して止まないものである。

二 日々反省

いくら優良兒として選抜入學させても二十五人寄れば二十五色である。時には性格的に、身體的に、又智能的に他の優良兒に比し見劣りのある児童も無いではない。身體や智能の調査及びそれに應ずる即應教育は科學的に種々研究されてゐるから吾々はそれに頼ることも出来るが、性格は結局は本人の自覺に係はる問題であり、その自覺を促すものは指導者の叡智により、その行から本性を徹見することを基本條件とするから一朝一夕には達し得られない。その爲に指導者は一日中児童と生活を共にする行を積み重ねなければならない。當教室の行つてゐる宿泊訓練はこの點に於て特色を有すると思ふ。之が一二の児童でもよいかから常設的施設になり得たらとは更に願ふ所である。

常設的な宿泊訓練施設を有せない爲、特別兒は放課後職員室へ日参し生活反省を行ふことにしてゐる。この日参は一ヶ月か二ヶ月で終ることもあり、半年の長きに及ぶこともある。しかしかういふ時は児童の病に一念所が捉へられた時であるから、指導者は更に児童と共に行じねばならない。かういふ事を行つてみて痛切に感ずることは、日参しなければならぬ児童は必ず生活に據り所を發見し得て居ない爲に永續的な自制力のない児童であり、不仕だからで、習慣形成力の弱い児童である。一言にしていへばそれは自覺のない児童である。之等の児童には、先づ最も根本的と思はれる病點急所を捉へ、これによつて只一つの中心を與へ、その完成を期せねばならない。或児童は毎日日記

を見せにくるだけ。言葉遣に就いてのみ反省する児童、上靴のはき方だけに注意する児童、机の中の整理だけ掃除の仕方だけ、等々其の方法は異なるが、一つが出来ると他も追々とよくなってくる。それが上級生であったり、可なり自覚が出来て習慣性がついた児童には生活の反省点を自らつけさせ、八點といへばなぞと尋ね更に自覚を促す様にしてゐる。自覚の芽が出て来たら占めたものである。もうこれだけで十分である。只職員室の教師の所へ毎日来るといふことだけで効果は實に大きい。

教師の方にしても其の中には必ず児童の眞性が發見出来る。職員室の出入を確り見て居れば自ら自覚の程度は察し得る。言葉が確かになり、正しく禮が出来、眼がすはり、戸の開閉が靜かになり、ぎこちさがなくなつたら出来て来た證據である。特に注意すべきは歸りの態度である。之を忘れては日參の効果も半減するであらう。口數多きは慎むべきである。

或る日參兒は擔任との應答を濟ませて今や室を出んとした時「出直せ。」との一喝に會つた事がある。それは入口近くに居た他の訓導から出た言葉であつた。こうした事はよくある實例である。これは一兒に對する全職員の心構えを代表してゐるものである。

又二月の或日、擔任が「もう君には先生の方が負けた。」と言つて男泣きした事があつた。擔任がしばらく自分の家へ引取らうと家庭へ申込んだ程の児童である。この児童が職員室を出ようとしたその時である。かつて母親より一度訓戒を依頼されてゐた他の訓導がつか／＼と歩み寄り、「待て。」と鋭く呼び止めた。そして二人は残り少なくなつた火

鉢を圍んで對座した。しばらく無言が続いたと思ふと、「導くだけは導いた。よく解つたらう。父母にも先生にも心配をかけるやうな者は駄目だ。今日は私がたゞき直してやる。尻を出せ。」大きな手は彼の尻へ三つ飛んだ。師の目にも涙が光つてゐた。師を見上げた眼にも涙が光つてゐた。

「君は不仕だから皆さんに心配をかけるのだ。今のことを忘れず、自分を立派にするために、今日から生活を改めるのだ。その一つとして先づ靴を上手に履くくせをつけよ。」この言葉が終ると二人は室を出て靴箱へ向つたのであつた。

其の後この児童の生活態度は余程改まつて来た。全職員の協力的愛の目も一層灼熱して来た。母親の言によれば家庭生活も以前よりはよくなつたのでよろこんで居るとの事である。靴の履き方も正しくなつて来た。この児童の靴は其の後全職員に鋭く見守られたのであつた。

三 立小便

十二月の或日、職員室の一隅に書棚をにらんで起立してゐる一児童があつた。彼は「輕はずみな行をするな。」を公案として、放課後の日參行をやつてゐた児童である。それがどうした事か、今朝一寸したことから友人を叩いてしまった。その爲思ひ切つた反省の機會が與へられて立つてゐるのであつた。

「一時間目の授業が終つて職員室へ先生が歸へつて来られたら許されるであらう。」と淡い望みをもつて待つてゐたであらうが、歸へつていらつしやつた擔任の先生はチラット視線を向けられたきりで、机に向つて調べ物をなさつた上、一言も何もおつしやらせずに二時間目の鐘と共にさつさと教室に行つておしまひになつた。彼のどこかにまだ十分でない所を認められたからであらう。他の二三の先生が「どうしたの、もうお詫びして教室へ行きなさいよ。」とやさ

しく言つて下さつたけれども「擔任の先生がお許し下さるまでは動いてはならない。」さう思つて彼は辛抱強く立ちつゞけた。だん／＼考へて行くに隨つて自分のやつた行爲の悪かつた事ばかりとわかり出した。「何故にあんなつまらないことをやつたのか。」自分でも情けなくなつて自然に涙がにじんで來た。それよりも困つたことは、朝會の前から立つてゐるので、小便がしたくてたまらなくなつたことだ。先生がみんな教室へ行かれて、ストーブの火がだん／＼下火になつて行くと、寒さがひし／＼と迫つて來る。それにつれて小便は益々したくなる。でも此處を動いてはならぬ。いつもならば三時間や四時間つゞけて勉強してゐても小便とも思はないのだが、今日に限つて二時間にもならないのに行きたくて行きたくてたまらない。これも天罰かも知れない。先生だけでなくて天の神様までが、私のした事を御覽になつてゐて、先生以上に私をお苦しめになるのかも知れない。さうすると、先生の居られない間に便所へ行つて來てすましてゐれば先生は御存じなくて許して下さるかも知れないけれども神様は決してお許し下さらないに違ひない。さふ思つた彼の足は床にびつたりくつついてしまつた。一瞬彼の頭は朦朧とした。ハツと我に歸つた時は、兩肢のあたりがボーと生暖くなつてゐた。靴下にも上靴の底にも生温い濕りが感じられた。「六年生にもなつてゐて……。」彼の頭には又新たな擔任の先生の顔が浮んだ。

その時だつた、廊下の向ふからコツ／＼と例の擔任の先生の聞きなれた靴音がして來た。

ガラスと戸があいてちらつと視線が向けられた瞬間、彼の胸はギクツと痛んだ。「申わけ……。」と口まで出た時、先生の大きな聲が聞こえた。

「えらい！ 小便をやつたか。よし／＼さうでないかと授業を中止して歸へつて見たのだ。やつぱりさうだつたか。」さう言つて先生はすぐに電話のそばにかけより「あゝもし／＼、〇さんのお宅ですか。急いでシャツとズボンとパンツ、靴下を持つて來て下さい。」と話された。彼は自分の耳を疑つた。どんなにか叱られるであらうと覺悟してゐたのに……。

石炭をストーブに一ぱい入れられた先生は「着かへが來るまで、此處でおあたり。」さう言つて御自分も椅子に腰を下してポツ／＼と語り出された。

「よく頑張つた。苦しかつたらう。然し、そこが君のえらい所だ。君にはさうした素直さがあるのだ。その素直さこそ君の前途を切開く唯一の寶刀だ。それを失ふな。その素直さをもとにして自分の魂を生かすのだ。今日の立小便が君の知らなかつた君の性格を、君自身にはつきり自覺させた。もうよい。今朝のことは、自分でよく反省しておきなさいよ。」

やがて彼は持ち込まれた着かへに服裝を改めていそ／＼と職員室を立去つた。

其の次の年大丸に開かれた理科振興展覽會に、一年間の日の出、日の入の場所と時刻を克明に記載した長い圖表が金賞の光もゆかしく來觀者の注目を引いてゐた。これは彼が四年生から五年生へかけての努力になつたものであつた。入選の報を受けた時、擔任であつた〇訓導は同僚に語つて言つた。

「あの素直さですよ。あれが斯うした力を生むのです。立小便をやりつ放すまでの頑張り、必ず彼を大成させますよ。」

今某中學に在學中の彼は、立小便の頃の素直な態度を少しも失はないで、今でも時々明朗な顔を職員室に見せてゐる。

四 公案

三月も半過ぎて卒業式もまぢかに迫つた或日の事であつた。先月頃まで職員室へ日参して生活反省をして引きかへましたといふ様子で、少々息をはづませてゐる。外套の上から背負つたランドセルを下し、右手で外套の前ボタンがはづれてゐないかをちよつとせば後帽子をとり、職員室の戸をあけて一步内へはいるなり正しい敬禮をするあたりはさすが卒業期前の六年生らしい態度である。三步四歩進んで、頂度中央のテーブルに休憩中の擔任訓導の上に立止り再び敬禮した後はつきりした口調で用件を述べた。

「○先生、繼續研究に使ひます綴方用紙を下さう。」

読みかけの新聞を置いて軽く背いた擔任訓導はちらと視線を向けた後、静かな聲で言つた。

「用件はわかりました。後であげませう。然しそれまでに一度考へて見なければならぬ事柄はありませんか。も一度職員室を出て考へてごらんませう。」

彼は丁寧な禮をして職員室を出た。しばらく廊下に立止つて考へてゐたが、急いで外套のボタンをはづしそれを左手に抱へて再び職員室にはいつて前の様に用件を述べた。今度も擔任訓導は用件に應じなかつた。

「もう一度考へて來て來らん。」

ちよつとしよげ氣味を見せた彼は、直ぐにもとの姿勢に返つて再び部屋を出て行つた。さうして今度は二分間位外

に立つて考へてゐた。服のボタンをさわつて見た。ホックもしらべて見た。全身のほこりも拂つた。さうして首をかして見た。どこも悪くない。言葉について考へて見た。「要件はわかりました。」といふ御返事であつたから言葉に缺點はない。さうするとどうしても體についての公案だ。も一度服を調べて見た。さうして爪先まで見下して見た。上靴をはいてゐない。學校のかへりだつたから、急いではだして上つて來たのだつた。之故かも知れない。大急ぎで足のほこりを拂つて上靴を履き三度職員室を訪れた。だがまだ合格しなかつた。今度は廊下に殘して置いたランドセルも左手に持ち前よりも一層注意深く禮をしてもう一度職員室にはいつて行つて擔任訓導の前に立つた。擔任訓導は又頭を左右に振つただけで何も言はなかつた。

四度はいつて四度とも失敗に歸した彼の顔は火の様にほてつてゐた。形のよい、はつきりした目の、長いまつげは少しぬれて來たかに見えた。一分二分三分、じつと考へ込んでゐる姿は少しいぢらしい程であつた。ガラス戸越しに此の様子をじつと見つめてゐた擔任訓導の唇がびく／＼と動く、幾度も兩手をテーブルについて立上りさうに中腰になりながら又腰を下して外の氣配を注意深く見守る様はたしかに何事かを言はうとして言はずに耐えてゐる姿である。此の兩者の眞剣な様子に、それまで微笑を嚙み殺して面白半分を経過を眺めて居た他の職員も、何時とはなしに仕事の手を休めてぐつと固唾を呑み込んだ。沈黙の一瞬！彼の緊張した顔が上げられた。切長の眼が輝いてゐる。静かに職員室の戸を開き入室して丁寧に敬禮し入口の右側のテーブルの上に外套、帽子、ランドセルを落し、落ちついた態度で擔任訓導の前に立つた。その瞬間であつた。

「よろしい。合格だ。」

びつくりする位大きな聲が室内に響きわたつて全職員を驚かした。につこり笑つた擔任訓導の顔が慈愛に満ちた言葉にかはつて

「よく考へてくれた。何事も之だ。もうしばらくで卒業だ。だがそれで人生の終りではないぞ。むしろスタートだ。出發だ。戦死されたお父様の御遺志を繼ぐ爲には如何なる場合にもへこたれては駄目だぞ。又何物をも頼つてはならない。頼るものは自分だ。自分で開け。如何なる困苦も自分で開け、其の度毎に自己が磨かれるのだ。一月十日以來毎日常生活反省の爲職員室へやつて来てゐながら、まだ斯うしたうろたへた態度ではいけないと思つた。折角用紙をあげても立派な論文は出來ぬと思つた。禮節は軍人として忘れてはならないことだ。自分で見出した道は決して終生忘れる事は出來ないものである。困難にぶつかつたら外套を思へ。只一心にぶつかつて行け。今君の心境はどんなに清朗であらうかと思ふ。この心境こそ「さしのぶる朝日の如くさはやかに」の御製に通ふものだ。この清朗さを忘れないで家に歸つて研究の最後を仕上げるのだ。さあ用紙をあげよう。」

諄々と説き去り説き來る擔任訓導の言葉に兒童の頬は益々紅潮する。餘程の感激にうたれてゐるらしい。

嚴に過ぎると見えた擔任訓導の導きは、愛すればこそ出來る仕打であることが始めてわかつた他の職員は、輕やかな足どりで立去つて行く彼の後姿を見送つて、始めて我にかへつたのであつた。

個性教育は理窟ではない。唯實行あるのみだ。然も事に即し物に臨んでの魂の鍊磨が行はれてこそ始めて人物は鍊成し得られるのだ。此の平凡な事實を我等は勇敢に、又忠實に實行することによつて自らの道を行じようとするので

ある。

六 身體的特殊性の把握と即應教育

一 心身一體觀に立つ人物鍊成

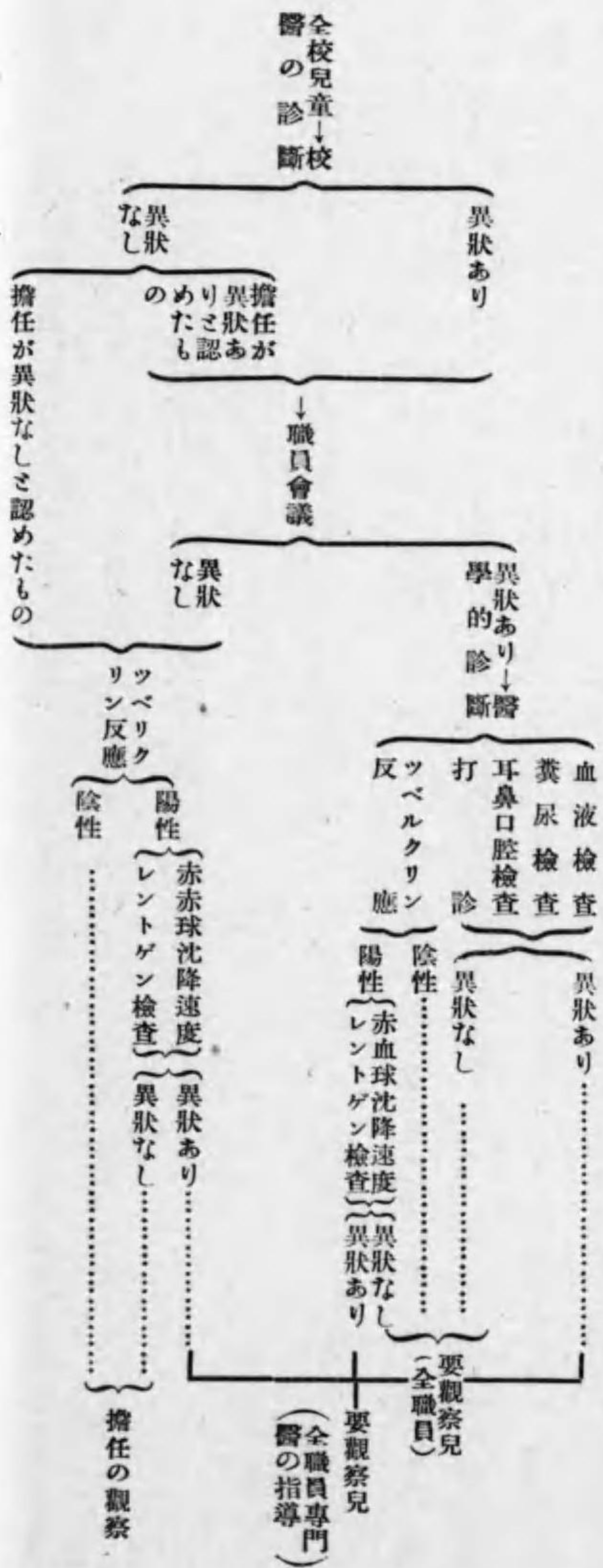
兒童はすべて生天的、後天的な原因や影響のもとに、夫々特殊の發育形態を以て成長してゐるが、心身は常に一體的不可分の状態に於て發育するものであるから、身體的特殊性への關心は寸時も怠る事の出來ない問調である。健康と否とが兒童の性格、智能の要因となることは何人も認める處であつて、人物鍊成を目ざす當教室が特に兒童の身體的特殊性の把握を重視する所以も茲に存する。全校兒童が百餘名と言ふ少數である爲、時に顔色の優れない者があれば他校以上によく目立つて、全兒さうであるかの如く誤り觀られる場合も少くないが、斯うした兒童にこそ我々の即應教育は工夫さる可きであつて、誤られた世評の如く知識偏重の意志は毛頭持つてゐないである。以下斯かる兒童に對する同人の態度を略述したいと考へる。

二 觀察兒童の選別

各學年共、校醫の外診により決定された要養護兒童及び外的觀察によつて、健康上いさゝかでも懸念を要する兒童はすべて、擔任の所見と共に職員會議に提出する。こゝでは此の兒童一人々々について全職員の該兒童に對する觀察

意見を述べ、合議の上更に要観察児童を決定し、此の児童群に對して全職員が不斷に特別の觀察を加へ、すべての取扱ひに特別の注意を拂ふ。それと同時に嚴密な醫學的診斷を仰ぎ根本的な原因を把握すると共た必要に應じて小兒科醫指導のもとに之が即應教育の方法を工夫する。

他の児童に對しては毎年六月初旬にツベルクリン反應の検査を実施するほか擔任が十分の觀察と即應の教育法を工夫する。斯うした計畫のもとに、醫學方面の検査並びに指導を前田校醫及び京都帝國大學醫學部小兒科の谷口喬助教にお願ひしたのである。兩先生共非常な好意を以つて御快諾下さつたことは當教室にとつて此の上もない幸福であると共に吾等五人の同人に非常な力強さと自信を與へられた。この組織を表解するならば次の如くである。



此の組織に随つて全職員で合議した結果二十四名の觀察児童を決定した。早速帝大小兒科教室に谷口助教を訪ひ
檢診方を依頼し、三日間に互り次の諸點に重點を置く嚴密な診察を受けた。

- (一) ツベルクリンの反應 (マント)
 - (二) 赤血球の沈降速度検査
 - (三) レントゲン検査
 - (四) 血液検査
 - (五) 耳鼻咽喉検査
 - (六) 便・検尿
 - (七) 體溫・脈膊・身長・體重・胸圍の測定
- 其の結果を表解するならば次表の如くである。

結核感染の有無

血液の異常の有無

アデノイド・扁桃腺

蛋白・虫卵の有無

京都帝國大學醫學部小兒科研究室診斷表

兒童名	主訴理由	ツベルクリン反應		血 液	檢 査	糞尿検査			扁桃腺	頸淋巴	體温	脈搏	呼吸	診 斷
		%M.R.	%M.R.赤沈			赤血球數 (m.m.) ³	ヘモグロビン 含有量	白血球數 (m.m.) ³ 中						
A	虛弱近視	6(-)	4(-)	4,699,400	99%	4,600	38.6	52.8	(-)	(-)	(-)	(卅)		扁桃腺肥大淋 巴球過多症
B	時々缺課	6(-)	4(-)	6,645,900	113	10,100	32.8	58.4	?	(-)	(-)	(卅)		扁桃、有熱
C	姿勢不可	8(-)	4(-)	4,584,400	95	7,600	72.0	24.0	(-)	(-)	(+)	(+)		扁桃、發赤 有熱
D	顔色不良	6(-)	4(+)	5,415,700	112	8,300	42.4	50.4	(+)	(-)	(+)	(-)		蛋白扁桃腺發 赤(T)
E	顔色不良	6(-)	4(-)	4,009,300	93	6,700	45.6	40.8	(-)	(-)	(卅)	(卅)		扁桃、頸淋巴 Eos. polyn. Leukoeyt.
F	虛弱瘡型	6(-)	4(-)	4,234,100	93	5,900	34.4	58.4	(-)	(-)	(+)	(+)		有熱、扁桃
G	腺病質	6(-)	4(-)	6,607,500	88	5,000	41.6	41.6	(-)	(-)	(-)	(+)		Eos. 頸淋巴
H	發育不良 顔色	6(-)	4(-)	4,341,700	104	10,300	43.2	49.6	(-)	(+)	(-)	(+)		頸淋巴 虫卵?
I	顔色不良 體重增加少	6(-)	4(-)	4,936,800	101	7,200	23.2	68.8	(+)	(-)	(卅)	(+)		淋巴球過多症 扁桃頸淋巴
J	慢性中耳炎 腺病質	6(-)	4(-)	5,493,800	119	10,200	44.8	52.8	(-)	(-)	(+)	(+)		扁桃、發赤
K	耳の故障	6(-)	4(-)	6,742,500	105	9,200	60.8	31.2	(-)	(+)	(-)	(+)		蛔虫、頸淋巴
L	貧血 血熱	6(-)	4(-)	5,555,900	100	12,100	62.4	24.8	(-)	(-)	(卅)	(卅)		脊柱彎曲 扁桃、發赤
M	貧血	6(-)	4(-)	3,945,000	88	7,000	43.2	51.2	(-)	(-)	(-)	(-)		貧血

N	胃腸障害	6(-)	4(-)	6,826,300	120	5,700	46.4	45.6	(-)	(?)	(-)	(-)	(+)	頸淋巴
O	發育不良 元氣少	6(-)	4(-)	3,751,900	90	8,100	60.0	31.2	(-)	(-)	(-)	(+)	(+)	頸淋巴、有熱 貧血扁桃
P	顔色白	6(-)	4(-)	5,176,200	105	7,800	27.2	65.6	(-)	(-)	(-)	(-)		淋巴球過多症 有熱
Q	心臓病 脚氣	6(-)	4(-)	6,120,500	114	7,500	51.2	40.0	(-)	(-)	(-)	(-)		
R	腺病質?	6(-)	4(-)	4,251,400	90	4,600	20.0	72.0	(+)	(-)	(+)	(-)		扁桃腺發赤 淋巴球過多症
S	腺病質	6(-)	4	4,777,900	108	6,100	50.4	43.2	(-)	(-)	(-)	(卅)		扁桃腺肥大
T	既往 門脈炎	6(-) 7x7	4(-)	5,510,600	101	9,400	16.8	75.2	(-)	(-)	(-)	(-)		淋巴球過多 扁桃T.B.C(T)
U	既往肺炎	6(-) 8x8	4(+)	4,225,500	114	14,500	48.0	34.4	(-)	(-)	(-)	(卅)		扁桃頸淋巴 扁桃T.B.C(T)有熱
V	體質	6(-)	4(+)	5,545,000	93	7,000	46.4	42.4	(-)	(-)	(卅)	(卅)		
W	體質貧血	6(-)	4(-)	6,370,700	89	13,300	32.0	53.6	(-)	(-)	(-)	(-)	(+)	頸淋巴有熱
X	近視瘡型	6(-)	4(-)	4,731,600	99	4,400	60.0	33.6	(-)	(-)	(+)	(-)	(卅)	扁桃腺發赤 頸淋巴腺

- 備考 1. %は實施月日、即ち、六月七日、八日を示す。
 2. Eos. は Eos. polyn. Leukoeyt の略稱、即ち酸性多核白血球の異常を意味する。
 3. ACH は能野を意味する。

三 観察兒の症状

前表に示す通り次の様な症状を有する兒童のあることが判明した。

(一) ツベルクリン反應陽性兒	三	(二) 貧血兒	二
(三) 淋巴球過多症兒	五	(四) 尿異常者(疑ひ)	三
(五) 蛔虫卵排泄兒	一	(六) 扁桃腺異常兒	一五
(七) 有熱兒(三十七度以上)	七	(八) 頸淋巴腺肥大	一一

四 観察兒童に對する處置

吾等が日常觀察した所は大體に於て醫學的診斷の結果と一致した。一兒を除く大部分の兒童は何等かの症状を有してゐて觀察を要する兒童達であつたのである。然しながら此の結果だけを以つて當教室には虚弱兒童が多いと速断し批評することは酷である。それは當教室の教育が、病弱兒童をつくり出してゐるかの様な偏見と誤解を與へる處があるからである。後にも詳述するやうに、此處に擧げた大部分の症状は學校教育の影響が直接原因するものでは絶対にない。又此の症状の中には、淋巴球過多症の如き病的症状と言ふよりも體質と言ふ方が妥當なものもあるし、たま／＼要觀察者として選んだすべての兒童が虚弱兒であつたとしても唯それだけを見てならば學校教育に兎角の疑問を投ずることは當らないものである。斯うした兒童を多く選抜偏入せしめた事に對しては責任を感じるが、之とても、

入學せしめた以上は吾等は責任を以て健康兒として鍊成し、他日國家の柱石たらしめんとの念願に燃え立つてゐるものである。斯かる意味に於て實施した醫學的檢診も以下述べんとする即應教育の實際も非常な意義を有するのである。さて此の二十三名に吾等は如何なる即應教育を施し、又施さうと努めつゝあるか、以下略述を試み度いと思ふ。

一 ツベルクリン及應陽性兒

何れも赤血球の沈降速度の平均値が二十以下であるから通學を停止する程の兒童達ではない。レントゲン検査の結果は、一兒のみが右肺の一部に固形した小痕跡を残してゐたけれども問題にするほどのものもなく、他の二兒には何等の現在症はない。一兒は抵抗力の弱い時代の兒童であるから激動は避けた方がよく、他の一兒は赤沈の平均値が二十に近いから進行に留意せねばならぬと注意されたので、何れも過激な運動を避け、臨海學舎の生活訓練や、勤勞作業等には参加せしめず、十分の休養を與へることとした。更に積極的には家庭と十分連絡をとり、感染源を究明して之に接近せしめぬこと。榮養、日光浴をよくし、過重の勉強等を避けること。一年に二三次の反應検査及びレントゲン検査を受け、進行の有無に留意すること等の注意を要するので、直ちに保護者の來校を求め、其の旨を傳へると共に、更に病院に於て一層の指示、説明を受ける様希望した。家庭に於ても早期に發見し得た事に大いに感謝し、今後の觀察及び根本的な治療方法を約したのであつた。

反應陽性は決して結核疾患を意味するものではない。かつて結核の感染があつたことを證明するに過ぎない。随つて罪なき兒童を病人扱ひしたり、保菌者のやうに危險視して精神的打撃を與へたりする等の事は最もつしまなければならぬことである。進行性のものでなければ自然に治癒するものであるし、開放性の保菌者でない限りは他兒童へ

感染する危険もないのであるから、他児童から隔離する等の必要は絶対にない。唯赤沈検査に於て一時間値、二時間値の平均値(平均値の求め方は、次式による。
$$\frac{1+2+3+4+5}{5}$$
)が三十以上になつた時は本人の爲に通學を停止した方がよいから、精神的打撃を與へぬやう考慮して適當な處置をとる可きであるが前記の児童達には何等其の必要がなかつたのでむしろ平常通りの取り扱ひの中に教師のみが十分の注意を拂ふことが彼等に即した教育法と考へたのである。學業方面に於ては一兒は低學年であるから宿題其の他の負擔も輕少であるし、他の二兒は、既に全部の課程を終つてゐるのであるから決して過重に陥る等のことはない。三兒が自然に快癒する日も遠くないこと、信ずる。

二 貧血兒

選別された觀察兒中には顔色のあまり勝れぬ児童も少々あつた。それが何に原因するかを究明する爲に血液検査が行はれた。事實赤血球が少いたためか、それとも他の原因によるものかを判然としたいと言ふのが目的である。普通、兒童期に於ける赤血球の數は一立方ミリメートルの血液中に四百萬から七百萬程度あると言はれてゐる。随つてそれ以下の場合には貧血兒とされる。MとOがそれに該當する。兩兒共に柄こそ小さいが相當の健康體であつて、殊にM兒などは肉つきもよく、姿勢もよく、運動能力の勝れてゐる事は同級生中彼の右に出る者がないと言つてもよい位であつたから、平素は特別に注意を拂ふことがなかつたけれども、斯く診斷された後に於て回顧して見ると、たしかに兩兒其他兒に比して疲勞が早く、大である。昨年の臨海生活訓練の際最初に發熱し、醫師の診察を受けたのはMであつた。又教室學習の際、一番早く姿勢が崩れ、自發的活動が出来なくなるのもMである。

Oは榮養休養共によく考へられてゐるのに身長體重の増加率が低く、常に澀濁とした元氣さを持つてゐない。殊に教室の自席が教卓の直前になつてから急に元氣がなくなり、顔色が一層すぐれなくなつてゐた。之は明らかに緊張に過ぎて疲勞の度が大であつた故であつたらうとも考へられた。其の上彼は診斷當時扁桃腺の肥大を意味する(+)を持ち、三十七度五の最高體温の保持者であつた。

擔任は早速兩兒の机席を換へ、家庭の母に來校を求めて次の點に於て協力を要請した。

- ① 家庭に於ける作業も學習も遊びも其の量を多くせず過勞に陥らない程度に止められたいこと
- ② 若し長時間の緊張を要する場合には度々休憩の時間を與へられたいこと
- ③ 積極的には偏食をいましめ、菜食を獎勵し、紫外線に浴して適度の運動をさせること
- ④ 特にO兒は、うがひをよくし、扁桃腺の肥大又は發赤に注意すること
- ⑤ 検温を続け、疲勞度に常に注意を拂ふと共に、食事其他に異常を氣附いた時は直ちに學校に通知せられたいこと

等、その後日が浅いので、其の効果を知る事は出来ないが、長い目でもつてすれば必ず何等かの影響のあるであらうことを疑はないものである。

三 淋巴球過多症兒

これは白血球中に於ける、骨髓より分泌して出来る多核白血球の割合と淋巴装置から分泌された淋巴球の數の割合を比較して淋巴球が異常的に多い者に對しての通稱である。兒童期に於ては普通白血球の方が多いと言はれてゐるのに此の兒童達に於ては之が逆の状態を示してゐる。之は非常に興味ある問題で、醫員間でも「秀才は多核白血球よりも淋巴球の方が多い等」といふ結論が出たら、それこそ一大發見

だ。」など大笑ひされたと言ふことである。

病的症状と見るより體質と言つた方がよいかも知れないが、之は決してよい症状とは言へないであらう。むしろ斯ういふ體質の兒童は他の兒童よりも病原菌に對して感染し易い傾向を持つてゐる。感染した後に於ては骨髓から出る多核白血球が急に激増する。随つて今直ちに之が教育的な處置をどんなにとるかと言ふことは言ひ得ないが、常に健康に留意して危険な病原に近づけぬよう、過勞を避けて規律正しい生活をさせることが大切である。性格及び智能に何等かの影響をもたらしてゐるかどうかは今後に残された問題として我々も研究してみる必要があると思ふ。本症兒五名に就いて、其の體質とを考へて見ると所謂顔色のよくない兒童が多い。Aは顔色普通、Iは特別に血の氣のない黒さ、P、R、Tの三兒は色が白すぎる方、瘡型で白面で脊が高いから見るからに繊細な感じがする。又三兒共赤面の場合とはとても赤くなる。當教室兒童を「ひ弱い」とか「顔色がよくない者が多い。」とか評した人々は多く斯かる兒童のみに着眼した故であらうが、斯うした特殊な兒童を以て全體を律するは當らないことであると思ふ。冷水摩擦・規律正しい生活の奨励によつて或程度まで體質を改善し得ると期待してゐる。

四 尿異状

疑ひのある者が三名となつてゐるが、病的と言ふ程のものでないから問題にする必要はない。家庭へは時々、の検尿を必要とする程度の通知を發した。

五 虫卵

Kが蛔虫卵の保有者である。蛔虫の寄生は兒童の身體に種々の病的症状を誘起することは既に醫家の認めるところである。ひきつけ、夜驚、腹痛、下痢、視力減退、難聴等種々雑多の病因をつくるといふ。K兒に夜驚があり、一時的の難聴を引き起すのは蛔虫の寄生がある爲でないかと思はれる。然も之が驅除は

容易でない。現在一部の學校等で行はれてゐる、まくり・海人草等の一齊服用等は却つて蛔虫の抵抗力を強めるのみで有効な方法でない。醫家の指導のもとに徹底的驅除方法をとりたいと家庭に通知する。

六 扁桃腺異常

扁桃腺の肥大又は發赤等の異常者は何れの學校に於ても相當に多いのであるが、當教室にも十五名の異常兒童があつた。然し(十)(廿)の程度は診斷者の主觀的なものであるから特別神經過敏になつて手術など無暗に慫慂せぬことが大切である。唯此の爲の有熱と思はれる五六名の兒童に對しては今一度専門醫の診察を受け、十分の手當を受ける様家庭に通知し、學校でもそれらの兒童には特別の觀察を續けると共に他兒童にも左の點を嚴守勵行させることを協議した。

- ① 從來當番制度で實施して來た日々の校内掃除を全員掃除とし、窓ガラス、窓の棧、壁面、敷居等の埃を十分に清掃させること
 - ② 掃除中は必ずマスクを使用せしめ、掃除後はうがひ手洗を十分に行はせること
 - ③ 全兒が入學以來實行を誓つて續けて來た衛生上の三則「冷水摩擦」「歸宅後のうがひ」「就寝前の齒磨」を更に確實に十分に勵行せしめること
 - ④ 校庭の乾燥期には特に撒水に注意し、兒童登校前には、小使ひに、第二時終了後及び晝食後には週番班の高學年兒童に夫々撒水させ、各學年共に體操時の前には教師兒童共同で撒水した後授業に入ること
 - ⑤ 夏季身心鍛鍊期間中には再度の床洗ひを實行し塗床用の油を浸透せしめること
- 等、從來からやり來つた事柄を一部改良し又新に反省を加へて自覺的に實踐せしめることとした。此の他にも

- ① 校内に於ける水道のカランを増し、うがひ、手洗ひの勵行を容易ならしめた。
- ② 従來運動靴、上靴を一足制として併用せしめてゐたのを二足制に改め、校内への土埃の進入を防ぐ。
- 等、衛生上に拂つた注意は、決して少くなかつたのであるが、尙十分の効果を擧げ得なかつた事は遺憾に堪えない所で、今後一層の注意を職員、兒童共に申し合せたのであつた。

尙要注意の通知を受けた保護者中には、早速専門醫と協議して扁桃腺摘取の手術を受けさせる考へであると述べられた人もあつたが、之には餘程慎重な研究を遂げた後實行されたい旨を答へた。今日の専門醫中には扁桃腺を取れば直ちに健康になり、學業成績が優秀になると宣傳し、其の記録の發表も少くないので、扁桃腺といへば直に手術を考へる保護者もあるが前述した通り扁桃腺肥大とは何を標準として言ふか、どの程度の肥大であれば摘出が必要なのか等から既に問題とされてゐるし、肥大の程度も醫者の主觀によつて(一)(十)(廿)(卅)が異るとすれば(十)の兒童必ずしも手術を要するか否かは疑問である。殊に此の肥大が、氣管支、肺囊等の保護の爲の一時的な症狀であるとするならば、之を取去ることが如何なる結果を招致するかも略々想像されるところである。唯病的な場合——たとへば十一、二以後の扁桃腺は漸次收縮して青年期の頃には殆んど之を残さないものであるが、五六年になつても尙肥大したまゝ縮少に向はないと言ふやうな場合には病的と見て手術することも必要と言ふことが出来るであらう。之等は信用ある小兒科醫又は専門醫に就いて研究されたいと希望するのが常である。今年も三年生で手術したといふ兒童が一名あつたが其の結果に就いては關心を以つて觀察したいものと考へてゐる。

七 有熱兒

大學病院で檢診當時三十七度以上の微熱を持つてゐた兒童が七名あつたが、之は一回だけの檢診で有熱兒とすることは適當でないから其の後、繼續的な檢温を續けた結果その大部分が一時的な微熱であつたことが判明した。然も當時の有熱兒中五名までが扁桃腺異状者であつたことから、恐らく當時の微熱は多く扁桃腺に起因したものであつたらうとの結論に達したが、此處にも我々の學ぶ可き醫學上の問題があつた。我々はよく、有熱兒Ⅱ虚弱兒童Ⅱ結核疾患兒といふやうな觀方をした發表に接することがあるが、斯かる觀察のもとに大學病院の方へ檢診を依頼された兒童の大部分はツベルクリン反應は陰性者であるとの話を聞き面白い結果であると思つた。前表に於ても知られる様に、當時有熱兒と考へた兒童中にもツベルクリン反應陽性兒は一人あつたのみである。然も彼は陽性者といふのみで決して保菌者でもなく、まして結核疾患兒ではなかつた。誤つた教師の觀察が兒童を不幸にし、家庭を暗くする例は幾らもあるから警戒を要する所である。筆者もそれに似た失敗を演じて非常に申譯なく感じた事があつた。

擔任の一兒に非常に素直な、教師の言には何事にまれ忠實に實行しようとする兒童があつた。彼は學業成績が極めて優秀なるに比して體格は瘠型で顔色も勝れず一見虚弱兒型の兒童であつたので擔任は「勉強するよりも體を丈夫にする事に努めるよう。」と激勵した。それ以來彼は熱心に運動し、日曜日毎に裏山の〇〇〇山を始めとして附近の山々を跋渉した。昆蟲採集に興味を持つてゐた彼は誰彼と友を選んでは之と共に山を歩いた。その結果は期待とは反對の現象を表はした。顔色は以前にも増して血の氣がなくなり、顔にも何となく疲勞の様子が見えだした。微熱がつゞき時々教室でアクビを嚙殺す等の様子が見られるやうになつた。觀察兒童の一人として檢診を受けた結果は扁桃腺の肥

大にも發赤にも(廿)を附せられる程の異常者で、當時も六度九分の體温を持つてゐた。毎日曜日の登山や昆虫採集は健康の増進よりも疲勞の方を増してゐたのである。そこで擔任は、無暗な登山をいましめ、時々家でのんびりした休養も必要であることを語つて自重させた。それ以後は稍々元氣を回復して今夏中も殆んど健康であつたと報告されてゐた。ところが八月の下旬になつて又四十度近くの發熱をして醫師の診察を受けたが矢張り扁桃腺よりの熱であると診斷された。連日身體の調子がよかつたので又其の數日前から例の昆虫採集を始め出し、過勞に陥つた結果であつたらうとの保護者の話であつた。

此の失敗の一例は今後の兒童觀察の上に大切な資料とせねばならぬと考へてゐる。たとへ三十七度前後の微熱であつても之には何等かの原因を持つて居り、其の原因を有する兒童は疲勞の度も早く又大であるとせなくてはならぬから、觀察兒、殊に扁桃腺に異状ある兒童に對しては、學校に於ても家庭に於ても絶えず檢温をつゞけ注意する必要があることを痛感したのであつた。

以上數項目に互つて、症狀に一般的な考察を加へ、學校としては可能な範圍に就いては夫々の處置を了し、及ばない所は家庭と連絡をとり専門醫の指示に依頼することゝしたが尙十分でない所が多々ある。今後に於ける研究こそ吾等に課せられた責務であると考へてゐる。

五 全兒童のツベルクリン反應検査

大學小兒科に於ける何萬かの兒童の検査の結果に於ては、一般に虚弱兒童とか、要養護兒童とか指示された兒童群

の方には、ツベルクリン反應陽性者が少く、普通健康兒と目されてゐる兒童群の方に比較的陽性者が多いと言ふ結果が發表されてゐるとの報告に、當教室兒童にも、それと同一結果が表はれるのではないかと不安が起つた。そこで再び大學小兒科の援助を依頼して、先の觀察兒童二十四人を除く八十四名の兒童に對して一齊的に同検査を施行していただく事にした。方法は前と同じやうにマント氏法により稀釋液は始め十萬倍のものを用ひ、第二回目には五千倍のものを用ひることとした。前觀察兒に比して發赤の非常に大きい者が可なり多く出たので一時は心配したが、一回二回併せて陽性者十七名となり之を病院に引率して血沈とレントゲンの検査を受けた結果は、僅かに二名の要注意兒童が發見されたのみであつた、内一名は先づ休學靜養せしめて其の後の経過を見る方がよいであらうとの報告を受けた。兩者とも其の原因ははつきりしてゐるので、家庭との協力によつて、將來の養護には十分の完全を期することにしたが此處には詳述をさし控へる事とする。

結局ツベルクリン反應検査、赤沈及びレントゲン検査に於て要養護兒童と決定した者は當教室に於ては五名(四、七%)で其の率に於ては極めて低位である。之は家庭に於ける衛生思想が比較的發達しゐることを裏書きしてゐるものであつて、結核性の疾患に關する限りに於ては當教室の兒童が他校の生徒に比して虚弱でないといふことを科學的に立證したものである。

以上觀察兒、普通兒の全部に就いての醫學的診斷の結果を述べたが、小兒期に於ける一時的な小さい疾患にかゝつてゐる兒童は可なりに多いが、將來に對して懸念を持たねばならぬ兒童の割合は比較的僅少であるから、定むるところの教育方針に従つて人物鍊成に邁進し、殊に普通兒には適當な鍛鍊を加へ、積極的な立場に於て身心鍊成の實踐を

工夫し、一部の観察児童群に對しては先づ異常又は疾患に對する原因を除去し、體位の改造、健康度の改善を計つて漸次鍛鍊を加へ、健全有爲の人物たらしめる事に努力すべきであるとの結論に達したのである。

六 家庭との聯絡

身體的特殊性に即應する養育には特に家庭と緊密な連絡をとる必要がある。幸ひにも當教室の保護者は、學校の方針を常によく理解し、其の指導を俟つて協力の實を擧げようとの熱意が強いので、學校の足りない所を補はれる事が非常に多いのである。以下其の二三について例示したいと思ふ。

一 連絡簿の活用

前章にも詳述した連絡簿は兒童の身體狀況の問題に就いて最もよく活用せられる。其の二三例を拾つて見ると

① 家庭より學校へ

○感冒性胃腸炎の爲め七月十三日、十五日の兩日缺席致させました。しばらく體操、作業等は見學をお許し下さる。(七月十五日)

○一昨日午後少々熱を出しましたので昨日は缺席いたさせました。まだ少し元氣が御座いませんでしたが、本日は登校すると申してきませんので、さし出しますが、もし中途にて弱ります様で御座いましたら恐れ入りますが、お歸へし下さいませ願ひ申上げます。(七月八日)

○此の頃野球に熟し過ぎてゐます故か歸宅後大へん疲勞してゐる様に思はれます。しばらく野球を止めて早く

歸宅するやう本人に御申聞かせ下さいませ。(七月十八日)

② 學校より家庭へ

○食事中雑談が多く、よく食物の咀嚼が出来てゐない様に思はれます。禮儀上にも身體上にも良くないと思ひますから御家庭でも次の點に御注意下さい。

- 1、食物を口一ぱいにほくばつて話をせぬこと
- 2、十分に噛むことの訓練
- 3、食事中の姿勢に注意すること(六月十日)

○最近學習中早く疲勞される様に思はれてなりません。何か原因があるのではないでせうか。(七月三日)

○冷水摩擦を時々忘れる事がある様子ですから御注意願ひます。(七月五日)

斯うした連絡が機に應じて行はれるから、學校では兒童に無理を強ひる事を避け、家庭では注意の不足を補ひ、早期に十分の手當が出来来る。積極的な鍛鍊を尊重する一面に此の様な養護や、良習慣形成への營みがあつてこそ即應教育の實は擧げ得られるもので、學校、家庭共に今後益々正しい活用をはかり度いと念願して止まない次第である。

二 親心

親は子の爲に隠し、子は親の爲に隠すといふことは東洋道德の美はしい一面であつた。然しそれは、學校と家庭との間に於ては許されない。愛兒の問題に關する限りに於ては常に學校と家庭とは一體である筈である。之に就いて大いなる感激を與へられた一保護者があつた。

ツベルクリン反應陽性兒の保護者である。舊觀念に捉はれてゐる人達の中には、科學的な明瞭な實證があつても、

之を否定しようとし、其の原因を隠さうとされる向もないではないが、其の保護者は進んで擔任訓導を訪ひ、その感染徑路を明かにされた。感染したと思はれる時、場所をも詳細に説明した上、今後の留意事項を十分に打合はせて歸へられた。其處には、學校と家庭、といった對立觀は微塵もない。全く一體的な態度であつた。是によつて、擔任には容易に感染源を理解し、今後の取扱ひ上の方針が確立し、何等の不安もなく、該兒の發育を見守ることの出来る端緒を得たのである。隠して迷はすのが眞の親心か、明かして協力を求めるのが眞の親心か。斯うした理解ある保護者の眞の姿に接し得た事だけでも擔任はどんなに満足であつたか知れない。

當教室の保護者はすべてがさうだとは言へないかも知れないが筆者はこの例に見る如き理解ある眞の親心に接する事は珍らしくないのである。次の實例も又その一つに數へらる可きものであらう。

三 雨中の水泳

○兒は良い發育の兒童であつた。けれども彼はすべての運動に鈍であつた。巧緻性に缺けてゐると思つた父親はあらゆる機會に之を試して見た。家に鐵棒を作つて、一つ年下の妹と一緒に種々の業をやらせて見た。妹の出来る事が彼には出来なかつた。ハイキングの時には木登りをやらせて見た。やはり妹の方が上手に上つた。父は種々考へ抜いた末、一つの妙案を思ひついた。砂俵を幾つか積み重ね一つの飛箱を作り上げた。子供達は大いによろこんで、毎日々々之を飛んで遊んだ。勿論父親自ら之を飛び要領を示し指導することも屢々であつた。子供の巧緻性はだん／＼と培はれて行つた。

或時○兒は右の頬に大きなすり傷を作つて登校した。聞いて見ると、今度新しく作つた家の庭の土俵で、父親に投

げつけられたのだとの答であつた。今春大病を患つた父親は、夏になつても海水浴をする事が出来なかつた。母に子供を託して海岸に送つた後、多忙な仕事の餘暇を見て一日子等を尋ねた。海岸に着いた時は雨であつた。それでもゆつくり出来ない父親は早速子供等を海に引き出し自分は傘をさして子等の泳ぎ方を見守つた。何時か母が呼ばれ、母に傘を渡して泳ぎの型が教へられた。母親が父に傘をさしかけ、ひざまでつかつた父親が子供の手を取つたり、禰をかまへたりして水泳させてゐる様子は、心なき人々にはどんなに滑稽に見えた事であらう。然し此の話聞いた時、私は目頭の熱くなる思ひがした。病後の身を忘れて、雨の海に子等の水泳を指導する父親の姿は實に尊い捨身の行であると思つた。

斯うした眞の親心に接する時、我々はまだ／＼自分の兒童に對する愛が足りないことを反省させられて、胸の痛むのを覚えるのであつた。

皇國歸一の皇民の鍊成は獨り學校のみの仕事ではない。今こそ學校が、社會が、親が、兄弟が、過去の一切を振りかへつて、此の親のやうな眞愛の情を子等のすべてに捧げ國家の意志に添ふ事の出来る人物の基礎を培ふ可く心掛けることは目下の責務といはねばならぬ。敢て此の實例を世の親達にさ／＼げんとする所以である。

七 智的素質の把握と即應教育

一 智的素質の把握

一 智的素質把握の二方面

児童の智的素質の把握にも科學的方法による所謂智能検査法と児童の行動そのものから把握しようとする立場との二つがある。兩者はもとより近代科學、殊に心理學の教へてくれた最も有力な素質把握の方法であつて、児童教育の上に輪車の重きをなすものであるが、人物録成を目ざす個性教育の實踐に於ては今一度之が適否を検討して置かねばならぬ。

1 智能検査法 現在我が國で行はれてゐる數種の方法中には、團體法と個人法の二種があり、何れも児童の智能的素質——常識的に言へば學習に耐える能力又は新しい状態に順應して行くことの出来る天賦の力——の品等を數字を以て評價しようとするもので、其の科學的な調査法は確かに妥當公正な結果を明示し得ると思ふ。然しながらそれがあまりに科學的である爲に、時に運用者の側に於て其の眞價の判斷を誤らぬとも限らぬ危険性をもつてゐる。智能検査法そのものには缺陷はないにしても運用者側に活用の能力が不足してゐれば、其の價値を半減するものであることは言ふ迄もない。然もあまりに利便すぎる爲に機械的になるおそれがあり、教師の側に於て、それを教育全般に浸透させ得ない場合も皆無と言ひ難い。當校は早くより之が活用の必要を痛感し幾回にも互つて實施した結果は屢々發表した所である。然しながら行動心理學の擡頭と共に、之に對する一つの疑惑を抱き始めたのである。即ち我々は斯かる方法によらなければ児童個々の本然の姿を把握し得られないものであらうか、日々児童と接觸し、教育の大道を行じながら、其の間に於て十分に児童の本質に觸れ得ないものであらうか、斯うした反省に對して一つの示唆を與へられたものは吉田松陰先生の教育觀と、之に伴ふ教育實踐の姿とであつた。

先生は「人賢愚ありと雖も、各々一二の才能なきはなし、湊合して大成するときは、必全備する所あらん、是れ亦年來人を問して實驗せし所なり、人物を棄置せざるの要術、是より外又あることなし。」(遺著二、二三八)又、「凡そ教訓の言人を待つに尋常を以てするあり。人に望むに絶異を以てする者あり。余が講ずる所も言さず、自ら二つの者別なき事を得ず。」(講録、卷上、十ノ十一)といひ、事實に於て弟子の個性をよく知悉して、よくこれに應じて教育の方法を講じられた。先生は常に子弟に接するに藩籬を撤し、城府を設けず、繩墨を立てず、會講連業兄弟骨肉の如く生活し、師弟心と心と相傳つ、の状態に於て觀察された。其の觀察例を引用するならば

○久坂玄瑞「玄瑞行年十八、才有り、駭々進取、僕輩の能く裁成する所に非ず」(遺著一、七、一一一)「久坂玄瑞、防長年少第一流人物、固より亦天下の英才なり。」(同、一一六)

○高杉晋作暢夫の識見氣魄他人の及ぶ莫し。

○入江九一「汝識見高く膽大、吾の愛敬する所なり。恨むらくは才足らず、學尤も足らず。怨讐の氣過當、是汝の病なり。」(文藝卷四、三四)

○野村和作「敏才學問も進むべし。」杉藏は沈着の性、和作は發逸の性、皆妙」

○品川彌二郎、彌二の才易からず、年穉しと雖も學幼なりと雖も吾の相待つ則ち長者に異らず。(文藝卷二、七)必有三進境、但才勝て動き易し、(遺著一、第十三、四ノ四)彌二郎大是有情少年、可愛可愛」(遺著二、四七六)雖一少年一可恃(同)事に臨んで驚かず、少年中稀に觀るの男子、吾屢之を試む。(文藝卷四、與三子遠一)

○實市(久坂)の才縦横無礙、暢夫(高杉)陽頑、無逸(吉田稔磨)陰頑、皆人の駕馭を受けず、高等の人物なり。(同、三五ウ)

○御國にて杉藏兄弟（入江九一、野村和作）去年以來忠赤可貴三月二、杉藏尤可貴人物、余臨去日、杉藏の思、玄瑞の才、清太の知、皆吾以上の人なり三人親愛せよ。く。（遺著一、第十三、三七一）

○天野精三郎「鑒識あり、」奇識あり、人を視る蟲の如し。その言語往々にして吾をして驚服せしむ。（文藝卷四、三、三六ウ）少しく才を負み勉強せず、是可惜（同、四〇四）

伊藤利輔（博文）利輔亦進む。中々周旋家になりさうな。（同）

太郎（内山？）松介（杉山）の才、直八（時山）小助（山縣明朋）の氣、傳之輔（伊藤）の勇敢事に當る。仙吉（國司）の沈靜、有志亦皆才を謂ふべし（文藝卷四、三十六丁）

此の識見と此の叡智こそ、神國の幹としての幾多の人物を鍊成し得た根本であつて、實に教育——殊に日本的な教育——の本姿を具現されたものと見ることが出来る。吾等は茲に新たなる示唆を與へられて、兒童の智的素質を兒童個々の行動其のものの中に把握することに努めたのである。

2 行動と智的素質 兒童の智的素質を最もよく表現する機會は、學習活動と、其の結果としての學業成績である。更に智的素質と特別の關係ある才幹は、級友間の交りや、學校生活、社會生活、家庭生活の中に示現せられる。随つて我々は、日々の兒童の之等に於ける行動そのものへの觀察を十分に怠らないならば、兒童各自の生得的な智的素質の把握も大體に於て可能なりと信ずる。智的素質は常に受容・理解・表現の三つの行動として顯現する。受容と理解は攝受への過程である。兒童個々が素直に教へを受け容れる能力を持ち、然も之に對して十分の理解を持つならば、之は單はる受容でなくして攝受である。教へに對して攝受の能力に劣る者は先づ智的素質の劣れる者としなければならぬ。

ばならぬ。更に攝受されたものは表現されなければならぬ。日々の生活行動に之が具現され利用されて始めて眞の智的能力と見ることが出来る。才幹は之に屬する。斯くて兒童個々の智的素質は日々の生活そのものの中に把握することが可能であるわけであるが、之を把握するものは教師自らの叡智であるから、我等は又自己自らの反省をも忘れてはならないのである。

二 即應教育の指標

「教へ育てるといふ語の意味は、全く意志、生命のない素材から、自由に、隨意的に作り上げるといふことではなく、そのもの自體が生育發展の能力を有し、又其の過程にあるものに對して、その妨害となるものを取り除き、その發展を助長促進する爲に配慮するといふことである」勝部氏現象學的教育學（一五頁）智的素質の把握も此の爲の一營爲に過ぎなかつた。随つて、我等の即應教育の直接指標は次の二點に要約される。

1 自己心性の徹見 兒童個々に自覺を與へることの意味である。自己の本質、自己の智的素質を自覺させ、自覺に立つて自己が自己を鍊成する様、その契機たらしめることである。兒童は未だ自己の本質を自覺しない爲に、日々の生活そのものを中心に、随つて、自己の天賦の能を十分に發揮するといふことが出来ない。自己の本質が自覺され、當爲の彼岸が明瞭に意識せられる様になるならば、兒童の自己鍊成は自づと可能の領域に進展を見せる。この進展こそ即應教育の最初の目標でなければならぬ。

2 障害の助去 兒童個々が夫々自己の本性を徹見するに至る迄には種々の妨害を受ける。又本性その物が、先天的、後天的な障害や、身體・環境・生活等の色々な影響を受けて、覆ひ隠されてゐる場合も少くない。吾等は此の

両方面の障害を取り去つて行くことに努力を拂はねばならない。

此の二つに即應教育の方法的な指標を見出した吾々は、之を日々の教育実践の上に如何に具現すべきかを考へた。さうして前者の爲には、先づ學校に定むるところの教科全般に就いて一應基礎的陶冶を加へることにより、自己の向ふ可き方向への自覺の基礎づけをなし、自修工夫の機會を與へて自己鍊成の根基を培ひ、後者の爲には更に家庭との連絡による障害的影響の除去に努め、事上鍊磨によつて、兩者の融合的鍊成の實を擧げる可く計畫したのである。以下その具體的な方法に就き略述を試み度いと思ふ。

二 即應教育の實例

一 基礎的陶冶

兒童期に於ける價值意識は未だ分化してをらず、ある文化領域へ特殊の憧れを持つやうなことは屢々見られるが、決して之は固定してゐるものでなくて、やがて他の領域へ移りゆくことの尠くないものである。之は兒童期に於ける自然の傾向で、経験も淺く自我の發育も不完全な彼等が常に新しいものに興味を持ち、又他の方面は知らない爲に之まで出會した自分の経験範囲内に於て自己の趣味を定め、或は又他人・即ち父母、教師、朋友等の人物趣味に依つて自己のそれを左右され勝になると言ふのは當然のこと、言はねばならぬ。今まで理科に對して非常な興味を感じ、自己の趣味として種々の採集等を行つてゐた兒童が、國史を習ひ出してから急に國史黨に轉向したとか、國史に興味を持つてゐたのは教師の指導法の巧みさからであつたとかの例は珍らしい事ではない。随つて此の時代の學科成績に表はれる特殊傾向を徒に尊重し、兒童の好む處に向かせて教科の努力に

偏頗を起させ、それによつて智能即應の教育が行はれてゐると考へるのは確かに偏見で、かのエレン・ケイ流の特殊性即個性の誤りに陥れるものと言ふ可きである。

斯くて吾々の行する智能即應の教育の一段階は、教科課程を全般的に忠實に學習させ、廣い個性の素地を培ふことから始められるものである。ピラミット型の廣い基底の修養を藏して高い個性の頂點に於て活躍する人物を養成する爲にも、又兒童が將來自己を捧ぐ可き文化領域を、兒童自身に發見させる爲にも、斯うした基礎的な陶冶は必要不可欠のものといはねばならない。

此の基礎的陶冶を全體的に全からしめる爲に當教室が從來執つて來た方法は、學科擔任制と交換授業の併用とであるが、其の効果・方法等に就いては前章に略述した所であるから本章には之を省略することとし、其の間に於て尙重視して來た個別指導の實例を擧げて見ることにする。

二 個別指導

1 放課後の一時 放課直後の一時間程は一日中で職員室の最も賑ふ時である。或る教師の前では二三名の兒童がせつせと算術のプリントをやつてゐる。或る教師の後の應接室からは讀本朗讀の聲がかすかに聞えて來る。又或る教師の前には一日の生活を反省してゐる二三名の兒童がある。

斯うして學校に於ける生活上の反省は何時も學校に於て解決される。算術の理解が不十分であつたり、前日病缺した爲に前時の指導を受けなかつたといふ様な兒童に對しては十分に理解されるまで個別指導が行はれるし、朗讀に習熟し得なかつた兒童に對してはそれが十分に出來得る迄に練習せしめられる。「學校であつた事は學校で。」の兒童と教

師の共同的な錬成は殆んど毎日繰り返へされる。それは校則の定むるところではない。自然に醸成された教員一體の教育行である。教へる者は全児童への徹底を期し、學ぶ者は師の此の愛育の行によるこんで應じようと念願する。勿論之は教室その他の場の延長であつて、教師の個別的な觀察及び指導は、學習の場そのものに於て行はれるのであるが、尙其の場に於て盡せない者に對しては斯うした時間が必然的に要求せられるのである。家庭での復習や豫習の課題は持ちかへる事はあつても不徹底なまゝで歸宅することは絶対にさせない、其處に錬成行の苦心があり、児童のすべてに「日々是好日」の歡喜と希望を體現せしめんとの吾等同人の念願の現れが存するのである。

2 甘へ子 ○兒は編入以來一年間位は學業成績はあまり勝れなかつた。殊に目立つて見えたのは、文字が亂雑であるといふこと、言語が不明瞭で自分の意志を十分に發表出來ないことであつた。

然し○兒が決して智能素質に劣つた児童でないことは次の二方面から觀取された。その一つは運動方面に相當の技術を見せることであつた。殊に機械・器具を使用する體操が得意であつて、一度示範されると繩飛にしても、飛箱にしても、低鐵棒、立棒、釣り繩、等たいていのものが相當美しく實演出來た。

今一つは彼の同胞の進學の状態である。其の三人までが市内の小學校から府立○中と市立○商に入學し、學業成績は常に優秀と言はれてゐる。長兄は海軍兵學校を志願してゐるといふから相當な秀才と見てよからう。斯うした同胞を持ち、前述の様な理解力と巧緻性を持つこの児童が、素質的に他児童より劣つてゐるとはどうしても考へられない。「基礎的錬成の不足だ。」と直觀した擔任は、他職員の協力を求めて先づ言語の修練から根本的な再教育を始めた。

教室では最後まで口の中で一度答へて見ればつきり論旨が通る様になつてから舉手すること、職員室へ用件を持つ

て來る時はどの職員の前へ來る場合でも、職員室の前で一度用件全部を口誦してみた後に入室すること等が指示され十分に意志の發表が出來ない場合には何回でもやり直しをさせられた。素直な彼は此の訓練を忠實に守つて實行した。家庭とも十分な連絡がとられた。

文字に就いては○年の始めから教寫しによる形の練習が課せられた。最初の字は下書のプリントがあつてもなか／＼形が整はなかつた。家庭でも學校でも根氣よくこれを繼續せしめた。斯うした兩方面の個別指導の結果は彼の學習態度をだん／＼よくして行つた。○學年の今日はノート・綴方等の文字は目立つて美しくなり、口頭發表もよく意圖が通じるやうになつた。隨つて學業成績もだん／＼よくなり最近ではまる／＼と太つてさへ來て潑刺と活動してゐる。

斯うした例の児童は何れの學級にもまゝ見受けられる。特に老人のある家庭の児童とか、大勢の兄弟中の末子であるとか、兄弟との年齢の差が大へん大であるとかの場合、甘へかされすぎて、基礎的錬成が十分に行はれてゐない爲に、行動として表現されるものは智的能力に劣るものゝ様な様相を呈する場合が少くない。當兒等もその一例であつて、幼時から徹底的な錬成が行はれず常に祖母の憐みがかゝつて、何事をさせても最後まで完成する事の出來ないといふ児童に陥つてしまつてゐたのである。斯うして早期に本質的な能力を把握し即應教育がよく効を奏したことは當兒の爲にも大いに喜ぶ可き事といはねばならぬ。

3 生活と學業成績 六月の或日朝から學級を參觀してゐた○兒の母親は、擔任の手すきを待つて、最近の愛兒の學習態度や成績のことを尋ねて見た。擔任は言ひにくさうに、どうも成績がすぐれないこと、教室では落ちつきがな

く、始終不安に満ちた態度で、依頼心が非常に強いこと、自分で進んでやらうとする氣概に乏しく、生活全體がだら／＼してゐることなどを話した後、觀察簿をめくつて其の實例を示した。

○速度を見る算術考査では人のこゝが氣になつてうろ／＼し他兒が二十題以上にも進んでゐるのに四五題位より出来てゐない。(五、二)

○人の話を落着いて聞くこゝが出来ず、すぐ近くの者へ話しかける。(五、六)

○成績物の名前でも正確、丁寧に書かすよいかげんに書いてゐる。つまり身を入れて物をすることが出来ない。(五、九)

○算術の事實問題のよみがまだすらく／＼いかぬ、一年一學期程度。(五、九)——中畧——

○足をよく椅子の上へ上げてゐるし、朝會の靜坐も始終神經質らしい顔をして目を開いてゐる。身體を鍛へる必要はないか。(六、三)

○新字の筆順を少しも守らぬ。特に年長作紙点すづ等に誤りあり注意不足。(六、六)

——後筆者畧——

擔任は各項に就いて一々説明した後、靜かに言つた。「大變悪い所ばかり申し上げた上、こんな事まで立入つてお伺ひするのは、失禮だと思ひますが、御家庭での生活指導がどこか十分に行きとゞいてゐない所があるのではないでせうか。兒童の學習成績は唯生れつきの智的素質だけによつて決定するものではありません。又學業成績だけを目標にした教育は眞の教育ではありません。人物鍊成を目ざす教育は、常に兒童の生活全體への導きを忘れてはならないのですが、御宅に於ては此の點に就いての御注意が幾分缺けてゐるのではないでせうか。」

保護者は思ひ當る點があつたらしい。擔任の一語々に耳を傾けてゐたが、擔任の話が終ると、

「よく判りました。確かにお言葉の通りです。私どもは、成績ばかりに氣をとられて子供の躰がゆるがせになつて

ゐる所が多うございました。」

さう前置きして、いろ／＼家庭の内情を説明した。父の仕事場が別である爲、母親も殆んど其の方へ出かけ、家では女中が主に子供の世話をしてゐること、食事なども、たいい子供と一しよに出来ず、躰の機會が十分でないこと、父も子供を熱愛して、日曜日等は方々へ連れて出られるけれども、大たい兒童の歡心を買ふ様な、玩具を買つて與へるとか、食堂で食事をさる等のことが多いこと、など話した後、

「父は何時でも子供の成績の悪いのは、お前の頭が悪いからだ。わしは子供の時代から成績が二番と落ちた事はなかつたと申します。そんな時は何とかして成績をよくしたいとあせりますが、父の仕事の方へ、手をとられる事が多いものですから思ふにまかせません。然し今後は子供を中心とした生活に改めなくてはなりませんから、一度父にも先生からお話しいたゞきますよう。」

と眞情を罩めて依頼し、學校を去つた。

臨海學舎の生活訓練を終つて間もない頃、母親は父と共に擔任訓導を訪れ、「家庭教師でも依頼しては。」と相談した。擔任は「まあ、もう一度私の記録をお聞き下さい」とさう言つて、例の觀察簿を取り出し、臨海學舎中に於ける○兒の記録を読み出した。それには次のやうな事が書かれてゐた。

○海では恐がつて顔をつけない。(七、二二)

○トランクへ持物なくちゃ／＼につ／＼つ／＼で何へん注意したり、直してやつて見せても一人では整理出来ぬ、餘程家庭生活の改

善を行はねばならぬ。(七、二四)

○鼻に出来ものが出来たが大分直つた。行儀はやはり悪い。ふさんの上を走り廻つたり、御飯をこぼしても平気でその場に拂ひ落して歩いて立去つて行く。(七、二五)

○橋立を歩けば態々店先に立寄つてするめのほしてあるのをたゞいて見る。(七、二六)

○おびをだら／＼下げて平氣、シャツもパンツの下へ入れないで見つこまないまゝである。(七、二七)

○箸も茶わんも普通に持てぬ、特にひちを飯臺につき、茶わんを持たないで食事をする。

○お汁物は兩掌で向ふから抱えるやうにして吸ふくせがある。

○正しくすはれぬ。(七、二八)

○海岸の砂の上へパンツのまゝ尻を下してベト／＼にしてゐる。

○シャツを裏向きに着て平氣である。

○宿題の算術練習帳をぼろ／＼してゐる。(七、二九)

○茶碗に飯粒をたくさんつけて残したまゝ放つてゐる。

○手に御飯をつけたまゝ口の中へ押込んだり副食物を手でたべたりなごする。(七、三〇)

聞いてゐる間に父親の考へは變つて來た。家庭教師ではいけないといふ事がわかつた。

それから後○兒の家庭生活は一變した。父親自らの生活が改り、女中も其の他の雇人の態度も厳しく躰けられた。

母親は子供の登校を見送つてから父の仕事を手傳ふこととし、子供が帰宅する迄に家に歸へつて彼の歸へりを待ち受けた。家族打揃つての食事の機会が多くなつた。其の結果は○兒の學習態度はすっかり改り、殊に不得手であつた算術は級中でも二三人の中に入る程の優秀な成績を示した。學業成績と生活、擔任はあまりの變り方に今更の如き驚き

を感じたのであつた。

三 自修工夫の例

1 圖書室 雨の日の休憩時間や普通日の放課後には職員室横の兒童圖書室が開放せられる。此處では兒童が自由に自分の読み度いと思ふ本を書棚から抜き出して読み得るやうに、あらゆる種類の圖書を網羅してゐるので、兒童圖書室としては先づ完備したものと言ひ得るであらう。中には随分汚れた圖書もある。表紙が破れたり、表装の糸が切れたりしてぼろ／＼にいたんだ圖書もあるが、さうしたものの程彼等の先輩が読み耽つて各々その知性を鍊磨したものだと思ふ故か兒童達はいつまでもそれに深い愛着と、強い魅力を感じてゐるやうである。新しい圖書に對しても又後輩へ、自己の趣味や個性を語り残すものとして大切に愛讀される。斯うして何時の時代にも兒童達は毎日此の圖書室で何十分か何時間かを讀書三昧に浸ることを此の上もない喜びとしてゐる。此の間に啓發される兒童の知性は全く自修工夫の自己鍊成の結果としての尊さを持つてゐる。又一面兒童が常に此處に出入してゐる間に行はれる情操の醇化や個性の廣い根基の啓培は教育上見逃すことの出来ないものと言ひ得る。

初等教育に於ける個性教育は決して個性の固成を強要するものではない。然も其の反面に、自然に開かれて行く個性的萌芽に對しては十分の保護と正しい導きを怠らない事が要請せられる。圖書室の完備は後者の立場に於て重要な役割を果すものと言ふことが出来る。何となれば讀書はやがて思索を生み思索は更に價值實現への創意に發展し、其處に個性的自覺の基礎が臍氣ながらも定まつて來るからである。

2 自由研究の例 昭和十三年年度の卒業生の一人が「太陽系の研究」といふ題目で原稿紙約百枚に亙る論文を作成

し當時の職員や同級生を驚かせた。其の論文は以後ずつと兒童圖書室に陳列され、心ある兒童達の注意を引き且つ興味を以つて讀まれた。兒童の創作になる此の論文は、同學年の兒童に非常に理解され易く、然も讀む者の心を打つところが大きであつた。遂に昨十四年度の尋六の兒童十五名は自發的に、此の様な論文の作成の機會を與へられる様に申出た。擔任は先づ兒童個々に研究の方向と計畫を語らせ、單なる書物よりの拔書をいまして研究計畫を許し、着手した後も、折々研究の過程及び方法を個別的に報告又は發表せしめるなど、兒童の自修工夫の態度を見守りつゝそれが完成への努力を繼續せしめた。其の結果は何れも五十枚乃至百枚の研究録を完成し、夫々一定期日までに提出したのであつた。歴史的なものもあれば、科學的のものもあり、圖解、グラフ、採集標本を添えたものなどがあつて非常に興味深いものであつた。

今年度の六年生は一學期早々自由研究に着手し、學期の終りまでに、昨年以上に大部のものを完成した。兒童達には既に斯うした自修工夫の能力と、それに導かれて自發的に研究しようとする向學心の萌芽とが育てられつゝあるのである。未だ個性的なものへの進展とは考へられないけれども中には或は之を契機として個性への發展を遂げる兒童があるかも知れない。自ら伸びんとする者への見守りと、助力は人物鍊成の教育には缺く可からざるものとの信念を擔任は常に同人に語つてゐる。

3 入選 此の明朗な題目の下に最後の實例を挙げ、拙い本稿を結ぶ事の出来るのは筆者にとつて此の上もない喜びである。昨十四年度には當時の在學兒童からの全國的な展覽會に三名の入選者を出すことが出來た。五年生のS兒とO兒、四年生のK兒である。前の二人は、東京に於て開かれた全國理科振興展覽會に於ける入選であり、後のK兒は

興亞書道展覽會（日滿支三國共同主催）に於ける一等入選である。殊にK兒は、總理大臣賞の榮譽を擔つて當教室にとつても歴史的な光彩を残したである。

S兒とO兒の出品物は共に昆虫標本で、前者は「油蟬が皮を脱ぐ有様」を標本化したもの、後者は郷土の昆虫を七箱に整理したものであつた。現在でも斯うした標本の作製は四年生以上の兒童には随分熱心に行はれて居るし、たま／＼入選したと言ふ一事だけならば敢て例とするに足りない問題であるかも知れない。けれ共兩兒は共に「人物鍊成の個性教育」の最後の一頁を飾るにふさはしい一挿話を持つてゐるのである。

S兒の蟬の標本は彼が四年生の夏休みに完成したものである。以前から理科的な方面に深い趣味を有してゐた彼は今年こそは思ふ存分山野を跋渉して、自然の神祕に浸ると共に好きな昆虫採集でもしたいものと心ひそかに念願してゐた。ところが不幸にも其の六月頃から急に父が發病し、その病勢は日々に悪化したので彼は採集どころか夜の目も眠れない程の心配と不安の幾日かを過さねばならなかつた。夏休になつても快方に向はない父を眞心籠めて看護しながら友達の夏季作業を思ひ、自分の爲す可き道を色々に考へつゞけた。幾度か夜を徹しての看護の間に彼は「此の夜間を利用して。」と一つの方法を發見した。彼の瞳は輝き、彼の心臓は高鳴つた。或る夕方、程遠からぬ御所の並木の下に、自轉車用のランプをたよりに、地中から這ひ出したばかりの蟬の幼虫を一匹二匹と採集してゐる彼の眞摯な姿が發見された。二時間程の努力が酬ひられて、彼の蟬籠には三十匹に近い幼虫が集められた。採集中にも始めに採つたものは脱皮を續けてゐる。彼は矢の様に走り歸へつて、病める父の枕許で、脱皮經過の觀察と固化の作業を開始した。幸ひにも注射の操作は、醫者がする父への注射によつてよく會得されてゐた。時計をにらみながら刻々に變化し

て行く羽化の状態を一匹の幼虫によつて観察し、他の同状態の幼虫に次々と注射を加へて一匹々々固定化して行つた。一時間二時間三時間、十二時になり、一時になり、三時、四時と夜通しこの作業が続けられて、明方には、羽化の経過を示す各種の状態の標本が完成した。彼は満足だった。何物にも換へ難いこの一晚の不寝の勞作を、丁寧に標本箱に整理し、新學期の訪れるのを待つて提出したのであつた。擔任も驚いた。他の職員も感歎の聲を放つた。さうして出品・入選の段階に達したのである。

外に活動出来ない事情をよく利用して、内に活動の方法を工夫し、父への注射をそのまま蟬への注射に活用した頭腦の明敏さは、實に第一編に説かれた隨所作主の具現である。彼の入選は作品その物に對する賞讃でなくして、實に此の自修工夫、隨所作主の體現に與へられた當然の賞揚であつたと言はねばならない。當教室の教育方針の徹底が斯うした形になつて現はれ、身を以つての立證となつた事に對して、吾等同人は言ひ知れぬ満足を感じると同時に、心からなる感謝をさへさげ度い思すら禁ずることが出来ないのである。

O兒の昆虫採集にも感歎すべき事實がある。S兒が外的活動の出來難い事情に懊惱してゐる頃O兒は盛に近所の野原や植物園方面を走り廻つて昆虫の採集に餘念がなかつた。四年生位では、事實、採集にしても展翅にしてもなかなか容易なわざではない。況して標本箱への整理、名稱の調査などに至つては一通りの苦心ではなかつた。然も其の苦心を征服して遂に入選の榮冠を獲得せしめたものは何であつたらうか。彼自身の眞剣な自修工夫と理解ある兩親の誤りない輔導であつた。彼は何れの教科に就いても常に優秀な成績を示してゐた。特別手とり机側に添つての指導ではなかつたけれども常に學校の方針を理解して、それに添ふ可く一家を擧げての注意が拂はれてゐた。此の簡単な

事實——學校の方針をそのまま家庭の方針として父母共に愛兒の教育に協力する——たゞそれだけの事がなか／＼容易な事ではない。熱心に家庭教育を行ふ保護者はあつても、誤りなき輔導の果せる家庭は少い。然もO兒は此の理解に立つ父母の不斷の心づくしによつて何時の場合にも優秀な成績を保持し、級友のすべてに愛敬されて五年終了と同時に中學に進んだのである。七箱の昆虫標本作製も、常に父母のたゆみない看取りがあつた。一人兒の彼は姉の指導を受ける何物もなく、殆んどすべての作業を自修し工夫して行ふより他はなかつた。深い愛情による看取りはあつても手を取つての指導はなかつた。幾度も失敗し、幾度も投出した展翅作業も、父母のやさしい激勵によつて続けられた。上級生の誰彼、参考書の二三から得た乏しい知識に種々の工夫をこらし、自修の勞をつゞけて遂に四箱の標本を完成した時の喜びはどんなであつたらうか。

五年生の夏休み中には更に熱心に採集した。もう晝間採集だけでは満足しきれなくなつた彼は、父や母に同行を頼んで、比叡山や八瀬の方まで夜間採集に出かけた事も屢々であつた。さうして又、其の夏にも三箱の標本が完成し、併せて出品、三等賞入選の榮冠を獲得したのである。理解ある父母の、誤りなき眞愛が、遂に愛兒を自己鍊成の域にまで到達せしめ得た實例、然も自修工夫の精神的基礎鍊成が、遂に此の榮冠となつて具現した事は今更の如き感激を覺えるのである。

K兒の總理大臣賞も又隨所作主の境地具現の活例であらう。生來蒲柳の質であつた彼は四年の一學期は殆んど病缺の日が続いた。彼は此の體質を精神の統一によつて改良せんものと、課外に師を求めて書道へ精魂を打ち込んだ。醫師のすゝめに隨つて學校を休む様な日にも習字だけは怠らなかつた。筆一管にすべての精神を傾倒して書道三昧に浸

る時、彼は病苦も何も忘れ去つてしまつて體内に異常の生氣の満ちて來るのを覺えた。學業に對する不安が彼の神經をいらだたせようとする時、すぐ浮んで來るのは、擔任教師の論しの言葉であつた。

「病氣になつた時は、病氣そのものを樂しめ、決して他の境地へのあこがれを持つてはならない。」

彼は病氣そのものを樂しみ、書道に精進し得る幸福を考へた。さうして來る日も來る日もそれによつて精神の統一を計つた。其の結果は、體質もめき／＼と變つて來た。遂に二學期以後は殆んど病缺の日がなくなり、三學期には皆勤の實を擧げるに至つた。興亞書道展覽會への出品は其の三學期の作品の一枚であつた。「去華就實」の四字に全心全靈を打ち込んで完成した一書は、遂に日滿支三國代表の審査員の魂を動かした。總理大臣賞、百餘名の學友の小さい魂をどんなに感激させた事であらう。然しさうした中にも彼K兒の澄み切つた瞳は、隨所作主、此の思がけなき榮譽を如何に活かす可きかを考へてゐるかの様に見えるのみであつた。

第五篇 人物鍊成の行事教育

人物鍊成の行事教育

塩見友治

二六四

目次

一、國民學校と行事	(二六五)	二 時局と行事	(二六六)
一 國民學校の特質と行事	(二六五)	二 行事教育の意義	(二六九)
二、行事教育の意義	(二六九)	三、行事教育の目的	(二七〇)
一 行事の意義	(二六九)	一 國體觀念の確立と滅私奉公	(二七一)
二 行事教育の意義	(二七〇)	二 綜合實踐と心身鍊磨	(二七三)
三 國體觀念の確立と滅私奉公	(二七一)	三 綜合實踐と心身鍊磨	(二七三)
四 綜合實踐と心身鍊磨	(二七三)	四 自修工夫の習慣	(二七六)
五 自修工夫の習慣	(二七六)	五 體位向上	(二七九)
六 體位向上	(二七九)	四、行事の選擇	(二八〇)
七 體位向上	(二七九)	一 國家的行事	(二八〇)
一 國家的行事	(二八〇)	二 教科との關聯	(二八三)
二 教科との關聯	(二八三)	三 家庭的・社會的行事との關聯	(二八五)
三 家庭的・社會的行事との關聯	(二八五)	四 學校の歴史性	(二八八)
四 學校の歴史性	(二八八)	五 日常生活の娯	(二九〇)
五 日常生活の娯	(二九〇)	六 兒童の興味	(二九六)
六 兒童の興味	(二九六)	七 兒童の自覺	(二九七)
七 兒童の自覺	(二九七)	八 新鮮なる意識	(二九九)
八 新鮮なる意識	(二九九)	六、我が第二教室に於ける行事教育	(二九三)
一 綜合的實踐	(二九七)	一 行事體系	(二九三)
二 組織化	(二九九)	二 主なる行事の實踐姿態	(二九三)
三 兒童の參畫	(二九九)	日々の行事	毎週の行事
四 兒童の參畫	(二九九)	毎月の行事	一年の行事
五 兒童の參畫	(二九九)	皇軍感謝	美化作業
六 兒童の參畫	(二九九)	合同食事	一日參拜
七 兒童の參畫	(二九九)	比叡登山	郊外演習
八 兒童の參畫	(二九九)	保護者會	懇談會
九 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十一 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十二 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十三 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十四 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十五 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十六 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十七 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十八 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
十九 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)
二十 兒童の參畫	(二九九)	懇談會	(三〇三)

一 國民學校と行事

一 國民學校の特質と行事

國民學校は、明治以來の教育の諸々の欠陥を精算して、皇國の道と一體的方法による基礎的鍊成といふ大きな特質と、全國民の興望とを擔つて日本の教育の眞の姿を眼前に浮び上らせようとしてゐる。この大きな特質が、學校に於ける教育行事と如何に關係するか、行事教育が、この大きな特質を如何に果して行くかについて以下考へて見たいと思ふ。

一 皇國の道

日本の教育の眞の姿を最も如實に表現したものがこの「皇國の道に則り」て國民を鍊成せよと言ふ點であらう。教育の凡てが皇國の道に則りてなさるべきは、明々白々で、從來やともすれば、具體的な日本人を育成することを忘れ、日本の國體・歴史を離れた抽象的な個人を不知不識の間に教養するやうな弊に陥つてゐた迷夢を、之によつて覺醒させられたわけである。こゝに國民學校否教育全體の大眼目があるのであつて、特に第二の國民の教育は次の國家を作ることであることを想へば、當然すぎる程當然なことで、これを擧げられねばならなくなつた根本原因をつくづく反省させられる次第である。

然らば我々の學校行事は如何にこの特質發揮に關與し得るであらうか。苟も日本の教育は、學校教育にしろ、社會教育にしろ、家庭教育にしろ凡てが皇國の道に則りてなさるべきで、之等教育の凡ての場と特に關係深い學校行事が

之又この原則に關係の深いことは論ずるまでもない。凡ての學校行事の目標が皇國の道の修鍊として擧げられねばならぬことも亦當然である。殊に最近の世界情勢は我國の非常時に益々拍車をかけつゝある時、國體觀念の昂揚による國民的自覺は正に皇國の道に則りてなされる行事教育に負ふ所頗る大なるものがある。

二 一體的方法による基礎的鍊成と行事

次に擧げられる特質としては、一體的方法による基礎的鍊成といふことである。「教育ノ全般ニ互リテ皇國ノ道ヲ修鍊セシメ」教授、訓練、養護ノ分離ヲ避ケルコト」各教科科目ハ其ノ特色ヲ發揮セシムルト共ニ相互ノ關係ヲ緊密ナラシメ」儀式、學校行事等ヲ重ンジ之ヲ教科ト併セ一體トシテ」心身ヲ一體トシテ教育シ」家庭及ビ社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ」等國民學校の教育方針の殆ど總てに、其他審議會答申の各所にこの綜合統一の精神が現れてゐるのを見ても今回の國民學校が其の方法に於て如何にこの方面を重視してゐるかを窺ふことが出来る。

即ち皇國臣民たるの基礎的鍊成に當つて、全體的统一を確保しつゝ教育目標を達成しようとする所にその狙ひ所がある。然らば皇國臣民たるの基礎としては如何なるものが考へられねばならぬか。

要素的なる陶冶價值としては國家的社會的なるもの、論理的數理的なるもの、技術的なるもの、藝術的なるもの、宗教的なるもの、經濟的なるもの、心身の健康に關するもの等が擧げられるであらうが、之は何れの國民にも陶冶すべき基礎的なるものである。日本の——皇國臣民としての独自の基礎的なるものとしては、どうしても皇室を中心とした國家的社會的生活の核としての忠を第一とした人格の核を鍊成する所に、皇國民の基礎鍊成があると信じる。この核の血肉として他の部面の基礎を鍊成することが、日本に於ける國民たるの基礎鍊成と言はるべき方法であらう。

この基礎的鍊成に當つては從來の、全體を忘れ部分に没頭し、分析に流れて綜合を怠り、課程を重視し過ぎて諸種の行事を輕視しすぎてゐた教育の反省として統合的な方法が重視せられるのは誠に然るべきことである。教科外の行事を組織化してこれを教科との深い關係に置くことは今度の國民學校の一つの大きな狙ひの的であつて精算された教科の教育と、行事の教育が有機的に連關し統合されて相提携して行はれてこそ目指す皇國民の鍊成を期し得るのである。心身の一體化が叫ばれる所以もこゝにある。勿論行事だけに凡ての教育を統合して片附けるといふやうな偏行に陥つた極端な考へは完全な國民の鍊成からは除外されねばならない。

「要ハ教科教材ハ言フマデモナク學校教育ニ於ケル凡テノ施設ヲシテ皇國ノ道ノ修鍊ニ統合歸一セシメ、學校ヲ擧ゲテ眞ニ人物ノ陶冶、國民ノ鍊成ノ道場タラシメ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ルベキ國民ヲ鍊成スルヲ眼目」(田所委員長報告)としなければならぬ。教育の目的が究極に於て實踐にある以上、其の過程が實踐への鍛鍊でなければならぬことはいふまでもない。然しながら實踐を過重視すると前述のやうに偏知教育以上の弊害を伴ふ。一體的方法の狙ひ所は偏知教育の弊から蟬脱して、之が實踐實行を重んじて、眞の力にまで教育してその實を擧げようとした所にある。「學べることも行にならばして考へざれば、皆口耳の學といひて實の學問に非ざる也」(山鹿素行)である。

強固なる實踐力の養成は、刻下の急務であつて、この實踐の眞の力はよく一體的方法の徹底によつて培はれるであらう。一體的な取扱ひ方法は「實の學問」——眞の力——を持つた國民の鍊成には欠くべからざる方法で、この方法によつて基礎的鍊成を受けた國民には必ず旺盛なる實踐力も啓育成され得るのである。

以上の如く國民の基礎を一体的に統合的に鍊成する上に於て、學校行事は如何なる役割を持つか。皇國臣民としての人格の核たる忠の根本を國體觀念の確立にありとすれば、行事教育がかかる基礎的鍊成に如何に多くの參畫をなすかは論ずるまでもなからう。こゝにも亦國民學校に行事の重視さるゝ大きな根據があるのである。

橋田文相が「青少年學徒諸君は刻下の我國が如何に重大な局面に直面してゐるかをよく認識し眞に日本人として固い信念のもとに心身一如の鍊磨に邁進せられることを切望してやまない。從來やゝもすればいはゆる學問は心の問題であり體育は身體の問題であるといふやうな考へがあつたやうであるが、かゝる精神と身體とを分離對立せしめるがごとき抽象的觀念を打破して「學問する」とは「心身の鍊磨」である「體育」もまた同様に「心身の鍊磨」であることを青少年諸君各自が自覺しなければならぬ」（大阪朝日、十五、八、一一）といつて青少年學徒の自覺を促してゐられるのも、この點を力説してゐるのである。

二 時局と行事

前述の如く現下非常時局に於ける教學の刷新は國民一體國家奉仕の實を具現する新體制の確立を要望し、知行一致の教育大方針のもとに青少年の心身鍛鍊運動として勤勞作業等の行事が盛に計畫實施さるゝに至つた。其他この種時局を背景とした行事は枚擧に遑がない。従つて兒童の非常時局に對する意識は非常に強く、大人の到底及ばざる程熱烈なるものが多い。この熾烈なる感情は社會全般の國家的感情の昂揚に影響する所大なるは論を俟たないが、學校に於ける時局的行事の賜であることは疑なき所である。

皇軍感謝の諸行事、わけでも白衣勇士の慰問に、慰問袋の作製に、武運長久祈願に、勇士の送迎に兒童の非常時に對する生々しき體驗として、國家奉仕の感情が勃々として湧かないで居らうか。日本人が流した血は第二國民の血と交流してやがては東亞共榮圈に否世界に雄飛すべき旺盛なる氣力、強靱なる體力を涵養しつゝあるのである。時しも新世紀の黎明を告げるかの如く國民學校制が布かれんとし、時局は之に拍車をかけて國民學校に期待する所が益々多し事を思はしめる。諸行事を通じて、最も光榮ある國家意識の昂揚、國民精神の發揚に一路邁進すべきである。

二 行事教育の意義

一 行事の意義

「行事」とは昔、宮中に於て行はせられる毎年恒例の年中行事をさしてゐたものである。（辭典……古、朝廷の儀式・佛事などを司る役）ところが室町時代より民間化して「平常と異なる大々の生活」を行事といふやうになり、明治以後に至つては行事なる語の通用範圍は頗る廣汎となり「時を定めて行ふ儀式」のみならず、臨時的・一時的な平素と異なる大々の開催事項をも行事といふやうになり、現在では内容・範圍共に尙一層その意味が擴大されて「今日の行事」「今朝の行事」「〇〇日」等をも行事として取扱はれてゐる状態である。然しながら何れにしても「行事」とは「平常の平板的な生活と異つた大々の生活又は催し」をさしてゐることに違ひはない。従つて學校に於ける行事も「平日の所謂教科學習以外の諸種の教育的な催し、施設」といふやうに定義して取扱ふことゝしたい。従つて四大節を初め

として、入學式・始業終業式・運動會・學藝會・各種の紀念日・強調日等に行はれる仕事、其他勤勞奉仕作業等、諸種の教育的意圖を以て行はれる教科學習以外の催しは凡て行事であつて、最近の時局と社會情勢とは、この種行事の種類と機會と分量とを益々増大せしめてゐる次第である。

一二 行事教育の意義

學校は決して單なる學習のための便宜的集團と見るべきものではなく、精神的な共同團體・修養團體としての價値を有するものである。即ち教育の最大領域が教科學習にあるとしても、そのみが教育の領域ではなく、行事による教育が多大的効果を有することば言ふまでもない。行事はその形態に於ても場所に於ても普通の教科學習と異なることが多いため、常に氣分を新鮮ならしめ、印象を強化して、その行事目的の達成——やがては皇國臣民の鍊成に重要な使命を有するものである。

○郊外で行はれた野外鉢巻取り、あの豪快さが今もはつきり印象に残つてゐます。

○靜坐、御製拜誦「よい學校だつたな」と回顧する時、必ず頭に浮んでくるのは朝のこの行事です。(出身者の回想文より)

以上述べたるが如く學校に於ける教科學習以外の國民としての形成に欠くべからざる行事を學校行事又は教育行事と名づけ、この行事による皇民の鍊成を行事教育といひたい。従つて行事教育の目標は皇民の鍊成であつて稍ともすると墮し易い行事のための行事、一時的思ひつきの行事であつてならないことは勿論で、皇民鍊成への一途を辿る行事たらしむべき深慮が拂はなければならない。

三 行事教育の目的

日本人の自覺と時代の要請から生れ出た國民學校が國民の基礎的鍊成を目指して行事教育を如何に重視してゐるか「儀式・學校行事等ヲ重ンジ」の條項によつて明かなやうに、行事教育は新しい意味をもつて登場したのである。即ち行事は全員が一つの中心目標に向つて行動する所に全體を全體として鍊成する大きな特色がある。全校が一つの指導意識に統一されて行動する全體訓練はこの行事を措いて他に方法はない。その目的がひたすらに皇國の道に則り全人格を行的に修養して國民を鍊成するにあることは言ふまでもないが、この究極目的に達せんがために行事教育が如何なる分擔面を與へられてゐるか、その有する具體的目的について一應考へて見ねばならない。

一 國體觀念の確立と滅私奉公

教科學習特に國民科による國體觀念の啓培を益々強固にするものは、かゝる意圖をもつてなされる教育的行事である。

國家的儀式・國民的行事即ち國旗掲揚、宮城遙拜、神社參拜、祝祭日記念日等の催し、皇陵巡拜、遺家族慰問、國防獻金、奉公貯金等の實踐による體驗から眞の國民精神の覺醒も、國體觀念の明徴も、國民としての自覺の喚起も果すことが出來、之を措いてはその機會はないと言つても過言ではない。國體觀念が明徴され、國民としての自覺が生れる所必ずや國家奉仕・滅私奉公の大いなる實踐力が長養される。行事に於て全員が共通の中心目的の中に呼吸し協

力し、有機的に自己の努力を捧げ之を行じて行く團體生活によつて、個我を滅却して公に奉ずるの精神が具體的實際的に訓練され習慣化される。深嚴の氣滿つる式場に於て、宮城遙拜に漲る國民的感情は世界の何れの國民が體驗し得るであらうか。不言の中に「われ日本人なり」の感情が脈々として全員に湧き出るのである。「特ニ國體ニ對スル信念ヲ深カラシムル」最も好機會と言はなければならぬ。「眞に國家に奉仕せんとするにはまづ皇國民としての自己が把握され、そして個我より脱落しなければならぬ。」(橋田文相談)

皇國民としての自己の把握は、やがては國家に對する滅私奉公への熾烈なる實踐力を顯現する大なる因となるであらうことを考へる時、行事教育の目的の中、之以上大なるものはないと言つてもよからう。

我々の任務は實に行の道場に於て、國體の尊嚴を第二國民の胸に刻み込むべき具體的な様々の行事を行ひつゝ、その感銘を中心として實生活の深化を圖り、やがては皇國民としての奉公の誠を盡さしめんが爲の日々の實踐である。

二 生活訓練と實踐力の啓培

疊の上で水泳の眞の練習は出来ない。勿論基本技術の一つは陸上でなされるであらうが、それ等の綜合による眞の泳ぎは水中でなければ決して出来るものではない。飛行技術にしても又然り。具體的實生活に突き當らせることによつてのみ眞の訓練はなし得るものである。山鹿素行が「學はならふ事にして、ならふと言ふに二つあり。人の云ふ事いたすことをならふは、學ぶと同意にて、效の字を用ふ。故に學は效也と字訓せり。習の字のならふと云ふは、學べることを、今日日用の上にならし行ふことなり。されば習の字はかさぬると云ふ字の心あり……習の字は行に

かゝるべしと知るべきなり。まなべる事も行にあらはして考へざれば、皆口耳の學と云ひて、實の學問に非ざる也」(謫居童問)といへるも又「教育ト生活トノ分離ヲ避ケ」とあるのと同じ心にて行することを重要視したものと云へよう。我々日常の教育的營みに於ても、教科學習による教育によつて、心理的論理的に理解せしむると共に、行事によつて之を綜合實踐させ、基本的教養の實踐の場を行事に求めて以て生活の眞の訓練と實踐力の啓培とを企てなければならぬ。

鎌倉時代の武家教育に於ては、修武のためには諸種の武家行事を用いた外に、實戰に倣つた修練方式が樹てられてゐた。それは野外に於ける修武訓練としての追鳥狩・卷狩であつて、一定期間陣地を布いて宿泊し、日頃練つた武藝をこゝに現したのである。これは日頃弓場や馬場其の他で修練した武技をこゝに綜合して實踐的な修練をなさんとしたのである。これにも増して更に著しい武家子弟訓練の機會は、實に命を的の戰場に求められたのである。即ち武士の子が十三四歳になれば之を戰場に伴ひ、眞に息づまる戰鬪のさ中に於て武士としての戰鬪の方式や武技が教育され貴い武士道精神が培はれたのである。その貴い機會を實戰の場に求めた武家教育の方法は七百年後の今日の教育に大きな示唆を與へてくれるであらう。

三 綜合實踐と心身鍊磨

所謂教科學習のみを以て學問と考へた舊觀念は此の際完全に打破されねばならない。國民の知的水準を一刻も早く高めなければならなかつた明治時代の焦躁教育に於ては、知識の吸収にのみ離脱として、學問と言へば知的要素の獲

得にのみ終始するの止むを得ない状態であつた。そして其の結果は、歐米思想を持つた日本人を生むの奇現象をさへ生じて、歐米人を見れば「偉い人」であるといふやうな間違つた觀念をさへ培つてしまつた。

橋本左内が「詩文や讀書は學問の具と申すものにて、刀の柄鞘や、二階の階梯の如きものなり。詩文讀書を學問と心得候は、恰も柄鞘を刀と心得、階梯を二階と存じ候と同じ。淺齒粗鹿の至りに候」(啓發錄)と論破してゐるやうに學問するとは読み書き、そろばんの知的要素の收得のみをさすのではない。

「學問する」とは心身を鍊磨することである。「心」の鍊磨は皇國民としての心であつて英國人の心でも米國人の心でもない。日本の國家的人間——皇國民——の育成はどこまでも心身の鍊磨によらねばならず決して觀念的な知識のみでは國民としての資格はない。知識を綜合實踐してこれを信念化すること、これこそ眞の心身の鍊磨である。つまり道を學ぶものは知學すると共に身學することが必要なのである。即ち實踐すること、行することである。身學を伴はざる知識は眞の道を學ぶ所以ではなく、行を伴はざる教は學とはならぬ。行をはなれた教は空虚、知をはなれた行は又盲目である。中江藤樹は十九年振りに郷里に歸り、母と共に生活して初めて、唯單なる知としてあつた孝が眞知となつて發動したことを「昔日雖知非眞知、舟可_レ行_レ水車則陸」と賦してゐる。孝は母に仕養して初めて言ふことが出来、考へることが出来る。舟が水の上を行く如く、車は陸の上を行く如く、藤樹は母との生活の中に入つて孝の眞知を體得したのである。

兒童教育に於ても各教科によつて夫々心理的、論理的に説明し理解せしむると共に、行事等を通じて綜合實踐せしめねばならない。こゝにも亦「まなべることも、行にならばして考へざれば、皆口耳の學と云ひて、實の學問に非ざらざる也。」(謫居童問)である。教育行事は、以上のやうな綜合實踐による心身鍊磨の目的を果すためにも諸種の計畫がなされなければならない。

四 家庭・社會との連絡

教育は兒童の生活の總てを指導する全一的教育であらねばならない。そのためには「家庭及社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ兒童ノ教育ヲ全カラシムル」ための諸種の行事が考へられるべきは言ふまでもないことで、教育の行はれる場即ち家庭としての場、社會としての場、學校としての場の統一を欠いては兒童の全き教育は行はれない事は當然である。この三者に意識的な教育的連繋がない時は、子弟の教育は望むべくもなく甚しきはその就く所に迷はしめるに至る。

現時國民の緊張によつて社會の風潮は頓に改つたが、未だ江州小川村に及ばざる甚だ遠く、兒童教育上誠に寒心に堪えざるものがある。無意識的な社會の影響は誠に大なるものがあり、時には意識的な眞剣な學校教育が、この無意識的な家庭や社會の影響によつて抹殺される場合すらあるのである。殊に最近の非常時經濟體制等に於てこの例の多くを現前に暴露してゐることは誠に痛恨事と言はねばならない。

家庭が學校との聯絡を密にすべきは當然のことであるが、近年稍ともすると、教育は學校の仕事で、學校へさへ出して置けば子弟の教育は十分である等と考へてゐる家庭があるのば誠に困つたことである。それのみか重要な躰の場としての家庭が、その教育機能を殆んど喪失してゐるものさへあるのは寒心の至り、かゝるものに對しては、親の教養にまでも積極的な指導力を發揮させねばならない。古へ武家教育は家に於て行はれ武人が常に身を以て範を垂れ

子弟に對しては勿論、一族郎黨の總ての訓練に當つてゐたのである。即ち親が日常のあらゆる生活を通して、子弟の教養に當つたのであつた。所が近世町家の子弟教育が家の外に求められ——寺小屋——又生活態度の基本訓練もお屋敷での見習奉公として全く家を外にして、他人のみによつて行はれるに至つた。學校の誕生を見るに及んで武家子弟の教育方法も本來の形態をはなれることになり、現在の學校組織の基が築かれたのである。現時の社會機構に於ける教育方法として勿論上述の如き武家教育方式も町家教育方式も共にとらざる所であつて、この二者の全き連繫こそ子弟教育の眞の姿でなければならぬ。今にして町家教育方式の考へを持つた家庭があるのは果して誰の罪であらうか。

訓練は精神的習慣を養成し、品性を陶冶して皇國臣民を鍊成するのであるから、昨日も今日も變らぬ方針で、學校でも家庭でも社會でも同一態度を以て訓練しなければならぬ。そのためにはこれらの生活が交流するやうな機會が準備されねばならないのは勿論で、保護者會・宿泊生活訓練等はその機會の一二であらう。

家庭・學校・社會の三者一體の意識的連絡を學校行事が擔當して、皇民としての子弟の鍊成は言ふに及ばず、進んで家庭及び社會の教養にまでその教育力を滲透させることを、この種行事の目標とせねばならぬ。

五 自修工夫の習慣

東亞の盟主として將又世界の指導者としての旺盛なる實踐力の涵養が特に今後の教育に重要であると同時に、自らの生活を積極的に工夫し、開拓して行くところの精神的態度の馴致は、之又目下の急務と言はねばならぬ。大國民

としての要素の中にこの積極なる自修工夫の精神的態度は當然内含されなければならぬ。東亞の黎明に當つてあらゆる方面に、新體制がしかれんとしてゐる今日、自修工夫の積極的態度、積極的實踐力なくしてその負荷に任すべくもない。吾々の生活の新體制こそ吾々によつて工夫實現さるべき場面である。常に殘肴を嘗めて追隨をこれ事とする國民の受くべき當然の結果は眼前に生々しき幾多の實例を経験し終つた。文政の根本方針「教學の刷新」、「科學の振興」に於ける刷新、振興の語に含まれた精神が如何なる態度を要求してゐるか。小にしては自らの新生活の建設、大にしては東亞共榮圈の新建設、世界新秩序の樹立と八紘一字の肇國精神を顯現すべく次代の大國民としての積極的な態度でなくて何であらう。

教育行事に於ける自修工夫の習慣養成の機會は誠に多く、行事の計畫實踐に當つては出来るだけこれに參畫させ、以てこの習慣養成を期せねばならない。參畫の先づ第一歩はその行事の豫定とこれをもつ意義・目的を兒童に理解認識させる必要がある。盲目的な參加は、唯身體的な活動に外ならない。後述の郊外演習の如きはこの點よりするも非常に有意義なる行事といへるであらう。遠足、勤勞作業等に際しては特に高學年兒童に於ては十分に此の點を考慮に入れ、前以てその豫定なり目的なりを發表して、兒童に自修工夫の時間と機會とを與へる必要がある。遠足地の地理的・歴史的・理科的な事前調査等は言ふまでもなく、勤勞作業に於ける仕事の能率上の工夫、その他これ等行事の機會を利用して隨時隨所に於て自修工夫の態度を養成しなければならぬ。

六 團體訓練

體験の上より眞に我が國體觀念を把握させ、日本人たるの自覺を持たせることが、行事教育の第一義であることについては前述の通りである。この鞏固なる國家意識・國民的團結は平常の團體的訓練がその重心をなさなければならぬ。共同の目標を目指して、個々人が各々その自覺の下に、夫々の立場に於て忠實に任務を果すことによつて、やがて全體に捧げる自己にまで修鍊することがこの團體的訓練の根本精神である。自己を全體に捧げ盡すことが、やがて眞の國家奉仕の信念となり、眞の皇國の民となり得るのである。「眞に國家に奉仕せんとするには、先づ皇國民としての自己が把握され、そして個我から脱落しなければならぬ。」(橋田文相、週報二〇〇號)小にしては班、學級、大にしては學校全體が、團體生活・團體行動の訓練に於て、團體内に於ける個々人の自覺を促し個我から脱落してその自覺の下に理解ある協力團結を求め、この團體的協力を通して之を國民の團結にまで伸張せしめ、國民精神を高揚し、相携へて奉公の實を擧ぐるに至る國民的大同團結の訓練にまで發展せしめねばならない。

非常時局は益々國民の團體的推進力を必要としてゐる。この秋に當つて、學校教育が先年來覺醒實施しつゝある團體的、集團的な訓練行事を益々強化實行して、眞の自覺に於ける國體への奉仕精神の長養に努め、國家總力組織の結成に捧げ盡すべき基礎的訓練を施さなければならぬ。

國民の國家觀念の確立による皇國使命の自覺と、之が遂行に要する國民總力體制結成の必要は今日より大なるはなし。近衛首相の新體制準備會に於ける聲明書中に、「世界新秩序の建設に指導的役割を果すためには國家國民の總力を最高度に發揮して云々」と云ふも又「この國民組織の目標は國家國民の總力を集結し一億同胞をして生きた一體として云々」といふも、「その本質はあくまで學國的全體公的なるもの」であつて、「公益優先の精神に歸一せしめん

とする」ものである。次の國家を作るべき皇國民の基礎的鍊成に於てかゝる團體的訓練の必要なる又今日より切なるはなく、團體的訓練を目指す教育行事の企畫實施の急も亦、今日を以て最となすべきである。

七 體 位 向 上

次代の國家を背負ふ者は現在の青少年である。日本民族に課せられた曠古の大事業である新東亞の建設は、かゝつてこれ等第二國民の双肩にある。人的要素こそは飽くまで國力の基であり、これが涵養確保は國家の最も重要な問題である。然してこれが確保は一朝一夕に成るものではない。

不屈不撓剛健なる國民精神は強靱旺盛なる身體に宿ることを叫びながら、體位の低下を如實に眼前に見せつけられ、漸く覺醒しつゝある状態で誠に堪えないものがある。皇國大使命の遂行に必要なものは強靱なる體力を持つた人的資源である。ドイツが現在持つてゐるあの旺盛な國力が、如何に血と涙とで作り上げられたかを想ふ時、我等唯拱手傍觀してゐてよからうか。東亞新秩序の指導者としての日本人が具備すべきもの、これこそ強靱なる體力である。國民體力の現狀がその質に於て、その量に於て、如實なる事變といふ俎上にのせられて、反省すべき好機を與へられたのである。

學問の勉強といへば本を読むこととの觀念は現在でも少しも改まつてゐない。特に現在の大人の頭の全部がかゝる觀念に支配されてゐると言つても過言ではない。この誤つた觀念は悲しいかな兒童をも蝕みつゝある現狀である。今にして改めずんば、恐るべき結果を招來することは火を見るよりも明かである。橋田文相の所信の中にも「從來やゝ

もすれば、いはゆる學問は心の學問であるといふやうな考へがあつたやうであるが、かゝる、精神と身體とを分離對立せしむるが如き抽象的觀念を打破して、「學問する」とは「身心」の鍊磨であり、「體育」も亦同様に「身心」の鍛鍊であることを、青少年諸君各自の學問及び體育の實踐生活から自覺し來らなければならぬ。」(週報二〇〇號)と述べてゐられる通り、青少年のみならず、凡ての日本人の考へを改めなければならぬ。

學校教育の目的が皇國民としての基礎的鍊成にある以上、現に日本國民に課せられた國家的大使命を遂行するに必要なる健康の鍊成をも國民たるの基礎的條件としての重要目標とすべきは勿論である。

身體検査・體力測定・食事訓練・齒磨訓練等の消極的方面の行事から、積極的な鍊成を目指す運動會・遠足・水泳會・相撲大會等の行事に至るまで、かゝる意味をよく／＼反省して實施されなければならぬ。

四 行事の選擇

一 國家的行事

國家的行事を初めとして社會的・家庭的並に學校独自の行事は、之を悉く網羅する時は頗る多く、之が學校への採用は出來得べくもなく又無意味な事である。教育行事である以上之が取捨選擇には十分の考慮が拂はねばならぬ。教科の修練と相俟つて教育の實を擧げるには、教育的意義の大なるものから順次之を選擇し、苟且にも皇民鍊成の目

標から逸脱する事なきやう十分警戒しなければならない。

忠良なる皇國臣民を鍊成せんが爲には、先づ皇國臣民としての信念を確立させねばならぬ事は前章の目的に示す通りである。我が大日本帝國の國體の明確なる把握、これこそ眞に皇國臣民としての修練に與へる盡きざる推進力であり、確固たる國民的自覺に導く源泉である。

かゝる意味に於て行事選擇に際しては、先づ國家的行事を第一とすべきことは自明のこと、言はねばならぬ。勿論教科特に國民科を通じて「國體ノ精華ヲ明ニシテ國民精神ヲ涵養シ、肇國ノ使命ヲ自覺セシムル」のであるが、この知的なものを信念にまで高めるためにはどうしてもこゝに行事を考へなければならぬ。

この意味に於ける行事こそ今述べてゐる國家的行事の最重要なる分擔面である。從來にても、修身に於て國史に於て其の他國民科的學習によつて、國體觀念の涵養に一意専心力めて來たのであるが、之が實踐による信念化に至つては誠に悲しむべき状態にあり、その結果の反省として特に今回の「皇國ノ道」を眞向に掲げて一切の教育の最高原則としたのである。

然しながらこゝに注意すべきことは、行事の組織化である。國家的行事にも大小輕重あり、學校の教育的行事として採るべきか否か。(勿論國家的即教育的と考へられないこともないが)その取捨選擇に細心の注意を肝要とする。最も教育的に學校經營の中に滲透するやう留意されねばならぬ。

二 學校の歴史性

生活形式が同じであれば必ず心の繋りを生ずる。我が日本民族の固き團結心は何によつて培はれたか。萬世一系の天皇をいたゞく、悠久三千年の永きに亙る我が民族の生活、遠き祖先と我々の間に大家族として連綿と繋る同一生活形式に、我等は祖先を懐しみ慕慕し、一つ心になつて萬民輔翼の道に邁進せんとするのである。

學校に於て之を見るに又これに似たものがある。即ち同一學校の歴史の中に育つた者達(卒業生)の固い心の繋りはどうして出来るのであらうか。同一校舎・同一施設・同一先生による同一生活形式を踏んだ所に親しさと團結心が醸成されるのである。生れながらの子供を他家で育てた場合、決して生家の同一家族としての言ふに言はれぬ心の繋りが出来ないのを見ても(生みの親より育ての親)共に生活し、同じ釜の飯を食ふことが如何に心の繋りを大にするかを知ることが出来る。

君もこんなにして過したのか、僕も君のやうにして暮した。それでもう十年の知己となり得ることはよく經驗する所である。一つの行事を通して先輩後輩は完全に結ばれるものである。この結びつきこそやがては互に勵まし勵まされて正しく伸び行く素地を培ふに至るのである。

「……思ひ出多きあの榎の木の下、敬身堂の中で諸君が事變下の緊張せる毎日を送つてゐられる。……」(軍艦〇〇大塚昌三)

「……久し振りにかしの木、懐しく思ひ出します。出征以來三度目の夏を迎へ元氣でやつて居ります。……」(中支〇〇部隊鈴木由夫)

「……卒業生は皆榎の木を育ての親のやうな氣持で、何時何處に居ても忘れることはありません。そして此の榎の木を思ひ出す度に、大きな希望にみちた少年時代の氣持を取りもどして自分の仕事に死身の力を蘇らせるのです。……」(〇〇部隊溝口稻治)

「……懐しい弟諸君……みんな元氣に榎の木の下で勉強してゐられる姿が眼に見えます。……中畧……今度は昔の第二教室を思ひ出し

て見ませう。諸君と僕達の頃さを比べて下さい。自分は鉢巻取りでは仲々の強者でした。……朝の静坐鐘が三つ鳴つて眼を開いた時は何さと言へぬ心地良さを感ずる。……晝辨當も亦敬身堂で静坐の後先生の「戴きませう」の合圖で揃つて食つたものである。……」(北支〇〇部隊河合清一)

「……敬身堂に培ひ榎の木と共に育て下まつた附二のスピリットを發揮し……」(大津陸軍病院菅野滋)

これ等は凡て今年の七月七日の事變記念日に先輩へ送つた慰問袋の禮状の一節である。この手紙によつて何を云はんとするかは自ら判明したことと思ふ。第一線の彈雨の中にありながら、母校の名と共に何が思ひ出されてゐるか。又「鉢巻取りは第二教室特有の豪壯無類の團體競技として強く印象づけられてゐます」(卒業生回想文)の如き我が第二教室に於て第一回の卒業生から現在在校生に至るまでの心を縦に貫くものは何か。榎の木、静坐、鉢巻取り、晝辨當(合同食事)等々。そして現在も榎の木は榮え、静坐もいと嚴かに、鉢巻取りも豪壯に、合同食事も愉快に行儀よく昔の姿を残しつつ日々發展繼續されてゐるのである。あの先輩も、僕達後輩と同じく、この後輩も僕達先輩と同じく暮したであらうことを思ふだに強い和の精神が培はれるのである。和の精神こそ日本精神である。行事の撰擇に際してはこの點をよく考へ、學校の歴史構成の重要なるを思ひ、その目的・方法につき永續性と感激性のあるものを選ぶべきである。

三 教科との關聯

所謂教科學習によつて獲得された知識の綜合實踐の場として行事が撰ばれねばならぬことは前にも述べた。「教科

ト併せ一體トシテ教育ノ實ヲ舉ゲル」には、前以てかゝる行事が考へられてゐなければならぬ。「近來學問といへば、知識の獲得だけのことのやうに考へられてゐるが、それは學問の一部である。……中略……學問とは人となる「わざ」である。吾々に於ては日本人となる働きの凡てが學問である。……中略……即ち學問とは吾々に於ては皇國民となる修行である。」(橋田文相—週報二〇〇號)といつてゐられるやうに、實踐によつて眞の知識としなければならぬ。皇國民となる修行をしなければならぬ。一回の遠足にも修身・地理・國史・理科・綴方・體操等教科目との深い關連を考慮して目的地・距離等が撰ばれなければならない。

四 日常生活の躰

皇國民への兒童の訓練は具體的なる日常生活の中にある。行住座臥凡ての中に訓練の場がある。顔を洗ふこと、飯を食ふこと、歩くこと瑣細卑近なる處に道はある。「日々是好日」といふ。日常生活の完全以上に皇國民としての鍊成の道はないのである。然しながら各人各様の生活に於ける躰の前に、躰けるべき條件を含ませた特定の機會を作つて、之によつて一齊に訓練することは又教育的行事として望ましい撰擇と云はねばならぬ。

齒磨訓練・歩行訓練・食事訓練・學習訓練等の單獨訓練はもとより、之等を綜合して綜合生活訓練とも云ふべき行事を實施して、あらゆる具體的生活を通して日常規範になるものを躰け、生活態度を修練する機會を作らねばならぬ。躰は實行を通して國民の道に入らせる方法であるから、好むと好まざるとに拘らず之を行はせなければならぬ。

「家に居た時は何でも散らばして整頓をしなかつたが、宿泊生活をしてからは、よく整頓をしてきちつと後始末が出来るやうになつた。父母からほめられる事が度々ある。又言葉や行儀が悪くて困つて居られたが、宿泊生活を緊張して送つてからは大へんよくなつた。」(五年 藤原茂)

「食事作法、勉強振り、落ちてゐる紙ひろひ、皆が細かい事によく氣がついて、宿泊生活前よりすつとよくなつてゐる。」(五年 久野宗)

「學校のお風呂に入つてから、家のお風呂ではいつてすぐ出てしまふせがなくなつた。」(五年 齋藤龍彦)

「生活前までは、父母に呼ばれても、直ぐに「はい」と返事が出来なかつたが、この頃はすぐに大きな聲で返事が出来るやうになつた。」(五年 高城正)

以上は過般實施した宿泊生活訓練(後に詳述)に於ける兒童の感想文の一節である。殆ど凡ての兒童はこの様な反省や訓練をなし得たことによつて、生活訓練の如何に重要なかを痛感させられたのである。整頓せよ、行儀よくいだけ、勉強せよ、風呂ではよく洗へ、等と注意をしても、それをどうすればそんなに出来るのか判らない場合が多い。やはり實踐を通さないと身につかないのである。生活訓練の必要を敘述して、行事撰擇の一示唆にしたいと思ふ。

五 家庭的・社會的行事との關聯

前述のやうに行事とは昔宮中行事をさし奉つたものであるが、後世、民間に於ても宮中の祭祀にならつて日本的な社會的・家庭的行事の數々が發達するやうになつた。即ち敬神・尊皇・和等の國民性の發露としての諸種の行事が社

會的に家庭的に夫々の形態をもつて發展して來たのである。従つて是等行事が内蔵する精神に於ては取つてもつて學校行事として好個のものあり、かゝるものゝ選擇はやがては民族的特性の凝結した奥床しい情操を體得して、國家的なるものへの憧れと、皇國民としての自覺を把握するに至る機縁を作るであらう。端午の節供、雛祭、時の記念日、氏神祭、義士祭、節分、其他其の例は數多いが、之が學校行事への採用に當つては十分検討して、學校の教育方針とか郷土の状況とか男女の特性等により適當なる取捨選擇が行はなければならない。

六 兒童の興味

我々の生活に於て興味の有無はそれに參する意氣込に非常なる差を生ぜしめるものであることは昔から千論萬語された所である。「教育ニ際シテハ兒童ノ興味ヲ喚起シ自修ノ習慣ヲ養フニカムルコト」は今も昔も變らない教育方針である。興味の存する所必ず自修工夫がある。(郊外演習参照)行事の選擇に當つても此の點は當然考へらるべき問題で、如何なる行事にも興味を伴ふことが、その行事を完遂する上に極めて必要なことであつて、少くとも積極的に興味あらしめるやうな方法が講ぜられねばならない。兒童は極く一寸した取扱ひ方法の工夫によつて、非常に興味を感じ、我が事として積極的に行ふものである。勤勞作業状態をよく／＼反省して見ればこの邊の消息を十分に首肯し得るであらう。

五 行事教育實踐上の留意點

前章に述べたやうな幾多の目的を負擔した行事教育は如何に實施さるべきか。夫々の具體的實施方法については各々の教育行事の持つ目的によつて夫々異なるべきであつて、結局その到達點は國民の鍊成にあるのである。あたかも比叡山の頂上を目指して白川から雲母坂から赤山道から八瀬から坂本から登るやうなものである。この登山の途中に於ける注意事項は夫々の登山路によつて夫々又異つたものがあるのであるが、又どの登山路にも共通した注意事項が存在する。實踐上に於けるこの共通的な留意點につき以下考へて見たいと思ふ。

一 綜合的實踐

教育の凡ては相互聯關に於て有機的に進行すべきものといふ綜合の原理は國民學校の根本方針の一つであつて、この原理は教科と教科、教科と行事、行事と行事の有機的連關を要請する。行事の實施に當つてはその行事のもつあらゆる教育的意義を闡明し、最も効果的なる方法を選ぶべきである。例へば「遠足」といふ行事に際しては、教科——國民科(地理・國史)——理數科(理科)——體鍊科等との綜合連關は言ふに及ばず、公民的な場面、言語、服裝の方面の訓練にまで意を用ひることは國民鍊成上常に考慮さるべきであらう。

日常の具體的生活の中に國民鍊成の仕事は含まれてゐるのであつて、行事の際のみ、教室に於ける教科學習の時の

みが鍊成の機ではないが、企畫された行事生活の中に於て出来るだけ多くへの聯關を考へることは、その行事の意義をより一層深めるもので望ましいこと、謂はねばならぬ。皇國の道はどこまでも日常の具體的生活の中にあるのである。遠足を以て體鍊のみを考へたり、學藝會を以て劇や歌の發表方面のみを考へて他の教育的場面を忘失しては、眞の行事の意義を辨へないものと言つてよからう。

かく刻々に起つてくる、生活に直面して行はれる、其の場々の教育と共に生起するであらう種々の生活を豫想して之に對する取扱方法を考へ置くことは最もその行事を効果的に行ふ方法である。

二 國民的自覺

教育全般が皇國の道に則つて國民鍊成をするのであつて、教科學習や行事等の總力の和が國民として生れ出るのである。従つて行事に於ても常に皇國の道を修鍊せしめることによつて國民を鍊成する以外に何者もない。「教育全般ニ互リテ皇國ノ道ヲ修練セシメ特ニ國體ニ對スル信念ヲ深カラシムルコト」が先づ第一の目標として取上げられてゐる所以であり、吾々の教育行事の具體的目標も種々あるであらうが、目指す所は唯これ一つである。特に國家的行事に參する場合の嚴肅なる氣持は言はずもがな誰しも心魂を新にして皇國民としての自覺を深めるのであるが、其他の兒童の參加するあらゆる行事に於ても常に國民的自覺を喚起せしめるやうな具體的な實踐がなされなければならぬ。

即ち國家的意義のある機會を捉へて意義ある訓練に導き、行事の意義を意識の中に明確に入れ、環境を積極的に整

理して嚴肅なるものとする等、あらゆる考慮が拂はねばならない。例へば「掃除」一つを行つても、この行を完全に果すことによつて自己が國民の一人として參入することになり、これを眞心から行することがやがては、上御一人に對する忠になるのである、といふやうに國民的自覺として信念化するやうに取扱はるべきであらう。如何に流汗三斗の勤勞作業をしてもこの信念のもとになされなかつたならば何の意味もない。

事變勃發以來教育界のみならずあらゆる社會團體に於て、この勤勞作業が實施されつゝあるが、參加者の心構へに於て、どれだけの自覺を以てなされてゐるだらうか。その實績に鑑みて、この種行事の本質をより以上に反省認識せしむる必要を感じる次第である。「自我功利の思想を絶対に排撃し、國家奉仕を第一義とする國民道德の確立を期する」(橋田文相、文政の根本)には常に以上のやうな信念を國民に附與することである。かくして教科による國民的自覺と相俟つて、「個人主義、自由主義の殘滓は洗ひ去られ、國民一體國家奉仕の實を具現する體制」は確立されるであらう。

三 組織化

この點については條文として明かに掲げられたところであつて「儀式學校行事等ヲ重ンジ之ヲ教科ト併セ一體トシテ教育ノ實ヲ學グルニ力」めなければならぬ。特別委員長の報告にも「各種ノ學校行事ノ有スル教育的意義ヲ重視シ、之ヲ組織化シテ教育的體系内ニ取入レ其ノ教育的効果ノ發揚ニ十分留意スベキコト」とある。

知識を知識として腦裡に受け入れしめたゞけに終らずに、これを身體的行動に移し、實踐化することに重きを置か

なければならぬ。實踐することによつて知識を信念化し、觀念を人格化することが國民學校の狙ひ所である。そのためには知識技能を授與する教科學習と之が實踐的方面を分擔する教育行事とが渾然一體となるやう常に考慮が拂はなければならない。

近時時局の進展に伴ひ學校に於けるこの種關係の行事が非常に多くなり、學校に於ける計畫に加へて上司よりの命令が次々と發せられ、さなきだに時間不足を傳へられる教科學習の時間を益々削減されてゐる現狀である。勿論、これ等行事の凡ては教育的意圖のもとに行はれてゐるであらうが、教育内容に於ける知的方面も決して輕視すべきではない。否、時局下特にその重要性を強調しなければならぬ。かゝる知的教科への侵蝕の理由からのみでなく、行事そのものの中に、教育的に考へて不合理のものはないであらうかをこの際特に再検討して見る必要がある。

往々にして現代の行の教育など稱せられるものには偏智主義排擊の餘りに、謂はゞ偏行主義とも云ふべき、偏智主義が陥つたと全く同じことを反對の側に於て繰返してゐるものがあるのではなからうか。かくては行の教育は抽象的な行の教育となり、延いては學校を味氣ない仕事場と化せしめて、必然的に學力の低下といふ由々しい危機を招來するに至るであらう。結局は根本に於ける確たる方針が樹立されてゐないからである。國民鍊成といふ光に照して教科と行事とが一本建てのものになるやうに再検討し重複を避け取捨整理すべき秋である。大阪朝日の論者が「要らない行事は片つ端から、思ひ切りよくやめてしまつたらよからう。學校行事に限らない、新體制建設の一面には要らないものの破壊が勇敢に行はるべきで、このまゝ新しいものを累積して行つて、三百六十五日がみな紀念日になつたり、國民の半分が指導者になつたりしてしまつたら、どうにも動きがとれなくなる」(八月四日)とまで極言してゐるが、

味ふべき言である。

四 新鮮なる意識

儀式行事の最も警戒すべきは眞精神を忘れて形式のみの踏襲に陥りやすい點である。形を追つて心の入らない行事になりやすい點である。その行事の企てられた當時の眞精神が何時の間にか没却され、止めるにも止められないで、形のみを残してゐるといふやうな行事が時々残されてはゐないだらうか。袋は古くとも常に新しいものが充されてゐなければならない。式とは、校長先生にお話をきいて歌を歌ふもの、神社參拜とは神前へ行つて頭を下げるもの位にしか思はないやうなことになつては行事の冒瀆であつて、これこそ思ひきりよくあつさり止めてしまつた方がよからう。

近時神社參拜の行事がどの學校にもよく行はれてゐるが、參拜兒童の様子に飽き足らぬものが多い。即ち騒ぎながら散歩でもしてゐるやうである。歩き方にも一揖、一拜にも十分に眞心が表はれた參拜でなければならない。又學校からは事毎に神社參拜をしながら、家の神棚は塵だらけになつてはゐないか。部落の道路は清掃されてゐるが、學校内部に蜘蛛の巣はないだらうか。

常に眞精神を把握し、常に新鮮な意識を喚び起して、何時の場合にも第一回に行はれたと同様の否それ以上の感激と希望とを以て當面し得るだけの考慮が拂はなければならない。盛られた精神にしても不易のものではない。常に充足され發展されて行かねばならない。その袋に入る餘地があれば新しきものを入れ、餘地がなければ袋を大きくし

なければならぬであらう。
かゝる行事こそ眞に人物の錬成の場として意義があり、かくてこそ其の場に於ける皇國の道の修練となり得るのである。

五 兒童の参畫

目的の所で自修工夫の態度を作ること擧げたが、その目的を達成するためには、行事の立案・實施に際し出来るだけ兒童の参加部面を多くすることである。吾等の行事を吾等の手でといふことそのみでも行事の目的の半分は果されてゐる。自己の立案計畫には誰しも全責任を感じ強い熱意を示すものである。勿論、他人の計畫に對して全幅の盡力を惜まない態度、沒我奉公の精神も之以上に必要なは言ふまでもないことであつて、自己の計畫にのみ熱心なれとは毛頭考へないのである。團體旅行に参加した場合と自分が何から何まで立案計畫して旅行した場合とを比較して見ればよく判ることである。

もとより兒童の参畫し得ない行事もあるが、中には自治會、節供等殆ど凡てを兒童の計畫工夫によらせた方がより効果的であるものもある。殊に高學年に於てはこの部面が非常に多く、かゝる場合には教師は顧問としてその行事目標を睨んでおればよい。そのためには前にも述べたやうに、兒童に、その行事のもつ意義目的等について理解せしむべく豫定を知らせてやることである。意義・目的も判然しない行事に盲目的に参加させて見た所で何の効果もない。要はその行事の眞の目的を達するためには、出来るだけ兒童の参畫場面を多くして自覺ある行動にまで導かねば

ならない。

以上行事教育實踐上の大きな留意點について考へて見たのであるが、その各々は裏から言ひ横から考へたといふやうな點も多い。要は各行事の特殊な方法も唯一途に皇國の道の修練へと向つてゐるやうに意圖されてゐなければならぬ。清冽な支流を集めた本流は又清らかである。

六 我が第二教室に於ける行事教育

一 行事體系

一 日々の行事 (第二編「我等の一日」参照)

- 起 床
- 冷水摩擦……全校兒童年中勵行
- 洗面
- 挨拶……「お早うございます」
- 宮城遙拜・勅語奉讀(四年以上)
- 神佛禮拜

家庭

人物錬成の行事教育

朝食
出 發……「行つて参ります」

登校・禮……始業三十分前より十分前までに。校門で學校に禮
奉安殿禮拜

豫 鈴……始業三分前——朝會の心構と身構
朝 會……於敬身堂 靜坐十分間
宮城遙拜——御製拜誦——(月曜日皇軍感謝)——週番班長報告——訓話

學 習

晝 食……(木曜日 於敬身堂 合同食事)

合同體操……午後授業前

學 習

掃 除……全兒童毎日

終 禮……一日の反省

放課後運動……各學年定刻まで

讀書

奉安殿禮拜

下校・禮

學 校

家 庭

歸 宅……「只今歸りました」

含嗽・手洗……外出先から歸宅すれば何時でも勵行

復習・豫習

手 傳……分擔の仕事其他

夕 食

(復習・豫習)……夕食前に出来ない場合

齒 磨……就寝前には欠かます勵行

挨拶……「お寝みなさう」

就 床

二 毎週の行事 ◎印……後に詳述

◎皇軍感謝日……朝會

月曜日 美化作業……第六時——校舎内外の美化

おやつ廢止……興亞献金・奉公貯金へ

水・金曜日 合同訓練日……第六時

木曜日 ◎合同食事日……敬身堂にて

土曜日 反省整理日……一週間の反省

人物鍊成の行事教育

三 毎月の行事 ◎印……後に詳述

- 一 日(興亞奉公日) ◎一日参拜……始業三十分前登校、奉安殿・氏神参拜興亞献金・奉公貯金日
- 十五日 身體測定……發育表↓家庭へ
- 中・下旬 郊外教授・遠足
- 下旬 讀本・綴方朗讀會
- 月末 班長會……今月の反省と來月の勵行事項

四 一年の行事 ◎印……後に詳述

第一學期

四月

- 三日 日 神武天皇祭……家庭に於ける心構へにつき前以て訓話
- 八 日 始業式・大掃除
- 九 日 自治班長任命・班長會……學年學期始めの打合・勵行事項決定
- 十日 日 入學式(第二編参照)……學式
- 十一日 日 参拜(奉安殿・氏神)……學期始め、入學報告・宣誓
- 十一日 日 生活訓練週間(第二編参照)……主として新入兒童の當教室即應生活訓練

十七日 學校施設認識週間……諸施設に對する意義の認識

校醫検査始まる

中・下旬 個性調査(第四編参照)

結核健康診断

二十七日 ◎比叡登山……この頃全員登山

天長節……學式

二十九日 武者人形飾付……敬身堂に

鯉幟掲揚……校庭に

三十日 靖國神社例祭……訓話

下旬 土俵開き……本年の土俵を開く

五月

五日 日 ◎郊外演習……全員郊外にて紅白戦闘・飯盒炊爨

十五日 日 葵 祭……前日訓話

中旬 保護者會總會……豫算・決算・講演

十八日 上御靈神社祭……前日訓話

二十二日 青少年學徒ニ賜ハリタル詔書奉讀式

人物鍊成の行事教育

人物鍊成の行事教育

二十五日 楠公追慕日……湊川・六甲山・櫻井・講話

二十七日 海軍記念日……講話・相撲大會

下旬 ◎第一期(春季)宿泊生活訓練……一週間敬身堂にて行ふ。

六月

二日 創立記念日……學式

四日 鷗齒豫防日……講話・齒磨訓練

上旬 春季體力検査……走・跳・投・懸垂につき測定——表彰

十日 時の記念日……講話

七月

七日 支那事變記念日……講話・相撲大會・慰問行事

上・中旬 ◎學級別保護者會……三日置き位に二年から順次開催懇談

十九日 大掃除……學期末清掃・整理

終業式・參拜……學式後奉安殿・神社へ感謝參拜

二十日 反省會……本學期間の教育全般に互る反省

臨海生活訓練準備

二十一日 臨海生活訓練出發……向ふ十日間

三十日 歸着

八月

一日 召集日

上旬 天幕生活訓練……一泊にて六年に實施

十日 召集日

二十日 勤勞作業

校舎内全部床洗滌

土俵修理

校園除草耕作播種

第二學期

九月

一日 始業式・參拜……本學期の努力宣誓

三日 夏季作業展覽會……夏季作業としての諸種作業……成績品の展覽——於敬身堂

七日 表彰

十三日 乃木大將追慕……講話

人物鍊成の行事教育

夏季心身鍛鍊期

二十二日 平安神宮祭(時代祭)……前日訓話
廿三、四日 秋季皇靈祭(秋分)……前日訓話

十月

上・中旬 ◎第二期(秋季)宿泊生活訓練……敬身堂に於て第一期同様一週間の宿泊訓練

十三日 戊申詔書下賜記念日……詔書奉讀式・訓話

中旬 運動會

十七日 神嘗祭……前日訓話

三十日

教育勅語下賜記念日……勅語奉讀式・訓話・謹寫
桃山御陵↓東山へ……御陵巡拜

十一月

三日 明治節……舉式・相撲大會(土俵じまひ)

上旬

秋季體力検査……走・跳・投・懸垂——表彰
唱歌會

十日 國民精神作興詔書下賜記念日……詔書奉讀式・訓話

二十三日 新嘗祭……訓話

十二月

十四日 義士祭……瑞光院參詣・講話

中旬 綜合考査

二十四日 學期末清掃・整頓

二十五日

終業式・參拜……式後奉安殿・神社へ感謝參拜
反省會……本學期間の教育全般に互る反省

二十六日

第三學期

一月

一日 四方拜・興亞行進……式後太鼓に合せて團體行進

八日

始業式・參拜……本學期間の努力宣誓
書初展

十二日

表彰

下旬

耐寒訓練(一週間)……早朝——駆足・行進・體操・武道

二月

十一日 紀元節……舉式

中旬

資格檢定(三日間)……中學受験資格檢定受験

人物鍊成の行事教育

冬期心身鍛鍊期
(孝行日記)

三月

上旬 學藝會(二日間)

十日 陸軍記念日……講話

献金……毎月の興亞献金を軍部へ献納

二十一日 春季皇靈祭(春分)……前日訓話

終業式・参拜……式後感謝参拜

二十〇日 供養祭……式後學校設備・理科用生物其他へ感謝感恩祭

反省會……學期末・學年末の教育全般に互る反省

二十〇日 卒業式……學式

中等學校受驗

一 主なる行事の實踐姿態

時局的な行事として事變勃發後創設したもので毎週の月曜日を皇軍感謝日として之に充てゝる。

一 皇軍感謝

始業三分前に豫鈴が鳴る。今まで騒しかつた校内が一瞬にして静寂。兒童は其の場に直立不動、次の「動」への心構を作る。鳴り終ると一齊に出来るだけ静肅に便所へ行くもの、涙を取るもの、手足を洗ふもの、服装を正すもの

各々敬身堂——五十二疊敷の疊の間、床の間正面には明治天皇の御製、その上には御歴代皇陵譜、右に教育勅語等の掲げられた當教室のもつ重要な精神道場——へ向ふ。静かに入室、定まつた位置につき静坐に入る。十分間、全校眞の静寂。静坐終りの三鈴の合圖によつて、全兒東方に向ひ宮城遙拜を終れば、元の西向きに直る。週番の先生から皇軍勇士の奮闘を戦況と共に訓話し、皇軍に對する感謝の念を十分喚起し、「兵隊さん有難うございます。御苦勞様です。どうぞお元氣でおはげみ下さい。」と心の中に念じつゝ最敬禮をする。朝の敬身堂の空氣は誠に嚴肅そのものである。疊の上に手をつかへて額く兒童達の敬虔な姿の中に、皇軍將士への感謝の念は満み／＼てゐる。

皇軍感謝の意は之のみに終るのでなく、この日(月曜日)はおやつをいたゞかないことになつてゐる。「兵隊さんの御苦勞を偲び、僕達も我慢するんだ。」そして毎月一日に金十錢を興亞献として持参——先生は三十錢——之をためて軍隊へ献金することにして、兵隊さんへの感謝の意を表してゐる。

尙當日は第六時に校舎内外の美化作業をする。——後に詳述——この心構の中にも、皇軍への感謝の意を常に含めて行つてゐる。

興亞献金の使途は、今年三月十日の陸軍記念日に陸軍恤兵部へ五十圓を献納し、七月七日支那事變勃發第三周年を記念して當教室出身の應召各位へ、「僕達の兄さんへ」として約五拾圓を使つて慰問袋を作製發送した。(昨年)慰問袋の内容は兒童の慰問文、慰問畫、教室よりの感謝激勵文、單行本一冊、繪葉書、娛樂本であつた。後輩から贈られたこの慰問品を如何に喜んでくれたか、又出身者と學校、先輩と後輩とが如何に強く親しく結ばれてゐるか。左にその禮狀の一、二を掲げることとする。

第一線にて懐しい母校よりの慰問品を開く、有難うございました。母校には何時も御無沙汰して居り、今回も「樗の實」(同窓會誌)に何か寄稿を考へましたが、多忙のため中止しました。

江南の夏は相當暑く、それでも討伐に警備に演習に勵んで居ります。實に汗は尊いものです。學校にも相撲場が出来ました由體育上喜ばしく存じます。では、母校の發展を祈りつゝ、筆を擱きます。(中支派遣〇〇部隊土田正巳)

謹啓 時下酷暑の候諸先生始め兒童諸君も元氣澆潤第二教室の意氣を發揮し暑氣を克服し居らる、事々拜察致して居ります。今回は事變記念日をトし我々出身者に誠意の溢る、慰問の品々或は兒童諸君の力作を御惠與に與り誠に感謝に堪えません。厚く御禮申し上げます。

思ひ多きあの樗の木の下、敬身堂の中で兒童諸君が事變下の緊張せる毎日を送つて居られる、そして我々にまで眞心の籠つた慰問の品を調へ或は我々を激勵して下さいさるかと思へば我々としては更に緊揮一番、皇國の爲に盡し銃後の期待に反かぬやうせればならぬと決心を更に新にする次第であります。

應召者の諸君も多くは大陸に活躍して居られませうが、小官はいさゝか趣を異にし、南海の生命線に活躍して居ります……中畧……昨年の五月敬身堂で諸君にお話しましたやうに、海陸軍さいふものは車の兩輪のやうなものであります。……中畧……小生目下カロン群島方面に行動中にて昨日サイパンに入港、目下補給休養中、明後日には當地を後に再び洋上に出ます。

内地では太陽が天頂より南の方を通りますが、當地では殆ど天頂を通つて居ります。しかしたゞへ熱帯の地に居らうと我々の意氣は常に衝天の勢を持つて居ります。何卒皆々様御安心下さい。

甚だ蕪雜ながら御禮まで 勿々 (軍艦〇〇大尉大塚昌三)

只今は結構な慰問の品々を頂き有難う御座いました。

懐しい樗の木は昔ながらに衰へず繁つてゐる由、誠に嬉しいと思ひます。學校の卒業生は皆樗の木を育ての親の様な氣持で何時何所にあても忘れることがありません。そしてこの樗の木を思ひ出す度に、大きな希望にみちた少年時代の氣持を取戻して自分の仕事に死身の力を蘇らせるのです。皆元氣でしつかり勉強して、御國の爲になる事に邁進して行つて下さい。……下畧

(〇〇部隊溝口稻治)

かくして小さき魂は忠勇なる皇軍に心からなる感謝を捧げ、同時に國民としての自覺を十分に持ち、國體に對する固い信念を培つてゐるのである。

二 美化作業

毎週月曜日は皇軍感謝日であり、之に附隨しておやつ廢止日であり、美化作業日である。美化作業とは校舎内外の清掃作業でその目的は「僕等が僕等で僕等の學校を美しくする」のであつて、僕等が僕等で工夫し計畫し指導し服従し助け合つて、僕等の學校を美しくする心構で毎週月曜日の第六時に行つてゐる行事である。

その方法は校内を八區域に分けて、之を八自治班に分擔する仕組になつてゐる。自治班の組織は當教室特有のもので、全兒童を八つの班に分け之に各學年兒童を配して、班長・副班長を置き、諸種の行事の單位として活躍してゐる(第一篇参照)組織である。

美化作業次第

集 合——班別に整列點呼

宮城遙拜——「美化作業によつて心身鍛鍊をして忠良な臣民になります。」

人物鍊成の行事教育

黙 禱——「兵隊さんに負けないやうにきばります。」
計畫發表——各班長は前以て本日の計畫を立て、置く。

例「第三班は第一區の敬身堂で今日は主としてガラス拭きをします。」

訓 話——並に計畫に對する批評。

作 業——班長に於て作業の順序班員の割當をなましむ。

二組に一人宛の先生を配して師弟同行。

集 合——作業終了。

整列點呼。

反 省——班長の反省發表に引續き先生からの講評。

解 散

以上のやうな次第で行はれるのであつて、分擔區域は一ヶ月で交代して行く。この行事によつて古い校舎も美しくなり、班の結合も強まり、長幼の美しい扶助の様子も見られるやうになつた。「班長さん、こゝがすんだら、次はどこ」と次から次へ小さい子も大きい子も一つ心になつて、作業はすん／＼捗つて行く。先生も一心不乱で便所掃除をするもの、兒童の氣附かぬやうな所へ手を廻すもの、無言の中にぐん／＼清掃される。班長は自分の班の指導に全責任を感じて一生懸命に活動し、班員は班長の命によく服従して自己の分を盡し、各々其の分に應じて一心に行する様子は涙ぐましいものがある。かくして校舎の美化はもとより、工夫計畫の鍊磨、沒我奉仕の勤勞態度、長幼扶助の精神的訓練等、心身鍊磨の行事目標は遺憾なく果されつゝあるのである。

三 合同食事

毎週木曜日の晝食を、前述の道場敬身堂で全員が揃つていたゞくのである。誠に楽しい行事であり、又その中に感恩の生活や食事訓練を意圖した重要行事でもある。兒童達には一週間の中でも最も楽しい行事であるらしく「敬身辨當」といつて嬉々としてゐる。

第二教室の生活の中で最も印象に残つてゐるものは一、朝の靜坐、御製拜誦二、晝食を皆が敬身堂に集つて共にしたことで、す。(出身者回想文より)

當日午前中の授業が終ると、平日の通りうがひ手洗をすませ、辨當を抱いて全員各班別に溜場に集合する。その間に班長は敬身堂に食卓を並べて準備をする。全員集合を終ると第一、二班より敬身堂へ。入室すれば食卓上に辨當を置き直に靜坐に移り全員(先生も兒童も)肅然として坐す。當教室に於ては靜坐による修練を非常に重視して創立以來あらゆる場合に之を實行してゐる。朝會の靜坐はもとより、各時限の授業に移る前、食事の前後、家庭に於ける學習の前後等に瞑目端坐して修練するのである。やがて當番の先生から「この御飯がいたゞける有難さ、たくさんの御恩を思へ、この御飯を好き嫌ひを言はずよく嚼んでいたゞき、立派な身體をつくつてよい子供になるやう、これが私達の忠義である。」と食事に對する心構についてお話をきく。「いたゞきませう」の合圖によつて「いたゞきます」と一同唱和して箸をとる。

食事中、坐り方、箸の持ち方、お茶の飲み方、副食物のいたゞき方、その他につき随時に訓練される。皇國の道は具體的生活の中にあるのであつて、御飯のいたゞき方一つの中にも多くの修練の場があるのである。國民鍊成の仕事は日常具體的問題の中に含まれてゐる。道は近きにあり。其の場其の場の具體的生活の中に於て人物を鍊磨して行く

ことが吾々に課せられた教育道である。「面と向つてそれはかうだ、あれはかうだと其の場で注意して行くのを「磨いふ」(大學)のである。實際生活の中に兒童を「煎り治して」(鍊)——生活させて、其の具體の姿の中に於て、「それはかうだ、あれはかうだと注意して行く」(磨)のが人物の鍊磨育成である。

時には一切、無言で食事をすることもある。「食事に際しては、靜肅に、落ちついて、行儀よく、いはゆる品良く食べねばならない。食べながらあたり見廻したり、食器を落したり、物をこぼしたりすることは不行儀であつて注意すべき事柄である。かゝる事柄は、子供の時に十分躰として訓練されねばならない」(週報一九〇號)と言つてゐるやうに、小さい時から躰として十分訓練するためには、繰返しと絶えざる注意を必要とする。この意味でもこの合同食事は十分に意義のあることである。

食事中はレコードをかけて気分を和やかにすることもある。殆どのものが終つた頃「靜坐」の合圖によつて全員靜坐に入る。暫時。「御馳走さまでした」の合圖に全員「御馳走さまでした」の感謝の辭を唱えて、班別に退室して行く。師弟全部が一堂に會して食事をとることは、全員を強い和に導き全校一體の精神的一致への有力な行事でもある。

殊に坐つていたゞく食事の訓練は平日の教室に於ては躰けられないので、普通の家庭に於ける食事作法訓練としても誠に好個の機會であつて、此の點家庭とも十分の連絡を取る必要がある。家庭に於ける食事作法は躰けられ易いやうに見えて、案外躰けられてゐないのに驚くのであつて、この點家庭への注意喚起も行はれる始末である。かゝる食事訓練のより以上嚴格な躰は春秋二期の宿泊生活訓練と夏季の心身鍛鍊行事としての臨海生活訓練とである。この時

は三度三度の食事を先生と共にする機會に恵まれて短期ではあるが、相當注目すべき結果を擧げてゐる。

——後に詳述

四 一日参拜

其の名の示す通り毎月一日興亞奉公日に奉安殿(師範學校)と氏神である上御靈神社への参拜である。興亞奉公日は「當日全國民ハ學ツテ戰場ノ勞苦ヲ偲ビ自肅自省之ヲ實際生活ノ上ニ具現スルト共ニ興亞ノ大業ヲ翼賛シテ一億一心奉公ノ誠ヲ效シ強力日本建設ニ向ツテ邁進シ以テ恒久實踐ノ源泉タラシムル日トナスモノトス」の趣旨のもとに制定された「國民生活日」であつて、事變中繼續されるものである。この意義深き日に神社参拜をなすことは一段と意義ある行事で、この行事は當教室ではこの興亞奉公日制定以前より行つてゐたものが、不圖も一致したわけで誠に喜ばしい一致である。

敬神崇祖は日本人の心の奥深く宿つた最も強い感情で、これの具體的表現としての神社参拜は心身を清淨ならしめ上御一人に歸一し奉る至忠の念はもとより感恩報謝、至誠奉公の念の涵養に力ある行事であり、日本的な行事の根源をなすものである。

當日は平日の始業三十分前に登校する。「今日は一日だ。お参りだ。早く登校するんだ。」といふ心持の中にはもう既に今日の行事の幾分は果されてゐて、この心持の中に新日本建設の強力なる意志が培はれてゐるのである。集合——この集合の敬虔なる態度は誠に参拜にふさはしきもの。先生から参拜の心構について改めてお話を聴く。でなくとも出来てゐる心構は益々強められる。無言である。全くの無言である。出發——足は自ら揃ふ。奉安殿前に威儀を正す。朝早く晝尙暗い殿前、敬虔嚴肅の氣漲る中に、額く兒童。皇運扶翼の誠忠の念はいやが上に昂められる。

「禮」、「御製拜誦」(明治天皇御製三首、常に拜誦する第二教室児童の心)
 「禮」にて参拜を終る。御製拜誦の聲は常にも増してひきしまる。全員無言である。上御靈神社へ向ふ。歩行中の合圖は凡て先生の手の動きによつてなされる。電車道へ出る。先頭が止ると後方のものは速に前につめて隊形を短かくする。車道に車の絶え間を睨んだ先頭の先生の手が擧がると、全員一齊に横隊の隊形で驅足で渡る。無言である。又整列して神社へ。社前に整列、主任の先生の参拜、祈願文奏上の間全員頭を垂れて共に奏上の氣持。

(祈願文) 掛ケマクモ畏キ上御靈神社ノ大前ニ度ミ畏ミテ白ス。天皇陛下ノ萬歳ト皇軍諸將士ノ武運長久ヲ祈リ奉ル。

(學期の始めと終りの参拜には別の祈願文)

終つて當番の先生が正中に進み全員と共に一揖、再拜、二拍手、一拜、一揖の正式参拜をなす。頭をあげた児童の顔には緊張と感激の中にとこか喜びの色が窺はれる。歸路は又往路と同じく無言。歸校。先生から参拜についての反省をきいてこの行事を終るのであるが、集合してから解散まで全くの無言の中に凡てが流れるやうに行はれ、引きつゞき第一時の授業に移るのである。

以上四十分間に於ける全員の敬虔眞摯、純眞無垢な態度は奉公日を完全に過す素地を培ふのみでなく、恒久實踐の源泉としての根本推進力を十分涵養してゐるであらう。たとへ四十分間の「小ナル實踐モ之ヲ積ンデ大ナル目的ニ到達セシメ」(興亞奉公日設定内閣告諭)ることが出来るであらう。

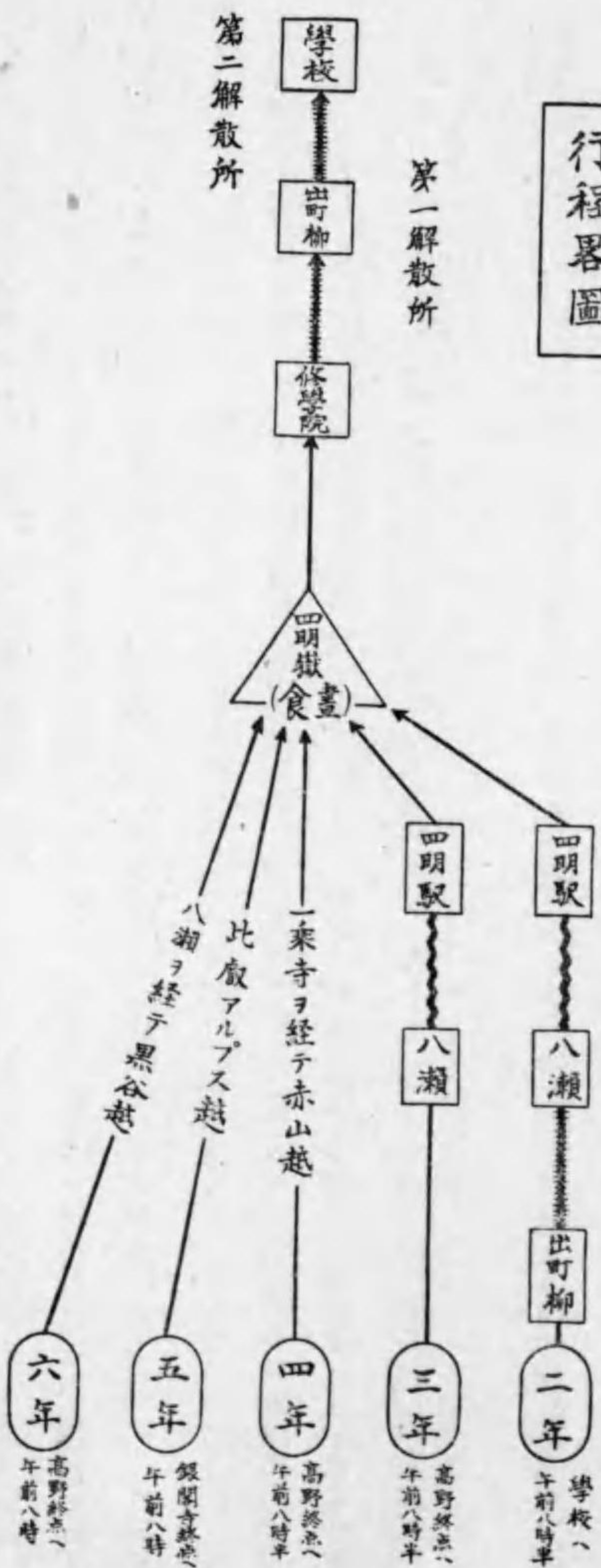
五 比叡登山

京都の比叡山は日本の富士山である。学校の東方に儼として聳える比叡の雄姿は、京都の名山として千年の歴史の中に大きく生きてゐる。當教室では例年四月、入學式後約二週間を経た二

十七・八日頃に全員の比叡登山が行はれる。この行事は次の行程表にもある通り同じ比叡の頂上を目指しつゝ各學年が路を異にするのである。體力に應じて方法や距離を異にし、お互に友達の様子を想像しつゝ、頂上での會合を楽しみながら、苦しさや愉快さを一步步に踏みしめて山嶺へ突き進むのである。恰も個々人が皇國の道を修鍊して皇民としての鍊成を急ぐが如く。

比叡登山(通知文、地圖、諸注意は省く)

行程畧圖



先着の児童達は後から後からと登つてくる他學年の友達を迎へに行つては共に語り、迎へられるもの迎へるもの、

眞に何年振りかの邂逅の如き懐しさを感じるのである。全員の到着は例年正午を少し過ぎる。四明嶽の頂上に自らの登り来し方感慨深く俯瞰しつゝ、遙に京都の街、琵琶湖、湖東、湖南を眼下に全員東方に向つて整列、本日の登山の意義に關して再認識せしめ、この強き心身もて忠良の臣民たらんことを誓ひ、聖壽の萬歳を三唱し、皇軍に對する感謝と武運長久を祈願する默禱を捧げるのである。赤子としての全感情を披瀝して身も心も清々する。食事を終ると地理へ、國史へ、理科へ、この比叡山が郷土の生きた教材を提供してくれる。

上から眺める我等の京都の姿、げに山城の名の通りである。西に連る丹波高原の説明、琵琶湖から大津市の發達、湖東平野に、三角洲等と豊富な地理景觀は貴重な材料を與へてくれる。宗教的な山、朝廷に因縁深い山として歴史的な話に移り、次には鳥類棲息地としての比叡山、地質から見た比叡山等々と、何時の間にか時間が経つのも忘れさせる。

臨地講話を終つていよいよ下山。下りは全員が同じ雲母坂。全員を自治班に分けて、お互に助け合ひながら、班毎に一團となつて下つて行く。全員を一團として下山させる所に大きな意義を持たせてゐるのである。入學後二週目を經た新入生がほんたうに第二教室の児童になるのはこの時からである。名前を覚え覚えられ、打解けた中にお互の性格を現はして、全員が和やかに一群として行動するのもこの時からである。

以上のやうな色々の意味を持つて行はれる比叡登山は児童の楽しい待遠い行事の一つであつて、普通の遠足に見られない大きな役割を演じてゐるのである。

比叡登山

六年 久野 宗

今年も比叡登山があつた。僕が第二教室へ入つてから毎年四月には必ずこの登山遠足が行はれた。二年の時はケープルで、三年の時もケープルを使つた。四年になるに赤山道、五年では比叡アルプス、今年も黒谷越であつた。登る道はそれ／＼ちがふが頂上で晝食をすましてから、全校生徒が互に助けあつて雲母坂を下ることは毎年同じである。かう毎年々々比叡登山が續くと、たゞおもしろい、苦しいだけではすまされない。しかも全校生徒と一緒に行く遠足は、この比叡登山だけである。京都の北東空高くそびえるあの雄大な皇城鎮護の比叡山に登るのだ。これにはきつと深いわけがあるにちがひない。かう考へる／＼氣になつてしかたがない。再三再四考へた末僕はかうだと思へた。二年、三年、四年、五年、六年と登り道はちがふが、目ざす所は比叡の頂上である。

これを我々日本人の生活にたゞへるならば、日本人の一人々々はそれ／＼工業、商業、農業等と思ひ／＼の道を進む。それ／＼道はちがふ。しかしこの人も目ざす所は忠義でなくてはならない。忠義を忘れて、それ／＼の道にいくらはげんでもそれは立派な日本人ではない。忠義を忘れた日本人があるであらうか。忠義を盡さぬものは、たゞかたちは日本人でも眞の日本人ではない。この例のやうに比叡の頂上に達せぬうちに「もういやだ。」つかれてしまつた。」さか云つて頂上へ達しないものがあるならば、それは第二教室の生徒であるとはいへない。第二教室の生徒たるものが忠義を盡さないでたはれてなんぢやう。日本をさへるものは僕等である。苦しんでも、つらくても登らねばならない。しかもかうして苦難をしのばうして比叡の頂上に立つことが出来た時には、全校百餘名の心が全く一つになつて心から萬歳を叫ぶのである。そうだ、日本をいやこの東洋を背負つて立つ大人物にならうと固く決心するのである。

六 郊外演習

この行事は當教室のもつ行事中最も重要な創立以來の年中行事であつて、他に類例を見ないものであらう。五月五日の端午の節供、それは「男の節供」である。男の子ばかりの當教室行事

としては最もふさはしいものである。盛る所武士道精神の鍊磨と日本的な行事への参入とである。

四月も終りに近く天長の佳節に掲揚される鯉職の姿を見ると、児童達の瞳は郊外へと注がれる。少しの休みの時間にも、鉢巻取りを始めだす。五月五日への強い憧れである。

鉢巻取りは第二教室特有の豪華無類の團體競技として、殊に運動好きの僕には強く印象づけられてゐます。

(出身者回想文より)

五月の聲をきくと行事黑板に紅白軍司令官並に参謀たる先生の名が書き出され、體操の時間や放課後等が鉢巻取りの練習に充てられる。場所が發表されると兩軍首脳部である上級生達は、陸地測量部の地圖を擴げて、盛に圖上作戰を練る。讀圖の全能力は遺憾なく發揮せられ、その熱心なること實戦さながらの感がある。地圖に對して常にこれ程痛切な讀圖の必要感を持ち得たら、とつくづく平素の學習について反省させられる。

この鉢巻取りは普通の紅白の取り合ひと趣を異にし、次の通知表の組織の所にある通り、全児童が五種の兵科に分けてあるので十分に作戰を練つて置く必要がある。こゝにも児童達の活動場面があり、この行事の意義があるのであつて、現在海軍大尉になつてゐる一卒業生が、海軍兵學校へ志した動機が、この鉢巻取りに於ける作戰の妙味にあつたとの述懐もさること、首肯し得られるのである。

御 通 知

すがくしい若葉の候となりました。

校庭の鯉職は空高く躍り、敬身堂には武者人形が飾られて男の子の節供を祝つてゐます。

當教室では例により、このよき日を意義あらしめるため全児童を紅白兩軍に分ち、大規模の郊外演習(校技、鉢巻取)を致し、大いに第二教室健兒の尙武進取の精神を鍊り、銃後小國民の意氣を昂揚したいと思ひます。

演 習 要 項

- 一、役員
 - 紅軍 司令官 山下先生 参謀 鹽見先生 兒童主將 久野 宗
 - 白軍 司令官 長濱先生 参謀 野村先生 兒童主將 菅 潤太郎
 - 審判 小川先生
- 二、組織
 - 二年生は鐵兜隊(腕章、黄)——何れの兵種にも勝つが旗手は取つてはならない。特科隊以外の何れの兵種も取つてはならない。
 - 三年生以上は之を次の三種に分つ
 - 歩兵隊(腕章、赤)——重砲には勝つが航空には負ける。
 - 航空隊(同 空)——歩兵には勝つが重砲に負ける。
 - 重砲隊(同 綠)——航空に勝つが歩兵に負ける。
 - 四年生特科隊(肩から赤白な十字にかける)——兵種により職能に變りはないが鐵兜を取り得る特権がある。(步・航・重)

三、戦況概要

- ①集 合 紅白兩軍共午前八時學校へ
- ②接敵行動
 - 紅軍(學校出發八時二十分)——北大路橋西詰より 市原↓車坂 快速部隊に便乗
 - 九時三十分より戰闘開始……(斥候戰)……戰機熟す 小競合……
 - 白軍(學校出發八時三十分)——上賀茂——柵野(柵野)

一 大決戦 (十一時頃)

四、晝食 鴨川上流にて飯盒炊爨を班の自治によつて行はしめ打揃つて楽しく晝食「柏餅」で端午の節供を祝ひ、食後暫く遊び身體狀況と時間を考へ第二回戦。

五、解散 一同揃つて歸校 午後三時頃解散。

六、注意事項 ◎五月四日(土)——本年は五日が日曜のため四日とす。雨天の際は五日。

◎携帯品 ①辨當の空箱 ②晝食用副食物 ③水筒——紐はかたくしめてぐらつかぬやうに

④手拭 ⑤紙 ⑥鉢巻 ⑦箸 ⑧五六年は小杓子又はスプーン一本

◎服装 なるべく輕装靴も運動しやすいもの

制・制着用(從來は着用しなかつた)

◎間食物は一切持参せぬこと。

右御通知まで

昭和十五年五月三日

第二 教室

保護者各位

本年は右のやうな計畫想定のもとに實施されたが、兩軍善戦して、容易に勝敗決せず、北軍は敵前渡河——鴨川上流——を敢行して敵の背後を衝かんとし、南軍又地の利を占めて之を誘ひ寄せんとす。折しも雨至る。雨中、神山山麓に於て激戦數回、遂に北軍の勝利となる。兩軍戦士の眉宇に物凄きまでの緊張を見る。奪取された旗の返還を終ると、一同東方に向つて萬歳を三唱し奉る。洛北の山峽にこだまする吾等の聲に自ら奮起せしめつゝ、兩軍相和して雨中山を下り、雲ヶ畑街道を北上して炊爨場へ急ぐ。雨降れども何物ぞ。川沿ひの崖下を求めて飯盒班に分れて炊爨をする。幼學年兒は薪集めに一心不亂、飯盒長は一心に焰を見つめる。雨中に拘らず協同作業は營々として行はれ、

立派に炊爨を終れば、班別に飯盒を圍んで分け合つていたゞく御飯の味。「昨日の敵は今日の友」先刻までの敵性も忘れて、恒例の柏餅をいたゞく打解けた姿。何といふ美しい姿であらう。雨を發電所に避けて、機械化部隊(雲ヶ畑バス)の救援を待つ。やがて之に便乗して根據地に引上げたのであつた。

以上のやうな方法による武士道精神の涵養、工夫計畫力の鍊磨、飯盒炊爨訓練等特異な形態と意義を持つ行事は眞に吾が第二教室の持つ重要行事で、如何にこれに多くの期待をかけ、兒童達が眞劍になるかが首肯し得られるであらう。

因に飯盒炊爨は昨年から創めたもので、その爲には以前のやうに決戦に好適な場所を撰ぶだけでなく、炊爨に適した地をも撰擇せねばならぬので相當骨が折れるが、訓練上非常に有意義な行事である。

最近十ヶ年に行はれた演習地を擧げると次の通りである。

- 昭和六年 今宮神社方面
- 同 七年 鷹ヶ峯・鏡石方面
- 同 八年 深泥池北方々面
- 同 九年 鏡石・金閣寺山方面
- 同 十年 清水山・將軍塚方面
- 同 十一年 比叡山・蛇ヶ池方面
- 同 十二年 嵐山龜山公園方面

人物鍊成の行事教育

- 同 十三年 御室仁和寺方面
- 同 十四年 一乗寺・修學院方面
- 同 十五年 雲ヶ畑街道・車坂方面

七 保護者會

學校は家庭といふ苗圃で育てられたものを受取るばかりでなく、學校に於ても教師と親とは常に子弟教育の協力者でなければならぬ。學校と家庭との連絡については「行事教育の目的」の所で詳しく述べたから再論を避け、その連絡の實際について考へて見ると、保護者會・連絡簿・學校だより、等の方法がある。

これ等の中最も一般的に行はれてゐるのは所謂保護者會（父兄會、母姉會）であらう。所が、この保護者會なる重要行事が、やゝともすると事務的、形式的に流れ、眞の子弟教養の意義を忘れ勝ちになり易いから學校も家庭も十分に反省して見る必要があらう。當教室に於ては例年次のやうに保護者會を開いて家庭との十分の連絡を期してゐる。

- 四月 新入學兒童の保護者會
- 七月 學年別保護者會四、五日置きに開催——後に詳述
- 十二月 五、六年兒童の保護者會
- 二月 受験兒童の保護者會
- 毎月一回 懇談會

保護者會に於ては、その子弟を皇國民として鍊成するためのあらゆる方面から十分の懇談がなされなければならない

い。教科學習方面、性行方面、生活態度方面、身體的方面、職業指導方面、進學方面、環境方面等々生活の全面から十分な觀察と考慮が拂はなければならない。

左に當教室のとつてゐる保護者會（學年別）の形態を詳述して自らの反省の資とし、叱正を乞ふこととする。先づ前以て次のやうな「お尋ね」を各家庭に出してこれが記入をお願いします。この解答が懇談の一資料になるは言ふまでもなく、之に記入することによつて保護者への關心と反省を促すことにもなる。

御尋ね

誠に御面倒ながら参考に致したいと存じますから左の事項御記入の上来る八日（月）までに御届下さるやう御願申します。追而来る十三日（土）に保護者會を開く豫定に致して居りますから御豫定に入れて置いて下さい。詳細は近日御通知申上げます。

七月 四日

第二教室 五年 擔任

氏名

○就床 起床	時 時 分 分	睡眠 約 時 分	
○家庭に於ける學習。			
1、いつしますか。			
2、時間は大體どれ位ですか。			
3、自分一人でやつてゐますか。			
4、どこでやりますか。			
(皆の見えるやうなところ 別室等)			
5、ごんな机ですか。			
座机 テーブル(椅子)			
6、勉強の態度はごんなですか。			
○御合息が引き受けて毎日やつてゐられる御手傳はありませんか。			
○偏食はせられませんか。			

○常に罹り易い病氣はありませんか。
 ○冷水まさつ
 帰宅後のうがひ
 就床前の歯磨き
 手洗いは勵行出来てゐませうか。
 ○御氣附になつてゐる性質を細大洩さすおきかせ下さい。
 (長所も短所も)

○御令息教養上特に御家庭で御留意になつてゐられる點をおきかせ下さい。
 ○中學其の他上級校への進學に對する御考をおきかせ下さい。
 (解答記入空白欄ヲ省ク)

次には保護者會當日の豫定を記した招待狀の發送となる。保護者會には全員の出席が必要なことであるから、家庭の事情でどうしても出られない場合の考慮として、個別懇談は一日でなく數日を充て、置くことも必要なことである。

御通知

かれて御通知申上げて置きました通り来る十三日(土)左記の豫定により保護者會を開き、御令息の教養につき種々御懇談させていただきます。誠に御苦勞様ですがお繰合せ御來校下さるやう御案内申上げます。

昭和十五年七月十一日
 五年保護者殿

第二教室 五年擔任

左記 (實際は豫定より大分遅れて午後七時に終了、全員出席)

朝會	7.45	授業參觀	
(見鹽) 術算	8.00		
(川小) 方讀	8.40		
(川小) 抄換	8.55	學級一般事項につき懇談	
(見鹽) きつに般一級學	9.35		
(川小) ていつに術算			
(川小) ていつに方讀			
(川小) ていつに理地			
(川小) ていつに方綴			
(濱長) ていつに史國			
(村野) ていつに科理			
	12.00	個別懇談	
組一第	1.00		
組二第	2.00		
組三第	3.00		
組四第	4.00		
組五第	5.00		

追而 勝手ながら右表の通り大體地域により個別懇談の時刻を分けさせていたゞき貴殿を第一組に致しましたからその旨お合みの上、御食事の方法も適當にお考へ置き下さるやうお願申します。

保護者會形式は招待狀にも記してあるやうな形態をとつてゐる。即ち授業參觀→學級一般的話→學科についての話→個別懇談の順序としてゐる。個別懇談に最も時間を要するのは勿論で、二十五名内外で大抵正午から午後六時七時頃になるのが普通である。懇談事項は觀察簿に全部記入されるのは當然である。之でもまだ不足を感じる位であるから、五十名、六十名の學級に於ては當然二日間乃至三日間(午後)は個別懇談に充て、然るべきである。

懇談をすませれば保護者會行事は終つたと思つてはならない。これから大事なのであつて、これまでは資料蒐集と思つてもよい。この點は十分に反省して見る必要があらう。その翌日からこの資料によつて愈々兒童との個別懇談が始められる。良きは賞揚し、悪しきは反省させ自覺に導いて之が矯正に努力する。保護者會に於ける保護者との懇

談は序論であつて、其の後に長い／＼本論が控えてゐることを忘れてはならぬ。時には或兒童は毎日放課後反省に來させるとか、又反省録を記入させるとか、連絡簿の活用によるとか、いよ／＼個別指導の本論に入つて兒童の錬成に當らねばならない。(第四篇参照)

保護者會の意義は實にこゝにあるのである。從來よく行はれた個性調査が調査のための調査に終つて、眞にその効果を發揮しなかつたとすれば、その罪は確かにこの點にあるのである。

尙、保護者會當日には次のやうな「懇談要項」が謄寫印刷として渡される。要項のみを記したもので家庭への報告用ともなる。——(連絡の緊密化)

懇談要項 (昭和十五年七月十三日 五年保護者會)

學級一般事項について

一、訓育方面

○口……輕……「堅忍持久」……重厚

○生活態度の確立……冷水まさつ・物語・參拜・合歌・齒磨・自習
言葉遣(應對)

二、學科方面

(特に算・讀)
○進度……遅……練習不足

○答案の書き方……字……性格の現れ……勉強法の會得

○宿題・豫習其他忘れ物稍多し

(練習生活泊宿)

學校家庭
連絡緊密

三、身體方面

○身體検査……龔齒・耳聾検査・健康診断・不潔

○體力検査(走・跳・投・懸)……一般に弱し

四、其 他

○資格検定について

○宿泊生活訓練について

○臨海生活訓練について

○夏季心身鍛鍊期間について……錬成の好期……候

○靴の配給について

○懇談會新設について

○連絡簿の活用について

讀方について……素直な心↓文を忠實によむ↓退體験↓よき表現生活||よき生活↓よい日本人

一、成績反省……「成績香しからず」——擔任が替つた爲であらう。

(1) 教材の進み方が速かである。(稍教材がおくれてゐたもの)

(2) 教材が多くなつたこと(五割増)並に思想的に困難度が加はり且つ表現が新しい。

(3) 言語の大切さを知らない者が多い——口先だけ……末梢になる。

(4) 學習態度不確立(豫習・本習・復習共に)……私の學習に不慣であるためであらう。

(5) 散漫にして綿密性を缺き大ざつばで面倒臭がり屋が多い。——國語學習には不向?

(6) 國語力の不足 (イ)文字力……漢字力不足・假名書の不正確・書寫能力不充分

- (ロ) 語句力……語彙少い・解釋不正確・語法習得不足
- (ハ) 文章力……文意把握に對する考察力(分析・綜合・統一力)不足
前後關係判斷力不足、文語法の不徹底
- (ニ) 音讀力……話しのやうな讀みにならない

確 正

二、今後の努力點

- ① 漢字の確實な記憶→自由驅使へ
- ② 正確な表現力を養ふ……文字・文章・言語共に(家庭に於いて正しく話をする練習必要)
- ③ 正確豊富な解釋力をつける……特殊の解釋から通語的解釋へ、更に特殊な解釋へ
- ④ 文章理解力の練磨……考察力(要約力・深究力・關係判斷力)を高める
- ⑤ 先生や友人の言をしっかりと聞き調練の重視

三、家庭學習

綴方について

- ① 豫習……學習書辭書等により語句のわけを十分しらべること。
復習……一課終つたら學習書の問題・書取・印刷問題を行ふ。
豫習よりも復習を
よき生活→よき文→よき生活→よき日本人

一、成績反省

- ① 何でも書けばよいと思つてゐる……中心が分裂し統一が立ちにくい。
- ② 物の見方が表面的で深さをかく……人をうつ作品が書けない。
- ③ 文字語句が不正確であり、文形式の不備が目立つ。(節・、・「」等)
- ④ 反省力が不十分である……取材と推敲によくあらはれる。

二、綴方評價の目標

- ① 取材……題材の選び方(着想)……體驗の深さ・豊かさ

○備考 二學期からは課題作を主とする
地理について

一、成績反省

教材が多かつた爲であるを考へられる。教科書をよんで分拆することが不十分である。末梢的なことに興味があるため本質的な學習が出来にくい。

二、今後について

算術について

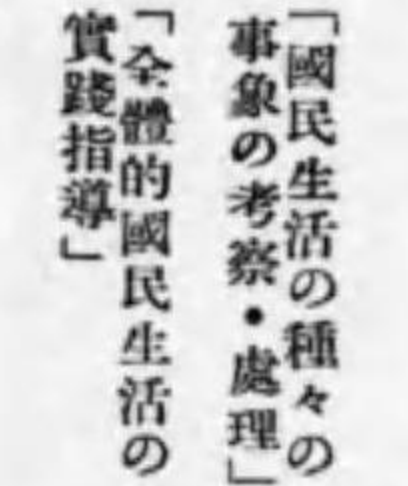
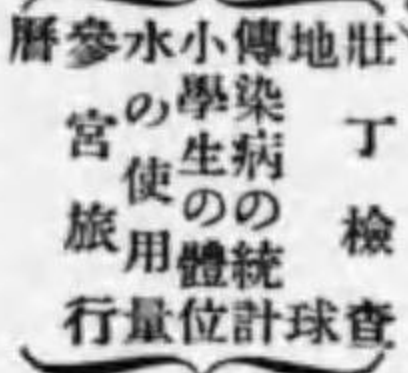
- 一、進度遅れたるため……急……例年に比べて遅れてゐる
徹底を缺く→得點

二、算術に對する考へ方

數計算のみを算術と考へ易い……舊觀念の打破

教科書熟覽

- (國家的)
- 社會的 國土・國勢の認識
- 政策的 國民常識の涵養



成鍊の民國皇

に 共 も 親

國史について

國史の學習		
豫習	正習	復習
臆げな理解 教科書によつて 繪圖によつて 参考書によつて	正しい理解 感銘 説話の傾聴 史實の考察 自己修養	明確な記憶 教科書によつて 繪圖によつて 筆記帳によつて 参考書によつて

- (一) 進度豫定
 - 1 一學期
 - 2 二學期
 - 3 三學期
- (二) 兒童の現状
 - 1 興味を持つてゐる
 - 2 組織化する力が少い
 - 3 復習が足りない
- (三) 得點に就いて

理科について

- 一、新時代の國民に要望されるもの
 - 1、合理的な判断……(正しい批判力の啓培)
 - 2、正しい物の處理力(日常生活の科學的處理)
 - 3、工夫創造力……(持久的な研究的態度) 積極性
- 二、學級的特質
 - 1、學習狀態……準備、作業、考察、整理、ノート

- 2、積極性……疑問、整理、課外研究
- 3、考査成績……確實性、利用的態度、論理的記述、圖解
- 三、御家庭への御願

- 1、事上訓練……科學的處理、日常生活の理科化、經驗の重視(生活理科)
- 2、持久的研究法の奨励(夏季作業)……科學振興の基礎訓練
- 3、豫習……問題把握、準備、復習、理科書の利用法(夏季作業)

八 懇談會

學校から家庭へ、家庭から學校へ、兒童教養には緊密な連絡と理解とを必要とすることは屢述し來つた所である。殊に實踐を重んじて基礎的鍊成をなさんには、家庭のもつ教育力が鑿の場として如何に大きいかは喋々するまでもない。所が言ふべくして實行し得ないうらみは此處にも常に潜んでゐる。學校から働きかけても仲々家庭に響かない。といつて其の儘にしては効少く皇國民の鍊成に十分の結果は期し難い。その爲に我々としては種々の方法を考へなければならなくなる。何とかしてより以上に「家庭及社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ」なければならぬ。その一つの方法として當教室で企畫着手せんとしてゐるのが、此の懇談會である。これも當教室の形態や家庭環境のもつ特殊性に立脚して考へられた方法であるから、他に於ては又自ら異つた方法が考へられねばならないであらう。

この會は所謂、一般に行はれてゐる形式の保護者會ではなく、全くの枠を脱いだ催である。上意下達・下意上達式——別に上下の別はないが——の精神が十分に徹底されてほんたうによい子供になるやうな諸考慮を拂はうとするのである。勿論之には保護者の理解がなくてはならない。それを理解に導くのもこの會の目的の一つである。學校の主

義方針を理解させて眞の協力に導く爲には、學校の積極的指導意識がなくてはならぬ。教育の對象を兒童のみに置かず、それを家庭へ社會へ及ぼして家庭人・社會人の教養にまで手を延ぶことが教育の新體制の一つに算へらるべきである。この點村落等に於ては餘程の指導性を持つてゐるが、都會に於ては稍ともすればこの逆を行く様な状態をさへ見るのである。

懇談會の形式は所謂講話の形式をとる場合もあるが、然し單なる講話ではない。之を中心として座談をなし、常に具體的な兒童・家庭へ下つて行くのである。時には眞の座談形式をとつて家庭に於ける躰について研究をする機會となり、又學校に對する質疑の機會ともなる。學習方法の指導ともなり、家庭環境整理への指標を示す機會ともなるのである。随つてこの會は初め學校が主催し、漸次學校と保護者との共同主催の建前を持して行きたいと考へてゐる。

次に開催の時期・回数は、此の目的遂行の鍵を握つてゐるので餘程慎重に考へなければならぬ。回数が多いことは効果的ではあるが、實際上困難な問題である。當教室では學校と家庭の兩方面から色々考へて毎月の最終土曜日の午後一時頃から三時乃至四時までとして計畫してゐる。然し、實際に行つて見た上で、以上の諸點に變更を加へる必要があるだらうとは思ひながら、第一回の開催に期待をかけてゐる次第である。

この會に如何なる話題が撰ばれるか。之によつてこの會合の目的が那邊にあるか、察知し得られると思ふから、次にその一例を擧げて見ることにする。勿論一回に一つの話題のみのこともあり、あらゆる生活の場面から持ち出されることのあるのも當然である。

教科目について（特に國民學校について）

學習の話

學習具の話

學習と躰

家庭と躰——起床・齒磨・冷水摩擦・禮拜・挨拶

家庭と學習

食事訓練

家庭と健康生活

兒童と衛生——運動・入浴・冷水摩擦

家庭と勤勞——手傳・整頓

兒童と交友

金錢生活——小遣

時間生活——規律

兒童と言葉遣ひ——言語指導

兒童と讀書——讀書指導

時局と子供

理科と家庭生活・家庭調度

教科と見學・旅行・ハイキング

九 宿泊生活訓練

我等の道場「敬身堂」に師弟共に一週間の宿泊協同生活訓練をなす特殊行事である。學校に於て平常通りの學習生活を送りつゝ、校内に宿泊して生活を訓練し、具體的生活を通じて修鍊する所に大いなる意義を見出すのである。塾的教育を再検討して昨年より創始された行事で、擔任の先生が塾長として訓練の中心となり、教室主任の先生が顧問となつて、二人の先生が師となり親となつて師弟一如の生活がつゞけられるのである。以下其の生活の詳細を生活記録（昭和十四年十月八日——十四日）に辿つて見よう。

宿泊生活訓練實施要項

人物鍊成の行事教育

名稱 敬身健兒鍊成會

宿泊生 當教室兒童第五學年ノ兒童一學級ヲ單位トス

宿泊所 當教室敬身堂

訓練期 春秋ノ二期ニ行ヒ一週間ヲ以テ訓練期ト定ム(日曜日午後ヨリ土曜日午後マデ) 自昭和十四年十月八日至昭和十四年

十月十四日

趣旨 師弟起居ヲ共ニシ整的訓練ヲ施スコトニヨリ兒童ノ心身ヲ鍛鍊シ興亞日本ノ有爲ナル少年學徒トシテノ生活態度ヲ樹

立セシメンコトヲ期ス

指導者 學級擔任並教室主任

臨時他職員ノ應援ヲ受クルコトアリ

行事並生活概要

1、開所式(十月八日午後四時)

同日午後三時荷物ヲ持チ敬身堂ニ參集四時マデニ一切ノ整頓ヲ了ス

イ、全職員兒童着座 靜坐十分間

ロ、宮城遙拜

ハ、御製拜誦

ニ、訓示

ホ、誓詞朗讀

ヘ、生活上ノ諸注意

ト、夕食 全職員兒童共ニ。六時マデ座談後毎日ノ生活様式ヲトル

2、日程

起床 午前六時、直チニ冷水摩擦、洗面

朝禮 宮城遙拜、勅語奉讀、兩親ヘノ挨拶、午前六時三十分

朝ノ運動 ラヂオ體操、驅足

清掃及食事用意 食事當番ハ清掃ヲ省キ食事準備(約二十分間)

靜坐 午前六時五十分——同七時

朝食 午前七時 食器ハ各自整頓、共同食器ハ小使ガ運搬

登校 午前七時四十分

晝食 正午、食事ハ小使ガ運搬

作業並運動 午後三時——同四時(宿舍清掃並檢温)

入浴 午後四時——同五時

夕食 午後五時 食事當番ハ準備後始末共ニ之ヲ行フ

團樂

自習 午後六時——同六時五十分

午後七時——同七時五十分

靜坐並講說 午後七時五十分——同八時二十分

一日ノ反省 反省ノ詞朗讀(床ノ上ニ坐シ就床時ニ之ヲ行フ)

日記 所定ノモノ

齒磨

人物鍊成の行事教育

人物鍊成の行事教育

就 床 午後八時三十分(両親・友人・先生への挨拶)

3、閉所式(十月十四日午後一時)

同日午前十一時ヨリ正午マデノ間ニ荷物一切ノ整理歸宅準備

イ、全職員児童着座 静坐十分間

ロ、宮城遙拜

ハ、御製拜誦

ニ、訓 示

ホ、茶話會

ヘ、解 散 午後二時頃

持物

一、學習用品 一切

二、洗面及ビ入浴用品 手拭二(一ハ冷水摩擦用) 石鹼一、齒磨粉一、揚子一、コップ一

三、食器類 箸及箸箱一、ふきん一

四、着替類 シャツ一、パンツ一、靴下一

五、寢 具 敷布團一、掛布團一、枕一、寢衣一、腹巻一

六、其ノ他 座布團一、冷水摩擦用手拭一、紙、ハンカチ等

注意 1、簡素な生活ヲ營マシメルコトガ趣旨ノ一ツデアリマスカラ必要以外ノ品ハ持參セシメザルヤウ注意サレタシ

2、全テノ所持品ニハ必ズ記名シ置カレタシ

經費 食物ハ本校寄宿舎ニ依頼スル爲一日食費約四十錢ノ割ナル故、茶話會費、借入謝禮等ヲ合メ期間中三圓五十錢迄ニ

テ可(終了後清算シテ徴集)

晨 旦 誓 詞 (一同朗誦)

私ハ、教育勸諭ノ御教ヲヨク守ツテ自分ノ務ヲ果シ、興亞日本ノ良キ臣民タランコトヲ誓ヒマス。

食 前 感 謝 (一同朗誦)

一、コノ食物ガコ、ニ運バレルマデニハ、天皇陛下ノ御恩、天地ノ神々ノ御恩、父母ノ御恩、其ノ他多クノ物ト人ノ御恩ニヨル

コトヲ思ツテ感謝イタシマス。

二、私共ノ行ハマダ十分デハアリマセンノニ、カウシタ立派ナ食物ヲ頂クコトヲ感謝イタシマス。

三、此ノ食物ヲ食リ食ツタリ、好キ嫌ヒハイタシマセン。

四、此ノ食物ハ私共ノ心ト身ヲ立派ニ鍊リ鍛ヘルタメノ良薬デアルト心得、一粒ヲモ無駄ニシナイヤウニ、ヨクカンデ頂キマ

ス。

五、此ノ食物ヲ頂キマスコトニヨツテ、立派ナ子供トナリ、皇運ヲ扶翼シ奉ルコトヲ誓ヒマス。

指導者「頂キマセウ」 兒童「頂キマス」

反 省 ノ 詞 (就寢前一同朗誦)

1、宿泊生活開始以前の準備

(イ) 保護者會 この行事の趣旨及び方法の十分の理解と、所持品の準備のため十日程前に保護者會を開く。

(ロ) 兒童調査書 各兒童に對する特別注意すべき點、家庭よりの希望事項等の調査書をとる。

例 自宅では夜分一時か二時頃に起しまして便所へ行かせて居ります。近頃では自分で起きる習慣が大分ついてきましたが、まだ十分さは申せません。何卒よろしくお取計らひの程御願申上げます。

人物鍊成の行事教育

(ハ) 児童の努力點自覺 児童に趣旨、方法を徹底させることは勿論、児童自身の反省によつてこの期間中の努力點を決定、自覺させた。――紙に書いて出させる。

- 1、我儘を抑え立派な協同生活の出来る人になりたい……………一三人
 - 2、偏食を直したい……………一二
 - 8、行儀よくなりたい……………一一
 - 4、規律正しく生活する習慣を養ひたい……………九
 - 5、家庭學習の要領を會得したい……………七
 - 6、整頓をよくする習慣を養ひたい……………六
 - 7、自分のことは自分でする習慣を養ひたい……………四
 - 8、早寝早起の習慣を養ひたい……………三
- 等であつて、かくして児童自身の意識にのぼすことは生活上誠に重要な事である。

(ニ) 宿舍の清掃及び設備 明日から愈々こゝで泊るのだと思ふと児童も先生も一生懸命。もう今日から訓練生活に入つたも同様である。拂ふ者、掃く者、拭く者、運ぶ者、我等の敬身堂は見る／＼中に立派な宿泊道場になる。周囲の鴨居に大きな名札が貼られる。名札の下に坐つて「僕の場合はこゝだ」とさも嬉しさう。

(ホ) 荷物持参 開設當日午後三時荷物全部運び込まれる。四時少し前所定の場所に夫々の所持品の整頓を終る。誰を見てもほんたうにいそ／＼と働いてゐる。微笑ましい風景。

2、開 所 式

定刻午後四時、全職員、保護者會代表者、宿泊児童及びその保護者、着座。實施要項記載の次第で開所式を舉行。静坐の後、宮城遙拜、御製拜誦、その聲にも緊張の様子があり／＼と窺はれる。主任の訓示の後、保護者會代表の方の激勵の辭がある。これが終ると児童代表の宣誓朗讀

「私達敬身健兒二十二名が本日ヨリ向フ一週間、私達ノ一番大切ナコノ敬身堂デ、先生ト起居ヲ共ニシテ、心身ヲ鍛鍊スルニ當リ、規律ヲヨク守リ、何事モ自分ノ事ハ自分デ行ヒ、我儘ヲ捨テ、立派ナ協同生活ヲ送り、ヨイ日本ノ小國民トナルタメニコノ一週間ヲ十分ニ意義アラシメンコトヲ誓ヒマス。」

生活上の諸注意が與へられて式は終る。こゝで保護者は帰宅し、午後五時全職員と初めての夕食をとる。

3、一日の生活

(イ) 起床 (午前六時)

「ドーン、ドーン」と勇ましく響き渡る太鼓の音と共にむつくり床上に起上る。起きるが早いか、昨夜就床の際枕許に用意して置いた絞リタオルで、首から腕、腕から胸、胸から背、背から脚と「一二、一二」の掛聲諸共全身の薄紅くなるまで摩擦をして、心身共に爽快。

冷水摩擦を止めると一齊に夜具を取りかたづけて洗面所へ行く。

(ロ) 朝 禮

太鼓の合圖で運動場に東を向いて整列。秀嶺如意嶽の山上に昇つた朝日が、實に清く爽やかだ。校庭には我等

の椈の大木が、しっかりと大地に根を張つて雄々しく朝の澄み切つた空気の中に聳え立つてゐる。

「禮！」一同度み畏みて遙か宮城に向つて額き奉る。海行かば水漬く屍山行かば草むす屍大君に、全身全靈を以て歸一し奉る大和男の子の赤心を籠めて、今日一日の努力を誓ひ奉る。

續いて教育勅語奉讀。一語々々、聖旨を身に體しつゝ力を籠めて朗々と拜誦し奉る聲が、興亞の響を載せて朝の空気を何處までも何處までも揺り動かして擴がつて行く。

終つて朝の誓（實施要項参照）を齊唱し、大君の尊き御旨に對へ奉らんことを期す。

次は各自家の在る方角に向つて兩親へ朝の挨拶をする。

一週間全く其の傍を離れてゐるとは言へ、我等の心は常に父母の許になければならぬ。必ずや今頃は兩親も家に在つて暫く見ぬ我が子の身を思つて「恙なかれ」と祈つて居つて下さることであらう。

(ハ) 朝の運動

以上で朝の諸禮を終り、次はラヂオ體操、澄み切つた早朝の空気を胸一杯に吸込みながら、思ひ切り手足を伸ばして行ふ朝の運動は、實に爽快である。終つて駈足にて校庭を何回か大きく廻る。

(ニ) 清掃及び食事用意（午前六時半）

朝の運動が終るや、直ちに食事當番（六名）は食事の用意に取掛り、他の者は、一齊に宿舍の清掃を行ふ。

炊事は全部師範學校寄宿舎の炊事部に依頼し、師範の寄宿生と同一の物を食することになつてゐるので、食事當番は、炊事部から五つの飯櫃を運ぶことや、茶及び食卓の準備等を行ひ、副食物は全部小使に炊事部から運ん

で貰ふ。

(ホ) 朝の静坐（午前六時五十分）

清掃が済んで朝食の用意が終ると、全員食卓の前に約一米離れて一齊に瞑目、姿勢を正して静坐を始める。廣い敬身堂の中で朝早く坐るのであるから非常に緊張した氣分で、静寂其のものゝ中に溶け込み、無念無想静坐三味の境涯に浸り切ることが出来る。

(ヘ) 朝食（午前七時）

静坐が終ると、「食前感謝！」の合圖で、感謝の詞（實施要項参照）を一齊に唱へ、教師の「頂きませう！」で「頂きます。」と言つて、食事を始める、食事訓練も宿泊生活中に於ける重要な訓練事項の一つなので、次の様なことをよく守らせる。

- 一、好き嫌ひを言はぬ。
- 二、よく嚙んで食べる。
- 三、口一杯に頬張らぬ。
- 四、食事中大きな聲でしゃべらぬ。
- 五、食物をこぼさぬ。
- 六、茶碗や箸を置く時には静かに置く。

食事の大體終つた頃、「静坐！」で未だ終つてゐない者も箸を置いて一齊に瞑目、暫くして「御馳走さま！」とい

ふ教師の合圖で、一同「御馳走さま！」まだ食事の終つてゐない者は其の儘食事を続け、終つた者は食器を各自の食器函に入れて流し元へ行き、丁寧に洗つて宿舍へ持ち帰り、定められたる場所に整頓しておく。共同食器類は、小使が洗つて炊事場へ持つて行つて呉れ、何彼につけて小使の世話になる事が非常に多いので、児童の小使に對する感謝の念が非常に深まつて行く様だ。と共に、「僕は生れて初めて自分の茶碗や箸を自分の手で洗つた。」等と言ひながら、自分の事を自分でする喜びを深く感じ又今更の様に母や女中の有難さをしみじみと感じて居る者も相當多い。

食事當番は、茶瓶食卓等の後仕末をしておく。

(ト) 登校 (午前七時四十分)

食事の後仕末が終ると、暫く自由時間。色々と友達と楽しく語り合つたり、學用品を揃へたりする。七時四十分少し前になると學用品を各自机上に置いて静坐、親代りの教師から「行つていらつしやい」と送られると「行つてまいります」と勇んで登校し、教室へ、學用品を置いて、運動場で元氣に始業時刻まで遊戯をする。

(チ) 午前の授業 (午前八時)

平常通り。

(リ) 晝食 (正午)

宿泊中は、晝食も毎日宿舍へ歸つて一緒に食べることになつてゐるので、宿舍へ戻つて來た者から、自分の食器を食卓に並べて靜かに瞑目して待つてゐる。皆が揃つて心が落着くと食前感謝・後始末等一切朝食の時と同じ

に食事をする。唯時間が無くて食事當番が炊事部まで飯櫃を貰ひに行くことが出来ないのので、總べての物を小使が運んでおいて呉れる。

(ヌ) 午後の授業 (午後零時四十五分)

平常通り。

(ル) 検温、運動及び作業 (午後四時迄)

教室から歸つて來ると、學用品を整頓しておいてすぐに各自體温の測定を行ふ。其の結果は、毎日體温表に記入し、若し異常のある場合は直ちに教師に申出ることになつてゐる。それが済むと校庭に出て楽しく運動。平常なれば帰宅後の友人は極めて少數のだが、宿泊中は同級生全部に先生もはいつて貰つて實に賑やかだ。教師と共に野球や蹴壘球をしたり、學校の禪を締めて校庭の土俵場で相撲大會を開いたりする。

又兒童昇降のコンクリート作業、土俵や花壇の手入等の貴い奉仕に快い汗を流したり、自分のハンカチ・靴下・シャツ等の洗濯を自ら行つたりして、動くことの尊さ、母や女中の有難さをしみじみと體驗する。

而して、運動や作業の終つた後では必ず含嗽をすることを忘れないで實行する。

(ヲ) 入浴 (午後四時)

運動や作業を四時で切上げて、全員揃つて師範學校寄宿舎の浴場へ入浴に行く。先生も一緒に、全員ぐるつと大きな一つの輪になり、一齊にお互の背中を流し合ふ朗景等も實に微笑ましく又尊いものだ。「裸と裸で……」といふやうな言葉も今更の様に強く思ひ出されて、誠に感慨の深いものがある。

(ワ) 夕食 (午後五時)

當番の任務・食事作法等朝食の時と同じ。

日々の規律生活によつて身體の調子よくなつた兒童の、食へること、食へること……。教師は常に注意してゐて其の過食を誡めねばならぬ程だ。

尚宿泊中の炊事は既述の通り一切師範學校寄宿舎の炊事部に依頼したので、其の献立も全部寄宿舎の炊事係が立案したものである。

(カ) 自由時間 (午後六時まで)

夕食が済むと、午後六時の自習開始まで全くの自由時間。家庭への通信を書く者、雑誌や童話の書物を読む者腕相撲をする者、友人と何か話合つて笑ひ興じてゐる者、教師の出す「考へ物」に一生懸命首をひねつてゐる者等々々、實に伸び／＼とした數刻だ。

(ヨ) 自習 (午後六時)

「ドーン。」と太鼓が鳴り渡るや、今迄の話し聲はピタリと止み、各自學習用品を取り出して來て熱心に自習を始める。先づ今日の復習、續いて明日の豫習。自分で解らぬ所は靜かに友に聞いたり教師に質したりして、ずん／＼と捗つて行く。

午後六時五十分、一旦休憩。午後七時再び開始、此の休憩時間に、煎餅二三枚位の極く軽いお菓子とお茶を與へる。兒童の喜ぶこと限り無し。

斯うして午後七時五十分まで自習が續けられるのだが、其の間、教師は時々見廻つて、兒童の質疑に答へ、或は自習の要領の悪い者には其の指導を行ふ。

(タ) 夜の靜坐 (午後七時五十分)

自習が終ると約十分間靜坐。朝の靜坐と同様、臍下丹田に心を落着けて精神を練る。

(レ) 講説 (午後八時)

靜坐に續いて約二十分間教師の講説を聴く。講説と言っても四角張つたお説教式のものばかりでは無く、乃木大將の話や時局談話。或は支那事變に活躍せる皇軍勇士の武勇談や銃後國民の憂國美談等もあつて、兒童達は毎日此の時間の來るのを非常な楽しみに待つてゐるのであつた。

(ツ) 一日の反省 (午後八時二十分)

愈々一日の行事が終つて段々と就床の時刻が近づいて來る。今日一日の自分の生活を振り返つて明日へのスタートにせねばならぬ。兒童は各自所定の日記を取出して來て一齊に日記をつけ始める。

(ッ) 夜の齒磨

日記をつけ終つたものから洗面所へ行つて夜の齒磨を行ふ。朝の冷水摩擦、學校から歸つた時の含嗽、就寝前の齒磨、此の三つは我が第二教室全兒童の必ず毎日實行せねばならぬ特別勵行事項なのだ。習、性となつて、今ではもう齒を磨かすにはどうしても床へはいれないまでになつてゐる。

(ネ) 就床 (午後八時三十分)

人物錬成の行事教育

齒磨の済んだ者から、宿舍へ歸つて定められた位置に自分の床を敷く。床が敷けると寝衣に着かへて床の上に静かに床に入る、大勢一緒に寝る場合はよくやかましく騒ぎ易いものだが、當教室児童は、尋常二年の時から毎年臨海生活で訓練されてゐるので、床中に入つてからは決して騒がない。二三分もすればもう幽な鼾が聞え始めて、次々と健康な眠の世界へはいつて行く。日々是好日安らかに眠つてゐる児童の顔は、どれを見ても純真だ。教師は自分の寝る時と夜中とは、必ず巡視をして、寝冷えせぬ様に蒲團を掛けてやり、又夜尿の虞ある者は之を起してやつて便所へ行かす。

4、保護者の參觀

保護者には、宿泊生活開始以前に於て、其の趣旨及び方法を詳しく説明し、開始後は全然児童を學校に預り面會も謝絶して來たのであるが、宿泊生活訓練の目標が兒童日常生活の全般に涉り、従つて其の中には家庭生活の指導が多分に含まれて居るので、其の趣旨の徹底を圖り、宿泊終了後の永續効果を期するには、どうしても家庭との連絡をより密にせねばならぬ。それが爲には、是非一度宿泊生活訓練の實相を保護者に參觀せしめる必要がある。

斯かる見地により、宿泊生活終了も終に近い或一夜、宿泊兒童の保護者全部へ、「來る十三日の夕刻是非參觀に來て貰ひたい」との通知を出した。さらでだに我が子の顔を見たがつてゐた親達は、直ちに大喜びで定刻前より學校へ出かけて來たのである。而して午後五時、太鼓の合圖と共に兒童の宿舍に入り、食事の用意、静坐・食

前感謝・自分で御飯をついでの食事・食器洗・食器の整頓と次々規律正しく然も行儀よく行動して行く我が子の姿を、實に感慨深げに、中には眼に涙をさへ浮べてじつと見入るのであつた。自由時間に入るや、暫く其の眞剣なる學習振りを參觀し、やがて揃つて別室へ集り、教師より實際生活の説明・今日までの經過・兒童が家庭へ歸つてからの希望等を聞き、再び宿舍へ歸つて就寝までの様子をつぶさに參觀し我が子の全靈を傾けての緊張せる生活振りに、今更の如く驚異と満足とを感じて愛し兒の、圓かなる眠を祈りつゝ歸途に於てあつた。

5、閉所式

閉所式の日、土曜日なので學校の授業は午前中で終。最後の晝食を感慨深く済すや、少憩の後宿舍にある一切の荷物の整理をし、いつにても家庭に持ち歸れるやうに準備しておく。

それが終ると、一週間無事に自分達を過させて呉れた宿舍に對して深い感謝の念を抱きつゝ隅から隅まで念を入れて一心に大掃除。

定刻一時迄には完全に總ての作業を終り、愈々一時から閉所式を舉行する。(式次第實施要項参照)

茶菓をつまみつゝ、色々な思ひ出を語り合つて、楽しい最後の團欒に名残を惜しむ。

6、解散 午後二時半

夜具等の大きな荷物は、午後二時半頃より引取りに來るやう家庭へ通知してあるので、閉所式が終ると次々に受取りに來る。

7、實施結果の反省

人物錬成の行事教育

一週間の宿泊生活訓練は斯くして終つたのであるが、扱て次には、其の結果は如何なる効果齎したか、又児童や保護者は如何なる感想を抱いてゐるか、之が我々の是非知らねばならぬ重要事項である。

それを知る爲に、児童及び其の保護者に回答を求め、それを整理してみた所大體次の様な結果を得た。

(イ) 児童の回答 (十例を示す)

○宿泊生活の一週間を振り返つてみると、僕の一生にとつて誠に記念すべき尊い思ひ出の數々がある。最初は多少不安な心、さびしい氣持もあつたが、先生始め友達と一つの大家族のやうな生活することによつて、お互の人格と人格がびつたり觸れ合つて、言ふに言へない親しさ力強さを感じた。

○其の後組全體の者がぐんとよくなつた。食事作法、勉強のしぶり、落ちてゐる紙屑拾ひ等に、皆が細かい點までもよく氣をつけてゐる。

○組としても、皆や僕は、靜坐のほんたうのねうちがわかつた様で、其の後ずつと立派な靜坐が出来るやうになつた。

○自分のことは全部自分でしたので、今まで自分が非常に我がまゝであつたことを感じ、家へ歸つてからも、出来るだけ色々な事を自分でするやうに努めてゐる。

○誰も自分のことをかまってくれないので、道具の始末や勉強が、きち／＼と出来て大變よいくせがついた。いつまでも續けて行きたいと思つてゐる。

○宿泊生活をする前は、「もう起きなさいよ。」と言はれても、なか／＼起きなかつたし、よう／＼のことで起

きても、冷水摩擦がなか／＼しにくかつたが、其の後は六時になると直ぐとび起きて、冷水摩擦もしつかり出来るし、學校へ来る迄の色々なことも、どん／＼と早く、然もきちんと出来るやうになつた。

○食物のすき、きらひが大體無くなつて、何でもおいしくいたゞけるやうになつた。今まで食べずぎらひを言つてゐたことを思ひ、今後早く一切の我がまゝを捨て去つて立派な人間になりたいと思ふ。

○歸つてからの復習豫習も、今迄は相當遅くまでかゝつてゐたのが、此の頃は、大變早く終るやうになつたので、父母も大變喜んで居られる。

○父母も、又あんなことをやつてほしいと言つて居られるし、僕も又、もう一度だけでもよいからあのやうなことをやつてほしいと思つてゐる。

尙、宿泊生活開始前に、児童各自に自己の短所を反省させ、宿泊生活中何とかして矯正する様努力させた各自の特別努力事項の反省は次の様であつた。

便宜上、次の符號を以て表示することとする。

○非常に良くなつたと思ふ者

○

○少しは良くなつたがまだ十分でないと思ふ者

△

○殆ど以前と變りの無い者

x

(二) 我が儘を押へ、立派な共同生活の出来る人間になり度いと思つてゐた者

一三名中

○||五名

△||八名

- (二) 偏食を直し度いと思つてゐた者
一二名中 ○||九名 △||二名 ×||一名
- (三) 行儀よくなり度いと思つてゐた者
一名中 ○||五名 △||四名 ×||二名
- (四) 規律正しく生活をする習慣を養ひ度いと思つてゐた者
九名中 ○||七名 △||二名
- (五) 家庭學習の要領を呑込み、學習成績の向上を圖らんと思つてゐた者
七名中 ○||五名 △||一名 ×||一名
- (六) 整頓をよくする習慣を養はんと思つてゐた者
六名中 ○||一名 △||五名
- (七) 自分の事は自分でする習慣を養はんと思つてゐた者
四名中 ○||三名 △||ナシ ×||一名
- (八) 早寝早起の習慣を養はんと思つてゐた者
三名中 ○||三名

(ロ) 保護者の回答

次に保護者の回答中主なるもの五例を抜萃的に掲げる

- 特に家庭にて躰け致しにくい點が、今回の御催により充分子供に徹底致しました様で、大變結構な事だと喜んで居ります。
- 自分の缺點に就いてよく自覺が出来、日常の行爲に努力の色が見られて大變結構です。あらゆる事柄に、あの一週間のことが反省の資料となつて、本人の心を鞭打つて居ります。
- 子供の生活に一つの新时期が劃された様に思はれます。
- 親の許を離れて、一人で何も彼もせねばならなかつたので、自分の足らぬ所や我が儘な點をはつきりと掴むことが出来て、精神的に非常な強い影響を受けた様です。
- 訓練の結果を生かして行く爲には、先づ家庭から改造して行かねばならぬと存じます。此の點家庭と致しましても非常に大きな教を受けました。本人と致しましては、從來なか／＼實行出来なかつたことも、一言注意を與へれば直ちに實行する様になり、大變従順になりましたので誠に大きな收穫があつたと存じます。再三の御訓練を御願ひ致します。
- (其の他日常生活に於ける細かい點につき多くの好影響を及ぼした報告がたくさんあるが省略する。)

(ハ) 結び

以上の兒童及び保護者の回答を見ても明瞭なるが如く、今回實施せる宿泊生活訓練は、兒童日常生活のあらゆる方面に對して相當の好結果を齎せるものと考へられ、今更の様に生活による生活訓練の必要を痛感する次第である。教育に於て最も重要な位置を占むるものは言ふまでもなく教育者その人である。宿泊生活訓練を一契機

として、どこまでも師弟一如同的信念を以て兒童の人物鍊成に精進せねばならない。

以上人物鍊成のためになされねばならぬ行事教育について、紙數の關係上十分とは言へないが意のある所を述べ終つた。縷々述べ來つたやうに教授・訓練・養護は決して分離さるべきものでなく常に心身一體、知・徳・體一體の綜合的教育が施されねばならない。教授・訓練・養護の區分の下に、三者夫々獨自の存在が高調されると、不知不識の間に主知的教育の弊に陥つてしまふことになる。

吾々の教育に於ては「各教科並ニ科目ハ各々其ノ特色ヲ發揮セシムルト共ニ、相互關聯ヲ緊密ナラシメテ之ヲ國民鍊成ノ一途ニ歸セシムル」のであるが、この相互關聯の大きな分擔を、行事が持つとするならば、行事教育の任務の重大を今更のやうに考へさせられる。とに角行事のもつ大きな意義は、綜合・統一・關聯等による。行事はやゝともすれば孤立し勝ちのものを綜合する役、又は相互の連絡係として活躍させねばならない。團體的な訓練、綜合統一的な任務は行事教育の生命であると言はねばならない。

然るが故に十分なる教育的意圖をもつて吾々の日々月々の行事が進められることが、教育の實を擧げること、延いては皇國民の鍊成になるのである。

然しながらこゝに一考を要する問題がある。我々は行事といふ異常なる生活形式をとるにあらざれば訓練は出來ない、鍊成は出來ないと思つてはならない。禪堂に入らねば修養が出來ないと思つてはならない。麻生氏が新體制確立

の第一回準備會に於ける首相の聲明に對して、いまま少し強力な言葉で呼びかけて貰はねば青年が奮起しないだらう、と心配されたに對し、松岡外相は、氣持はよく判るが、近頃の人心は強い言葉に麻痺し過ぎてゐる云々と言つてゐられる。

は異常に馴れると、日常に興味を失ふに至る。日常生活の深化、即ち日常生活を純化し、深化し、組織化してその内容を充實して行くことが出来るならば、之又立派な修練と云はねばならない。従つて行事といふ異常生活形式によらざれば鍊成出來ない等の偏見に陥ることなきやう平凡な生活形式の中に於て落着いて鍊磨育成することが望ましいことである。

如何なる教育論に於ても、結論に於ては常に教師論となり、教育者の人格が最後の鍵となる。所詮教育の第一義は方法ではない。制度の中の消極的安住者として、唯盲信的に、妥協的に、運命的にその日その日を送り迎へてゐるやうな教育者では、博大なる知識、旺盛なる氣力、強靱なる體力を有し、無窮の皇運を扶翼し、皇基を振基し奉る皇國民の鍊成は、全くの夢と化し去らざるを得ない。時局眞に重大なる折、國家奉仕を第一義とする教育の新體制を目指した橋田文相の文政の根本方針の中に「師道の昂揚」を掲げたる又宜なる哉である。どこまでも「教育ノ任ニ在ル者ニ對シテ下シ給ヘル勅語」の御旨に副ひ奉るべく教育の根本事たる師徳の涵養に力めねばならない。

405
381

昭和十五年九月二十三日 印刷
昭和十五年九月二十七日 發行

(非賣品)

編輯兼發行者

京都府師範學校附屬小學第二教室
小川忠治

發行所

京都府師範學校附屬小學校
第二教室
電話西陣④一六七二番

印刷所

京都市大宮通寺之内北入
丹茂藤原次郎
電話西陣④一八八六番

終

